

大田区生活状況に関する調査  
報 告 書

令和3年3月

大 田 区



## はじめに

ひきこもりは、主に若者の問題と捉えられてきたが、ひきこもりの長期化により、近年は若年層だけでなく幅広い年代の問題へと拡大し、ひきこもりに関する課題は、教育、福祉、就労、医療など多岐にわたっている。

内閣府が平成 27 年度に満 15 歳から満 39 歳までの者を対象に実施した「若者の生活に関する調査」では、全国でひきこもりの若者の推計値は約 54 万 1 千人とされ、ひきこもりの長期化傾向がうかがわれた。また、内閣府が平成 30 年度に実施した満 40 歳から満 64 歳までの者を対象とした「生活状況に関する調査」では、ひきこもり状態にある者の全国の推計値は 61 万 3 千人であり、ひきこもりはどの年齢層からでも多様なきっかけでなりうるものと報告された。

大田区では、「おおた重点プログラム」において、誰もが自分らしく健康で生きがいをもって暮らせるまちを目指し、ひきこもりの方への支援の充実を計画事業に位置づけている。また、「おおた健康プラン（第三次）」においても、ひきこもりの方や家族が孤立しない地域の実現を目指し、ひきこもりの方への支援について重点的に取り組む事業としている。

こうした状況を踏まえ、本調査は、大田区内に居住する満 15 歳から満 64 歳までの者及びその同居者を対象に、ひきこもりに該当する者の人数やひきこもりの状況になったきっかけ、必要とする支援など、大田区のひきこもりの方への支援の在り方を検討するための基礎データを得ることを目的として、内閣府の調査を参考に実施した。

令和 3 年 3 月

# 目次

はじめに

<b>1 調査概要</b> .....	<b>1</b>
1-1 目的 .....	1
1-2 調査方法.....	1
1-3 回収状況.....	2
<b>2 定義</b> .....	<b>4</b>
2-1 広義のひきこもり群（本人票） .....	4
2-2 ひきこもり親和群（本人票） .....	5
2-3 一般群（本人票） .....	6
2-4 過去に広義のひきこもり群であったと思われる人の群（本人票） .....	6
2-5 ひきこもり潜在群（同居人票） .....	7
2-6 同居人一般群（同居人票） .....	8
2-7 同居人からみた過去に広義のひきこもり群であったと思われる人の群（同居人票） .....	9
<b>3 調査結果</b> .....	<b>10</b>
3-1 本人票 .....	10
3-2 同居人票.....	119
<b>4 まとめ</b> .....	<b>137</b>
<b>5 調査票</b> .....	<b>139</b>
5-1 本人票 .....	139
5-2 同居人票.....	153

# 1 調査概要

## 1-1 目的

区民の生活状況を把握し、今後の大田区精神保健福祉事業の推進に向けて、ひきこもり等に対する支援の在り方を検討するための基礎資料作成を目的とした。

## 1-2 調査方法

調査対象 ・調査数	大田区在住の満 15 歳から満 64 歳までの方から無作為抽出した 5,000 人 およびその同居人（外国籍の方は除く）（注 1）
調査方法	調査票を郵送配布し、郵送及びインターネットにより回収
調査期間	令和 2 年 12 月 1 日（火）～12 月 28 日（月）

注 1：下記表のとおり、大田区内を特別出張所の管轄ごとに 4 地区に分けて、令和 2 年 10 月 1 日時点の地区ごとの人口規模に応じて抽出人数を比例配分し、無作為抽出した。

大森地区	調布地区	蒲田地区	糎谷・羽田地区
（特別出張所管轄） 池上 新井宿 馬込 入新井 大森西	（特別出張所管轄） 久が原 雪谷 鷺の木 田園調布 嶺町 千束	（特別出張所管轄） 蒲田東 矢口 蒲田西 六郷	（特別出張所管轄） 大森東 羽田 糎谷

	地区別人口	配分比例	抽出人数
大森地区	145,478	31.0%	1,551
調布地区	122,236	26.1%	1,303
蒲田地区	138,420	29.5%	1,476
糎谷・羽田地区	62,823	13.4%	670
合計	468,957	100.0%	5,000

## 1-3 回収状況

### ■ 本人票

回収方法	配布数	回収数	回収率
郵送		963	
インターネット		543	
合計	5,000	1,506	30.1%

### ■ 同居人票

回収方法	配布数	回収数	回収率
郵送		639	
インターネット		215	
合計	5,000	854	17.1%

### ■ 年齢別回収状況

#### ○本人票

	郵送		インターネット		標本数	回収率
	回収数	割合	回収数	割合		
15～19 歳	50	5.2%	29	5.3%	270	29.3%
20～24 歳	52	5.4%	51	9.4%	435	23.7%
25～29 歳	81	8.4%	77	14.2%	567	27.9%
30～34 歳	77	8.0%	75	13.8%	506	30.0%
35～39 歳	100	10.4%	66	12.2%	538	30.9%
40～44 歳	97	10.1%	66	12.2%	533	30.6%
45～49 歳	115	11.9%	79	14.5%	654	29.7%
50～54 歳	124	12.9%	41	7.6%	559	29.5%
55～59 歳	107	11.1%	37	6.8%	471	30.6%
60～64 歳	158	16.4%	22	4.1%	467	38.5%
無回答	2	0.2%	0	0.0%	0	—
合計	963	100.0%	543	100.0%	5,000	30.1%

○同居人票（調査対象者の年齢別に表示）

	郵送		インターネット	
	回収数	割合	回収数	割合
15～19 歳	45	7.0%	18	8.4%
20～24 歳	42	6.6%	5	2.3%
25～29 歳	39	6.1%	20	9.3%
30～34 歳	45	7.0%	41	19.1%
35～39 歳	74	11.6%	25	11.6%
40～44 歳	59	9.2%	34	15.8%
45～49 歳	79	12.4%	34	15.8%
50～54 歳	72	11.3%	20	9.3%
55～59 歳	81	12.7%	10	4.7%
60～64 歳	89	13.9%	8	3.7%
無回答	14	2.2%	0	0.0%
合計	639	100.0%	215	100.0%

## 2 定義

### 2-1 広義のひきこもり群（本人票）

内閣府の調査を参照し、次の設問から「広義のひきこもり群」（以下、「ひきこもり群」という。）について抽出を行った。

「Q21 ふだんどのくらい外出しますか。」との問いについて、下記の5～8に当てはまる方であって、「Q22 現在の状態となってどのくらい経ちますか。」との問いについて6ヶ月以上と回答した方

- 5 ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のみときだけ外出する
- 6 ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
- 7 自室からは出るが、家からは出ない
- 8 自室からほとんど出ない

ただし、次のア～エのいずれかに該当する方はひきこもりには該当しない方として除く。

ア 下記の①～③のいずれかに該当する方

- ① 「Q14 あなたの現在の就労・就学等の状況についてお答えください。」との問いに、「1 勤めている（正社員）」、「2 勤めている（契約社員、派遣社員またはパート、アルバイト（学生のアルバイトは除く）」又は「3 自営業・自由業」を選択した方
- ② 「Q19 ふだんご自宅にいるときに、よくしていることすべてに○をつけてください。」との問いに、「7 仕事をする」を選択した方
- ③ 「Q26 現在の状態になったきっかけは何ですか。」との問いに、「16 その他（具体的に： ）」を選択し、（ ）に自宅で仕事をしている旨を記入した方

イ 下記の①～③のいずれかに該当する方で、「Q25 最近6ヶ月間に家族以外の人と会話しましたか。」の問いに、「1 よく会話した」又は「2 ときどき会話した」を選択した方

- ① 「Q14 あなたの現在の就労・就学等の状況についてお答えください。」との問いに、「6 専業主婦・主夫」又は「7 家事手伝い」を選択した方
- ② 「Q19 ふだんご自宅にいるときに、よくしていることすべてに○をつけてください。」との問いに、「8 家事をする」、「9 育児をする」又は「10 介護・看護をする」を選択した方
- ③ 「Q26 現在の状態になったきっかけは何ですか。」との問いに、「10 妊娠したこと」若しくは「12 介護・看護を担うことになったこと」を選択した方、又は「16 その他（具体的に： ）」を選択し、（ ）に出産・育児をしている旨を記入した方

ウ 「Q26 現在の状態になったきっかけは何ですか。」との問いに、「9 病気（病名： ）」を選択し、（ ）に身体的病気を記入した方

エ 「Q26 現在の状態になったきっかけは何ですか。」との問いに、「13 新型コロナウイルスに関すること（具体的に： ）」を選択し、（ ）に「オンライン授業」「外出自粛（緊急事態宣言）」等、明らかに新型コロナウイルスに関する自粛を理由として記入した方

⇒**該当者 20人**（有効回収数に占める割合 1.33%）

### <ひきこもり群の推計値>

該当者 20 人のうち、Q21 で 6、7 又は 8 に該当する方を「狭義のひきこもり」、Q21 で 5 に該当する方を「準ひきこもり」とし、「狭義のひきこもり」と「準ひきこもり」の合計を「広義のひきこもり」とする。

なお、Q25 で家族以外の人との会話の頻度が少なく、Q14、Q19、Q26 の回答に「専業主婦・主夫」、「家事手伝い」「家事をする、育児をする」等を選択又は記入した方はひきこもり群 20 人中 7 人であった。

大田区住民基本台帳（令和 2 年 10 月 1 日時点）によれば、満 15～64 歳人口は 468,957 人となっており、ひきこもり群の推計値は以下の計算により 6,228 人となる。

有効回収数に占める割合（ひきこもり群の該当人数：20 人/有効回収数：1,506 人）

$$\times \text{満 15～64 歳人口：468,957 人} = \text{推計値：6,228 人}$$

	〔 該当人数 (人) 〕	〔 有効回収数に 占める割合 (%) 〕	〔 大田区の推計数 (人) 〕	
ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する	10	0.66	3,114	準ひきこもり 3,114人
ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	10	0.66	3,114	
自室からは出るが、家からは出ない	0	0	0	狭義のひきこもり 3,114人
自室からほとんど出ない	0	0	0	
計	20	1.33	6,228人	広義のひきこもり 6,228人

注) 単位未満は四捨五入してあるため、合計の数字と内訳の計が一致しない場合がある。

## 2-2 ひきこもり親和群（本人票）

内閣府の調査を参照し、「ひきこもりを共感・理解し、ともすると閉じこもりたいと思うことがある人たち」を「ひきこもり親和群」（以下、「親和群」という。）として、次の設問から抽出を行った。

「Q38 次にあげられたことについて、あなた自身にあてはまるものに○をつけてください。」との問いについて、下記の(13)～(16)の4項目が、すべて「1 はい」又は1項目のみ「2 どちらかといえば、はい」と回答した方から「ひきこもり群」を除いた方

(13) 家や自室に閉じこもっていて、外に出ない人たちの気持ちがわかる

(14) 自分も、家や自室に閉じこもりたいと思うことがある

(15) 嫌な出来事があると、外に出たくなくなる

(16) 理由があるなら、家や自室に閉じこもるのも仕方がないと思う

⇒該当者 80人

## 2-3 一般群（本人票）

本人票の回答者全体から、「2-1 広義のひきこもり群」と「2-2 ひきこもり親和群」を除き「一般群」とした。

⇒該当者 1,406人

## 2-4 過去に広義のひきこもり群であったと思われる人の群（本人票）

内閣府の調査を参照し、以下のように定義する。

本人票「Q33 あなたは今までに6か月以上連続して、以下のような状態になったことはありますか。」との問いについて、下記の1～4に当てはまる方

- 1 ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する
- 2 ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
- 3 自室からは出るが、家からは出ない
- 4 自室からほとんど出ない

ただし、次のア～エのいずれかに該当する方は過去に広義のひきこもり群であったと思われる人の群には該当しない方として除く。

ア 本人票「Q33 あなたは今までに6か月以上連続して、以下のような状態になったことはありますか。」との問いについて、「1 ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」に当てはまる方であって、かつ、同居人票「Q19 調査対象の方は今までに6か月以上連続して、以下のような状態になったことはありますか。」について、「5 1～4のような状態に6か月以上連続してなったことはない」に当てはまる方

イ 本人票「Q36 その状態になったきっかけは何でしたか。」との問いに、「14 その他（具体的に：）」を選択し、（ ）に自宅で仕事をしている旨を記入した方

ウ 本人票「Q36 その状態になったきっかけは何でしたか。」との問いに、「9 病気（病名：）」を選択し、（ ）に身体的病気を記入、又は、「10 妊娠したこと」を選択した方

エ 本人票「Q36 その状態になったきっかけは何でしたか。」との問いに、「13 新型コロナウイルスに関すること（具体的に：）」を選択し、（ ）に「オンライン授業」「外出自粛（緊急事態宣言）」等、明らかに新型コロナウイルスに関する自粛を理由として記入した方

⇒該当者 68人

## 2-5 ひきこもり潜在群（同居人票）

同居人票の有効回収数の中で、調査対象（本人）が「2-1 広義のひきこもり群」に近い状態にある方を「ひきこもり潜在群」として、次の設問から抽出を行った。

「Q9 調査対象の方は、ふだんどのくらい外出しますか。」との問いについて、下記の5～8に当てはまる方であって、「Q10 調査対象の方が、現在の状態となってどのくらい経ちますか。」との問いについて6ヶ月以上と回答した方

- 5 ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する
- 6 ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
- 7 自室からは出るが、家からは出ない
- 8 自室からほとんど出ない

ただし、次のア～エのいずれかに該当する方はひきこもり潜在群には該当しない方として除く。

ア 下記の①～②のいずれかに該当する方

- ① 「Q8 調査対象の方の現在の就労・就学等の状況についてお答えください。」との問いに、「1 勤めている（正社員）」、「2 勤めている（契約社員、派遣社員またはパート、アルバイト（学生のアルバイトは除く）」又は「3 自営業・自由業」を選択した方
- ② 「Q13 調査対象の方が現在の状態になったきっかけは何ですか。」との問いに、「16 その他（具体的に： ）」を選択し、（ ）に自宅で仕事をしている旨を記入した方

イ 下記の①～②のいずれかに該当する方

- ① 「Q8 調査対象の方の現在の就労・就学等の状況についてお答えください。」との問いに、「6 専業主婦・主夫」又は「7 家事手伝い」を選択した方
- ② 「Q13 調査対象の方が現在の状態になったきっかけは何ですか。」との問いに、「10 妊娠したこと」若しくは「12 介護・看護を担うことになったこと」を選択した方、又は「16 その他（具体的に： ）」を選択し、（ ）に出産・育児をしている旨を記入した方

ウ 「Q13 調査対象の方が現在の状態になったきっかけは何ですか。」との問いに、「9 病気（病名： ）」を選択し、（ ）に身体的病気を記入した方

エ 「Q13 調査対象の方が現在の状態になったきっかけは何ですか。」との問いに、「13 新型コロナウイルスに関すること（具体的に： ）」を選択し、（ ）に「オンライン授業」「外出自粛（緊急事態宣言）」等、明らかに新型コロナウイルスに関する自粛を理由として記入した方

⇒**該当者 7人**（有効回収数に占める割合 0.82%）

### <ひきこもり潜在群の推計値>

大田区住民基本台帳（令和2年10月1日時点）によれば、満15～64歳人口は468,957人となっており、ひきこもり潜在群の推計値は以下の計算により3,844人となる。

有効回収数に占める割合（ひきこもり潜在群の該当人数：7人/有効回収数：854人）  
 × 満15～64歳人口：468,957人 = 推計値：3,844人

	〔 該当人数 （人） 〕	〔 有効回収数に 占める割合（％） 〕	〔 大田区の推計数 （人） 〕	
ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する	2	0.23	1,098	準ひきこもり 1,098人
ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	5	0.59	2,746	
自室からは出るが、家からは出ない	0	0	0	狭義のひきこもり 2,746人
自室からほとんど出ない	0	0	0	
計	7	0.82	3,844	広義のひきこもり 3,844人

注）単位未満は四捨五入してあるため、合計の数字と内訳の計が一致しない場合がある。

## 2-6 同居人一般群（同居人票）

同居人票の回答者全体から、「2-5ひきこもり潜在群」を除き「同居人一般群」とした。  
 ⇒該当者 847人

## 2-7 同居人からみた過去に広義のひきこもり群であったと思われる人の群（同居人票）

以下のように定義する。

同居人票「Q19 調査対象の方は今までに6か月以上連続して、以下のような状態になったことはありますか。」との問いについて、下記の1～4に当てはまる方

- 1 ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する
- 2 ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
- 3 自室からは出るが、家からは出ない
- 4 自室からほとんど出ない

ただし、次のア～エのいずれかに該当する方は同居人からみた過去に広義のひきこもり群であったと思われる人の群には該当しない方として除く。

ア 同居人票「Q19 調査対象の方は今までに6か月以上連続して、以下のような状態になったことはありますか。」との問いについて、「1 ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」に当てはまる方であって、かつ、本人票「Q33 あなたは今までに6か月以上連続して、以下のような状態になったことはありますか。」について、「5 1～4のような状態に6か月以上連続してなったことはない」に当てはまる方

イ 同居人票「Q22 調査対象の方がその状態になったきっかけは何でしたか。」との問いに、「14 その他（具体的に：）」を選択し、（ ）に自宅で仕事をしている旨を記入した方

ウ 同居人票「Q22 調査対象の方がその状態になったきっかけは何でしたか。」との問いに、「9 病気（病名：）」を選択し、（ ）に身体的病気を記入、又は、「10 妊娠したこと」を選択した方

エ 同居人票「Q22 調査対象の方がその状態になったきっかけは何でしたか。」との問いに、「13 新型コロナウイルスに関すること（具体的に：）」を選択し、（ ）に「オンライン授業」「外出自粛（緊急事態宣言）」等、明らかに新型コロナウイルスに関する自粛を理由として記入した方

⇒該当者 20人

# 3 調査結果

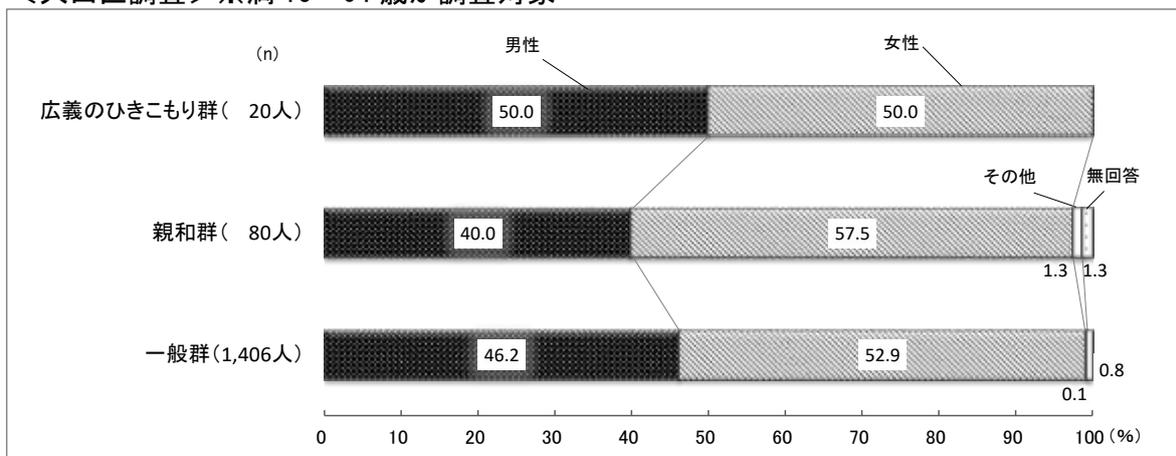
## 3-1 本人票

### ■ 基本属性

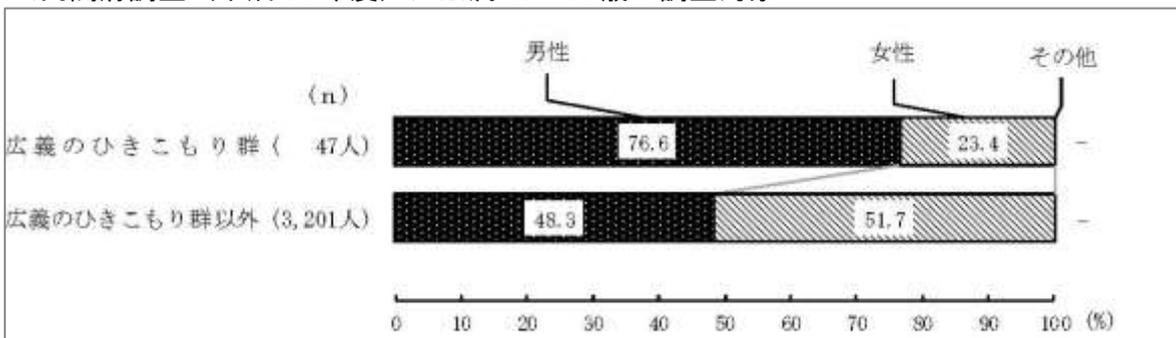
Q1 あなたの性別をお答えください。(単一回答)

- ・大田区のひきこもり群は「女性」と「男性」がいずれも50.0%となっている。
- ・内閣府調査(平成30・27年度)のひきこもり群は「男性」の割合が高い。

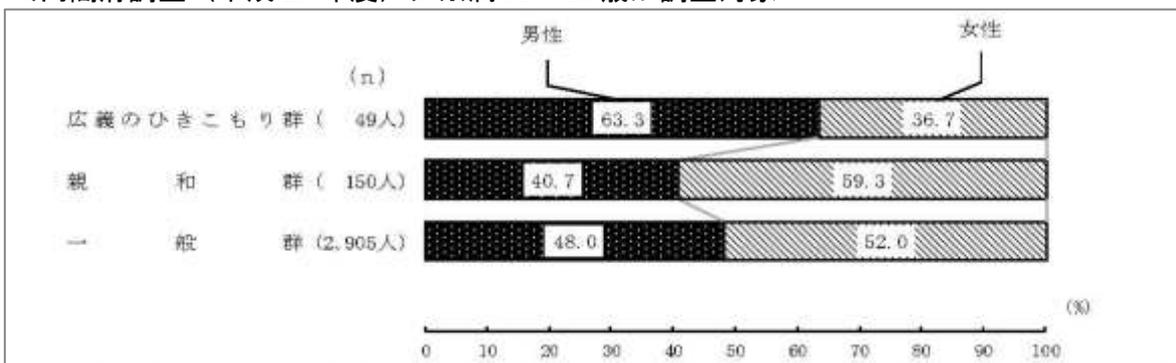
＜大田区調査＞※満15～64歳が調査対象



＜内閣府調査(平成30年度)＞※満40～64歳が調査対象



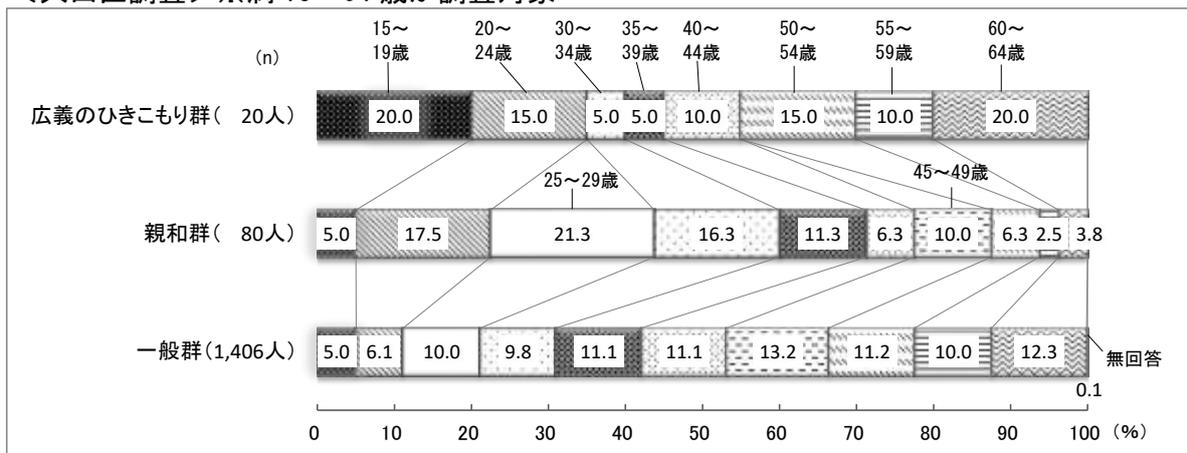
＜内閣府調査(平成27年度)＞※満15～39歳が調査対象



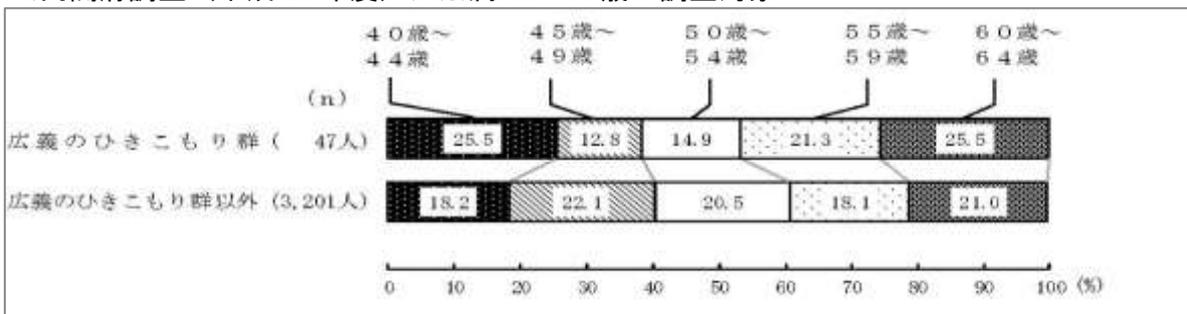
Q2 あなたの年齢をお答えください。(単一回答)

- ・大田区のひきこもり群は「15～19歳」「60～64歳」がそれぞれ20.0%、「20～24歳」「50～54歳」がそれぞれ15.0%となっている。
- ・内閣府調査(平成30年度)のひきこもり群は「40～44歳」「60～64歳」の割合が高く、内閣府調査(平成27年度)では「20～24歳」「25～29歳」の割合が高い。
- ・大田区では、15～20代前半の方が35.0%、50代～60代の方が45%を占めている。若年層と中高年層の割合が高い傾向にある。

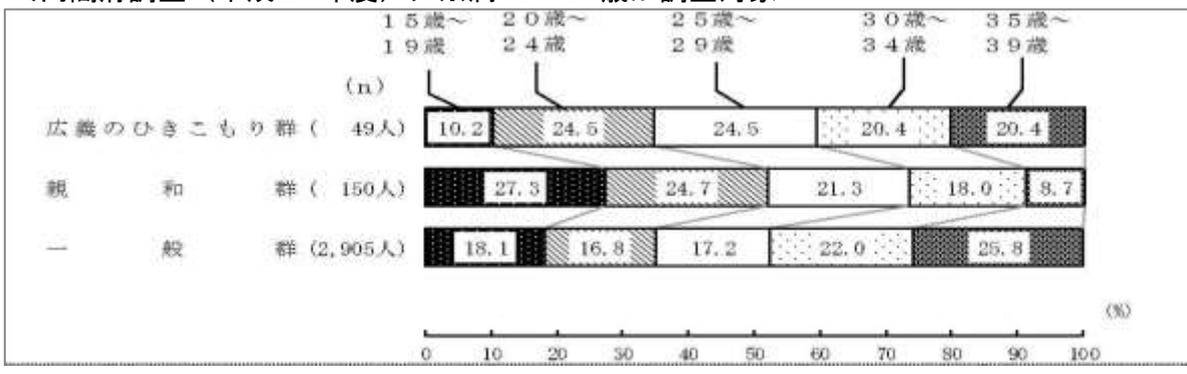
＜大田区調査＞※満15～64歳が調査対象



＜内閣府調査(平成30年度)＞※満40～64歳が調査対象



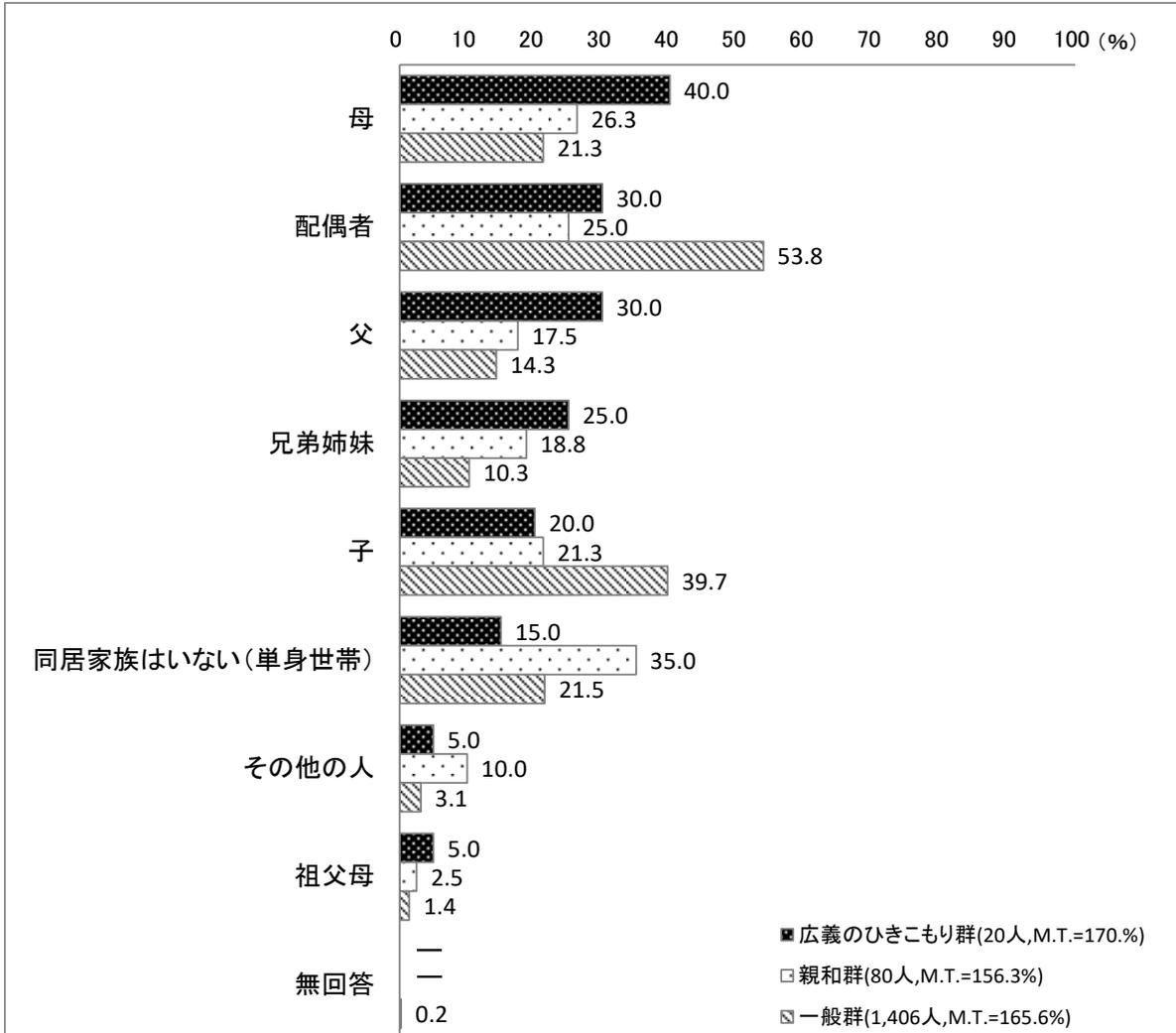
＜内閣府調査(平成27年度)＞※満15～39歳が調査対象



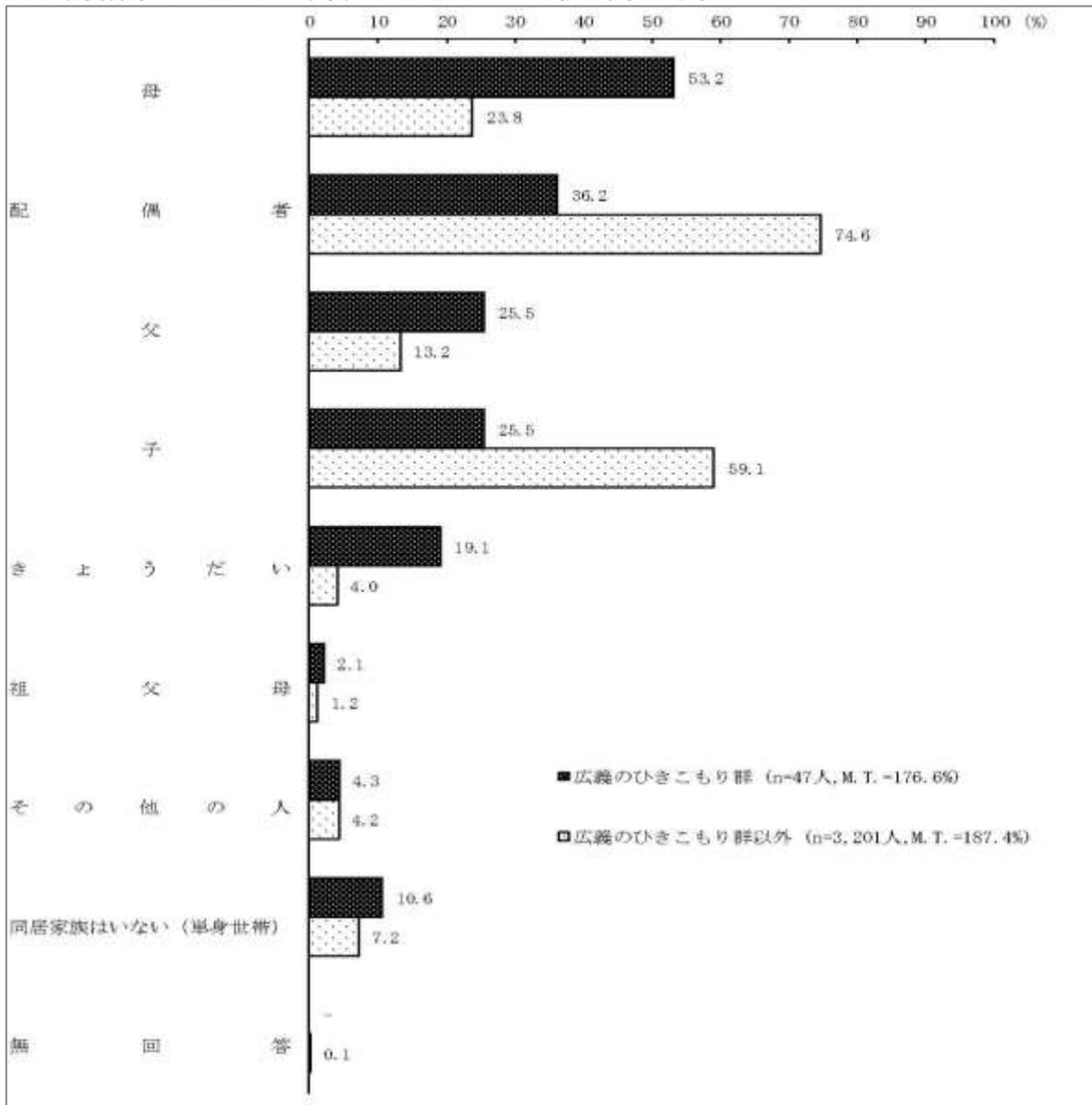
Q3 現在、あなたと同居している方に○をつけてください。(複数回答)

- ・大田区のひきこもり群は「母」が40.0%、「配偶者」「父」が30.0%となっている。
- ・内閣府調査(平成30・27年度)のひきこもり群は「母」の割合が高い。

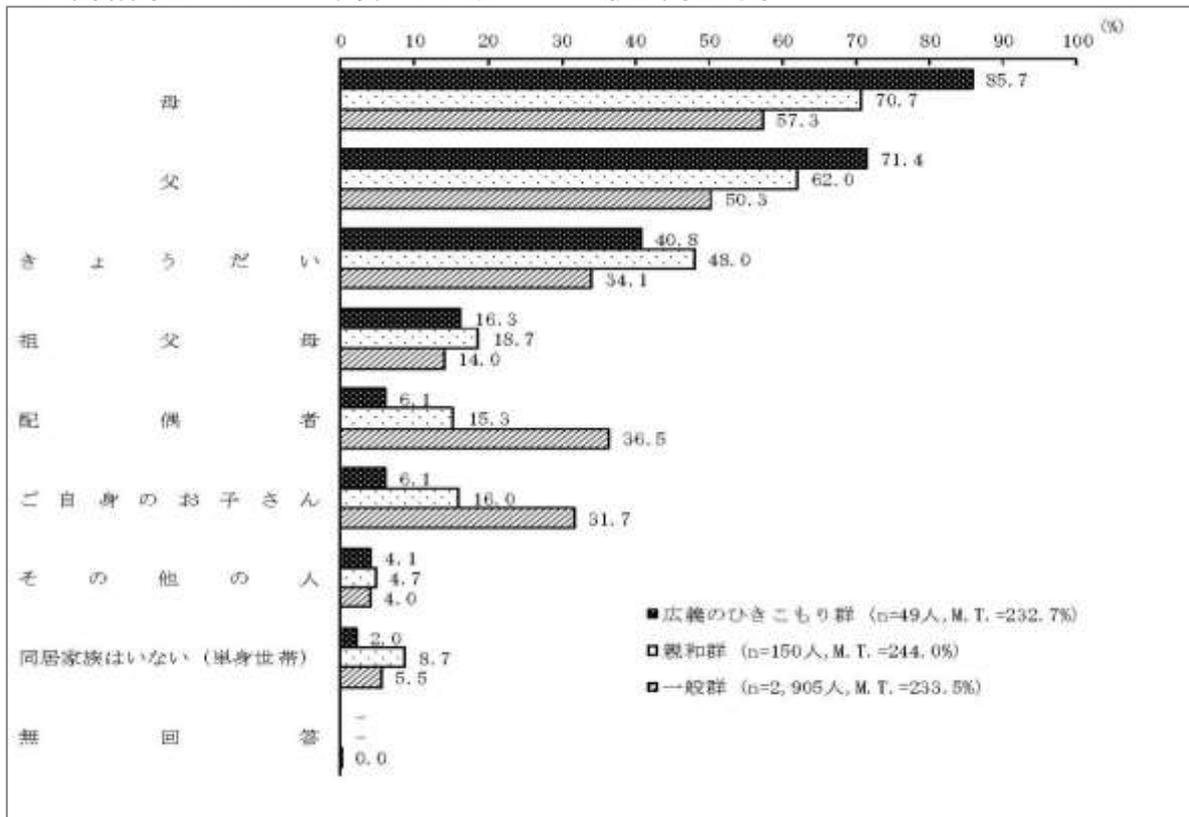
<大田区調査> ※満15~64歳が調査対象



<内閣府調査（平成 30 年度）> ※満 40～64 歳が調査対象



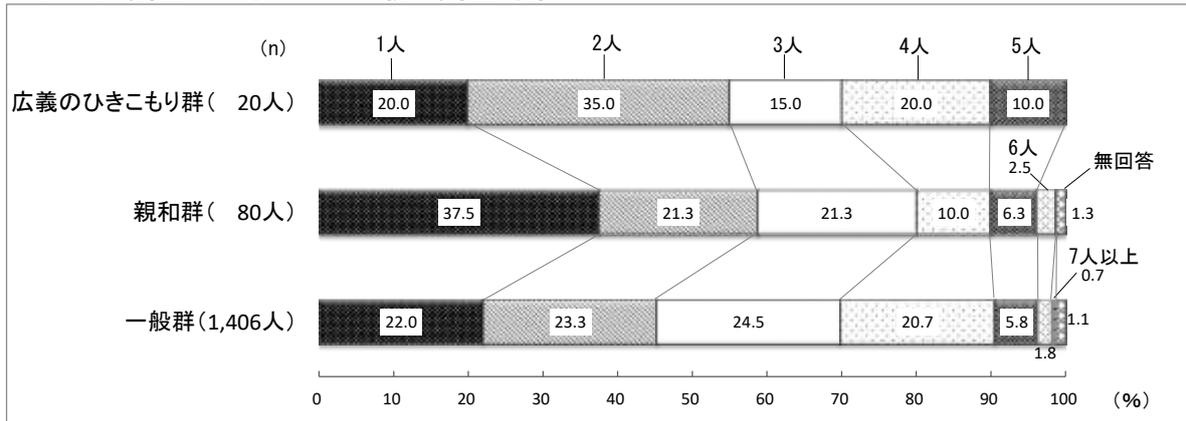
<内閣府調査（平成 27 年度）> ※満 15～39 歳が調査対象



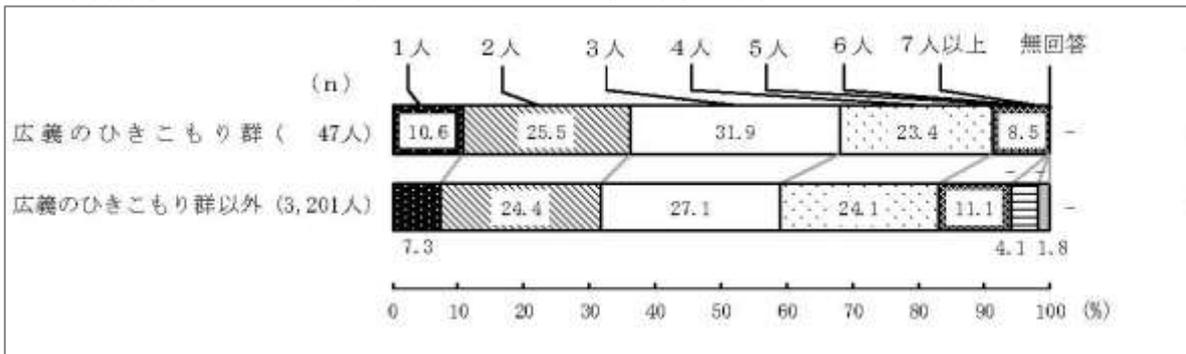
Q 4 現在、同居している人は合計で何人ですか。あなたも含めた人数を記入してください。(数字で具体的に)

- 大田区のひきこもり群は「2人」が35.0%、「1人」が20.0%となっている。
- 内閣府調査（平成30・27年度）のひきこもり群は「3人」の割合が高い。
- 大田区では、内閣府調査（平成30・27年度）と比べて「1人」または「2人」が5割以上を占めており、同居者が少ない傾向にある。

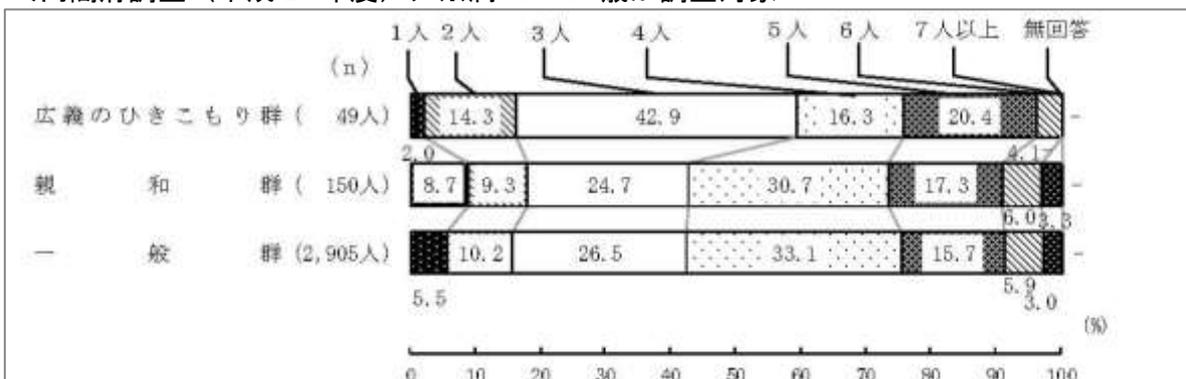
＜大田区調査＞※満15～64歳が調査対象



＜内閣府調査（平成30年度）＞※満40～64歳が調査対象



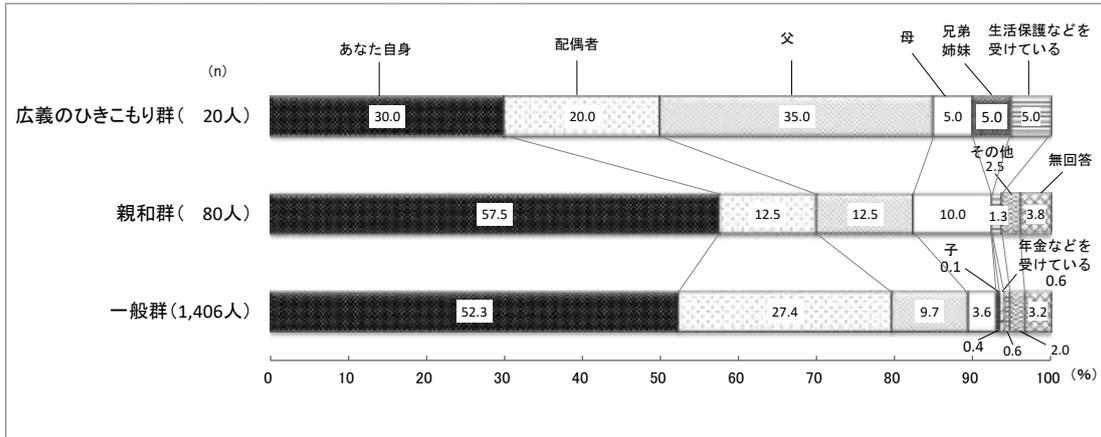
＜内閣府調査（平成27年度）＞※満15～39歳が調査対象



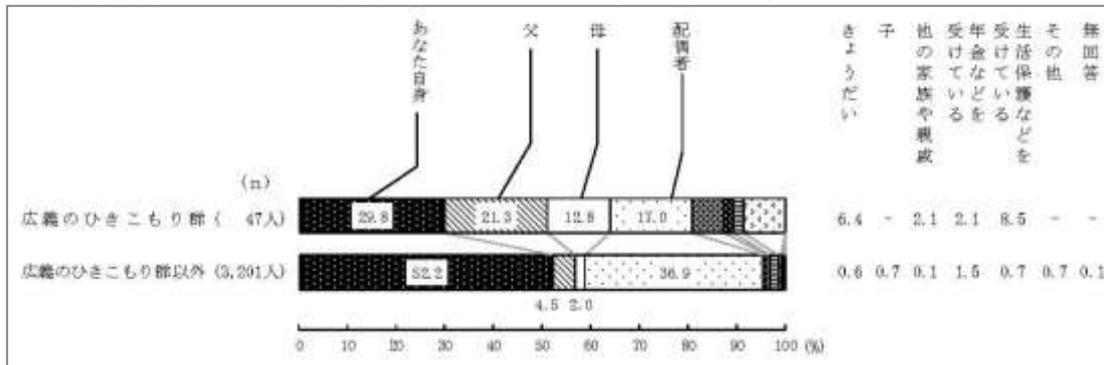
Q5 あなたの家の生計を立てているのは、主にどなたですか。生計を立てている方が複数いる場合は、もっとも多く家計を負担している人をお答えください。また、主に仕送りで生計を立てている方は、その仕送りを主にしてくれている人をお答えください。（単一回答）

- ・大田区のひきこもり群は「父」が35.0%、「あなた自身」が30.0%となっている。
- ・内閣府調査（平成30年度）のひきこもり群は「あなた自身」の割合が高く、内閣府調査（平成27年度）では「父」の割合が高い。

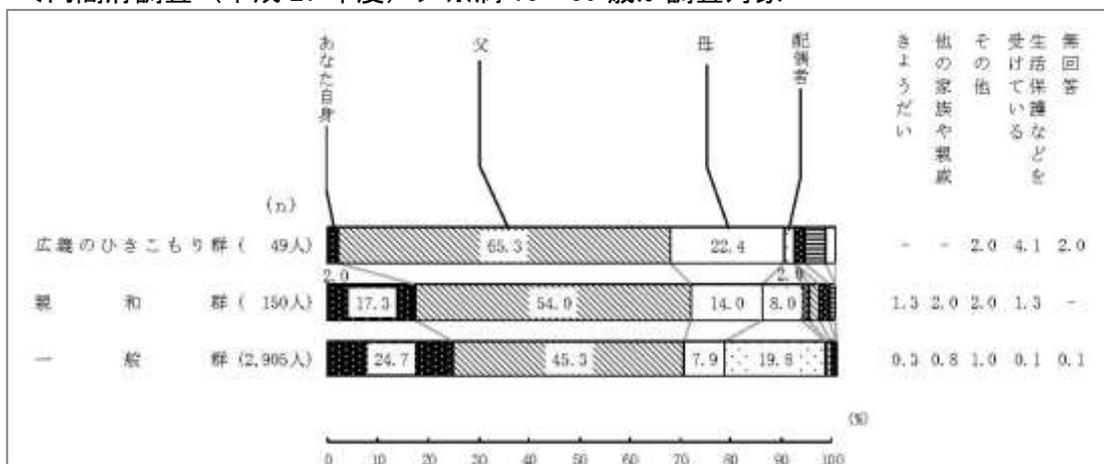
<大田区調査> ※満15~64歳が調査対象



<内閣府調査（平成30年度）> ※満40~64歳が調査対象



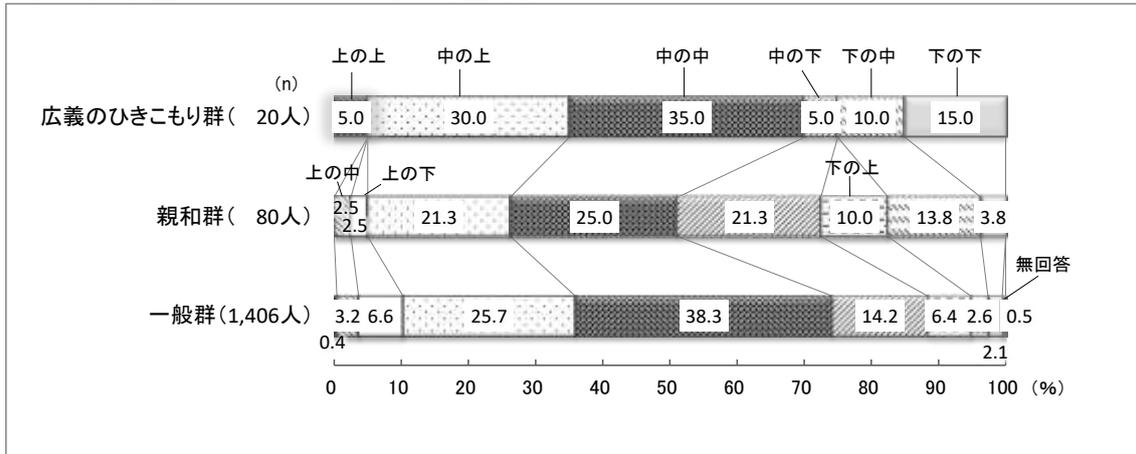
<内閣府調査（平成27年度）> ※満15~39歳が調査対象



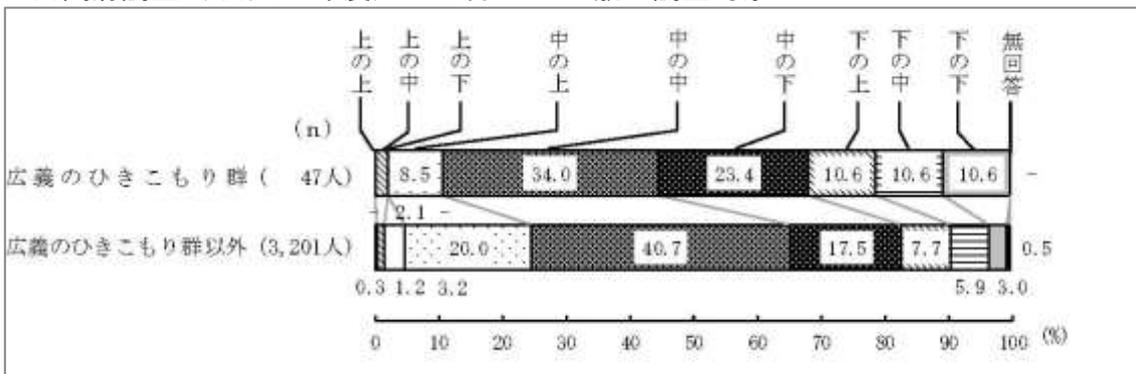
Q6 あなたの家の暮らし向き（衣・食・住・レジャーなどの物質的な生活水準）は、世間一般と比べてみて、上の上から下の下までのどれにあたると思われますか。あなたの実感でお答えください。（単一回答）

- 大田区のひきこもり群は「中の中」が35.0%、「中の上」が30.0%となっている。
- 内閣府調査（平成30・27年度）のひきこもり群は「中の中」の割合が高い。
- 大田区では、内閣府調査（平成30・27年度）と比べて大きな差はみられない。

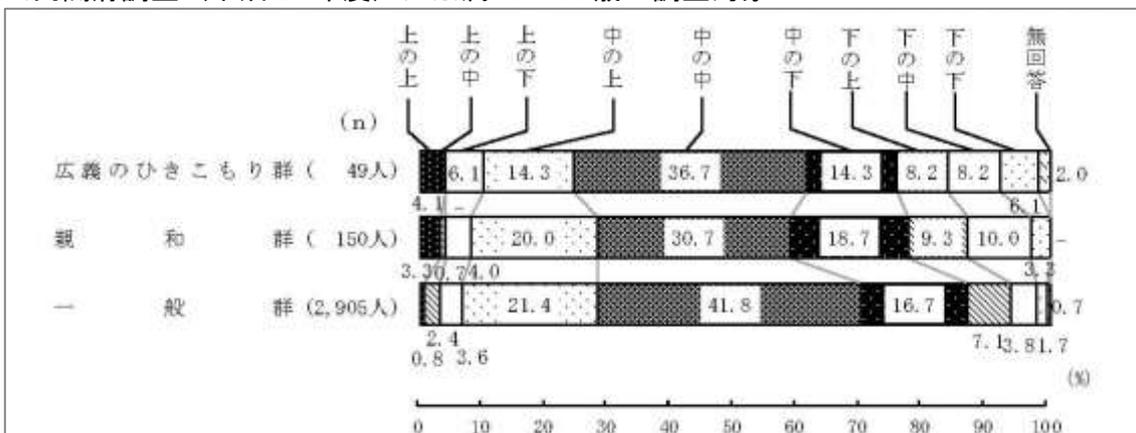
＜大田区調査＞※満15～64歳が調査対象



＜内閣府調査（平成30年度）＞※満40～64歳が調査対象



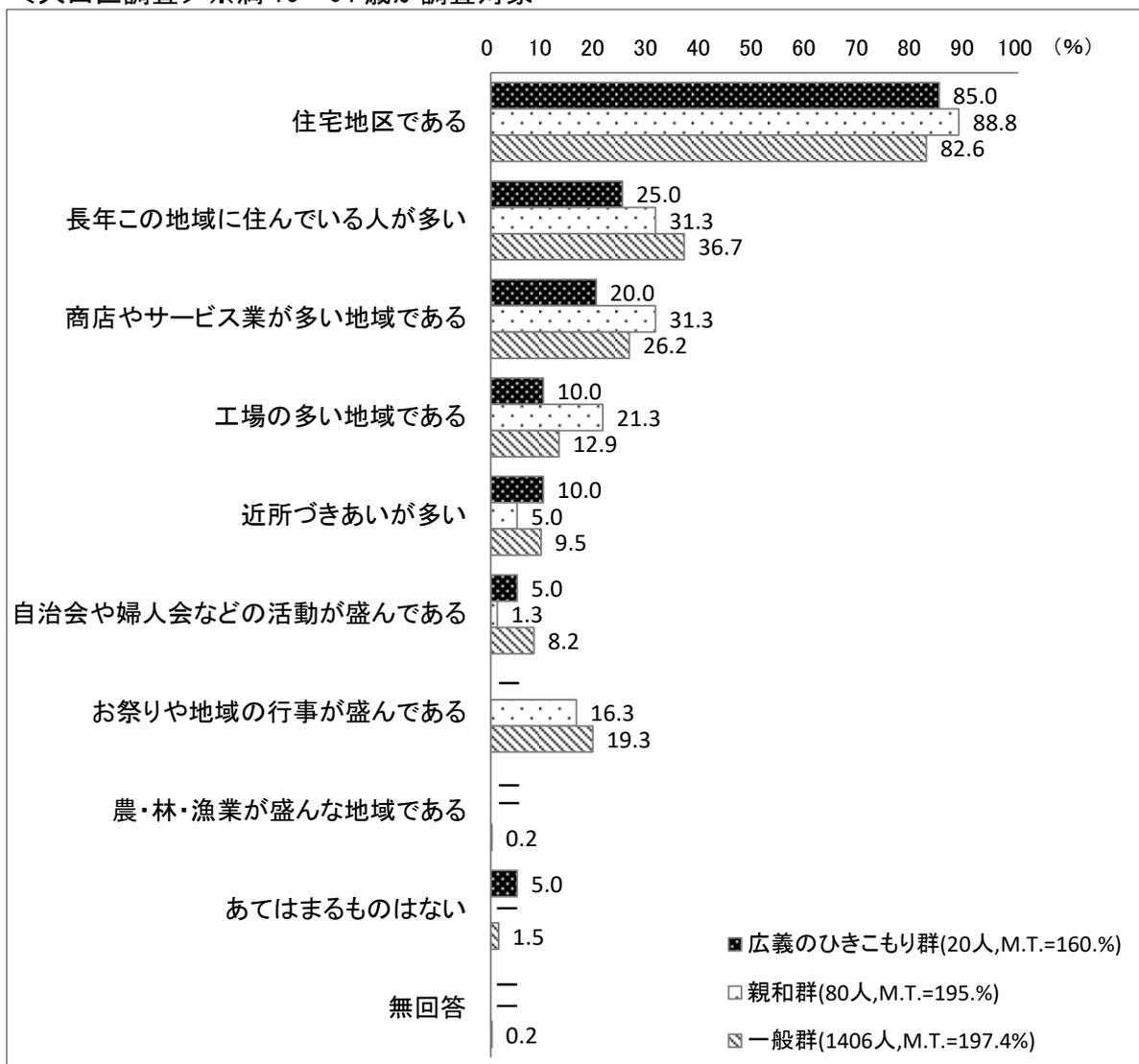
＜内閣府調査（平成27年度）＞※満15～39歳が調査対象



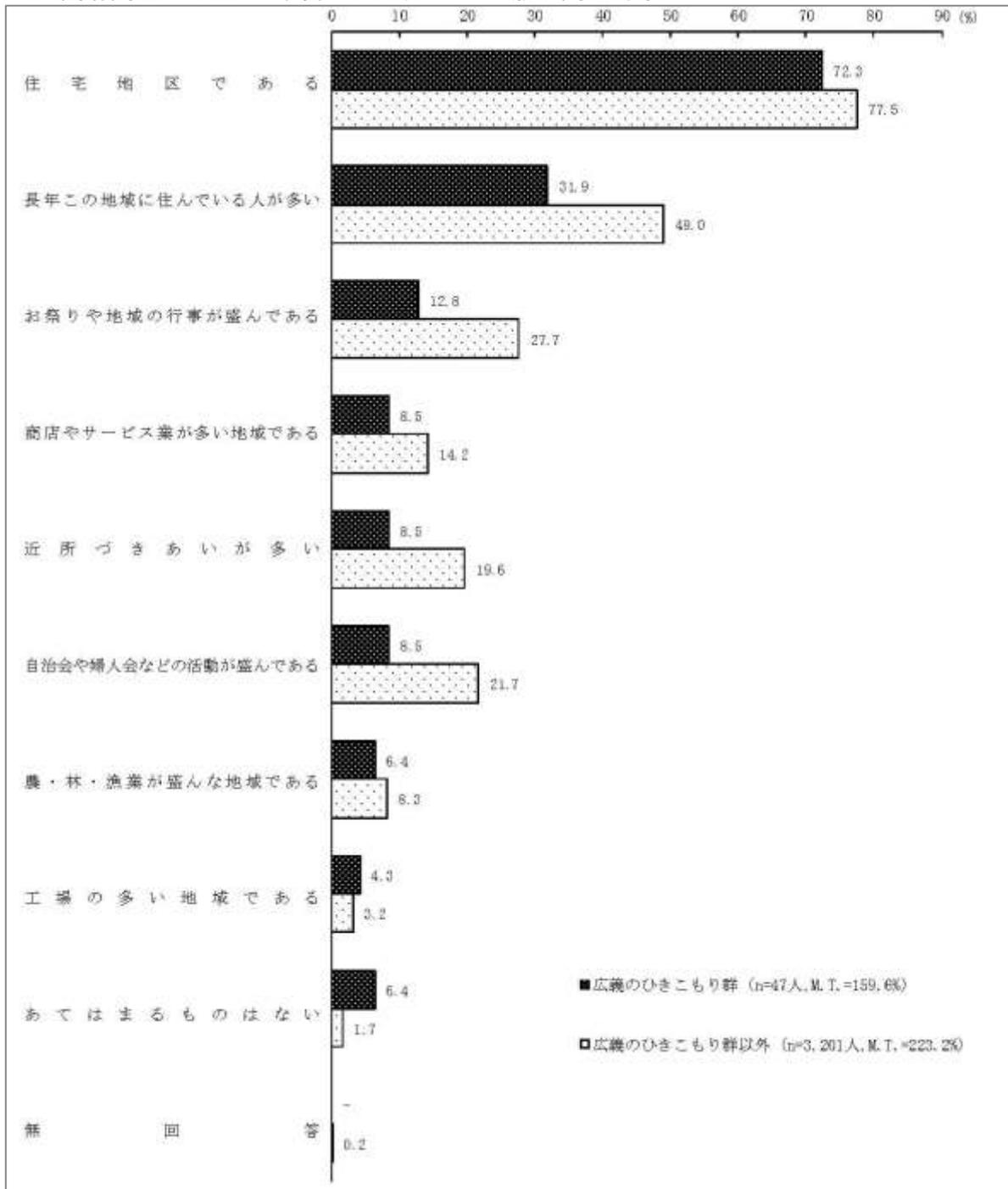
Q7 あなたがお住まいの地域に、あてはまるものすべてに○をつけてください。(複数回答)

- ・大田区のひきこもり群は「住宅地区」が 85.0%、「長年この地域に住んでいる人が多い」が 25.0%となっている。
- ・内閣府調査（平成 30・27 年度）のひきこもり群は「住宅地区」や「長年この地域に住んでいる人が多い」の割合が高い。
- ・大田区では、内閣府調査（平成 30・27 年度）と同様の傾向にある。また、親和群や一般群と比べると「お祭りや地域の行事が盛ん」の回答がみられなかった。

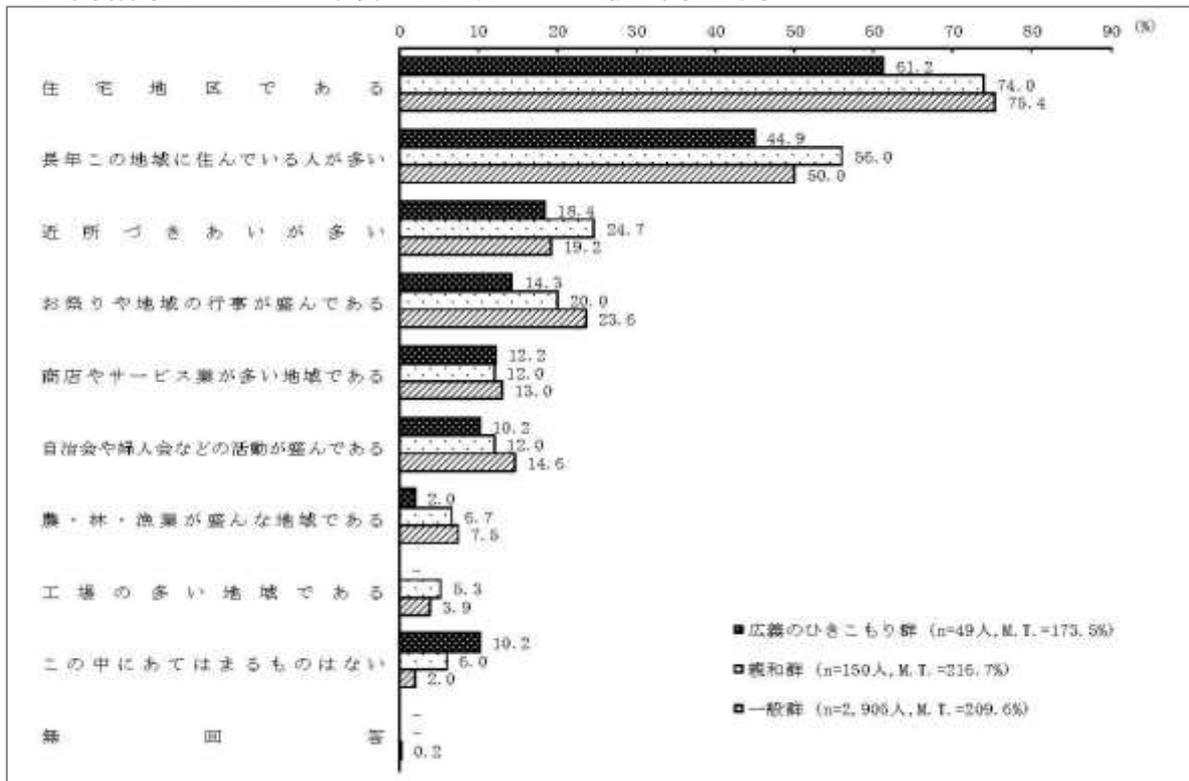
<大田区調査>※満 15～64 歳が調査対象



<内閣府調査（平成30年度）> ※満40～64歳が調査対象



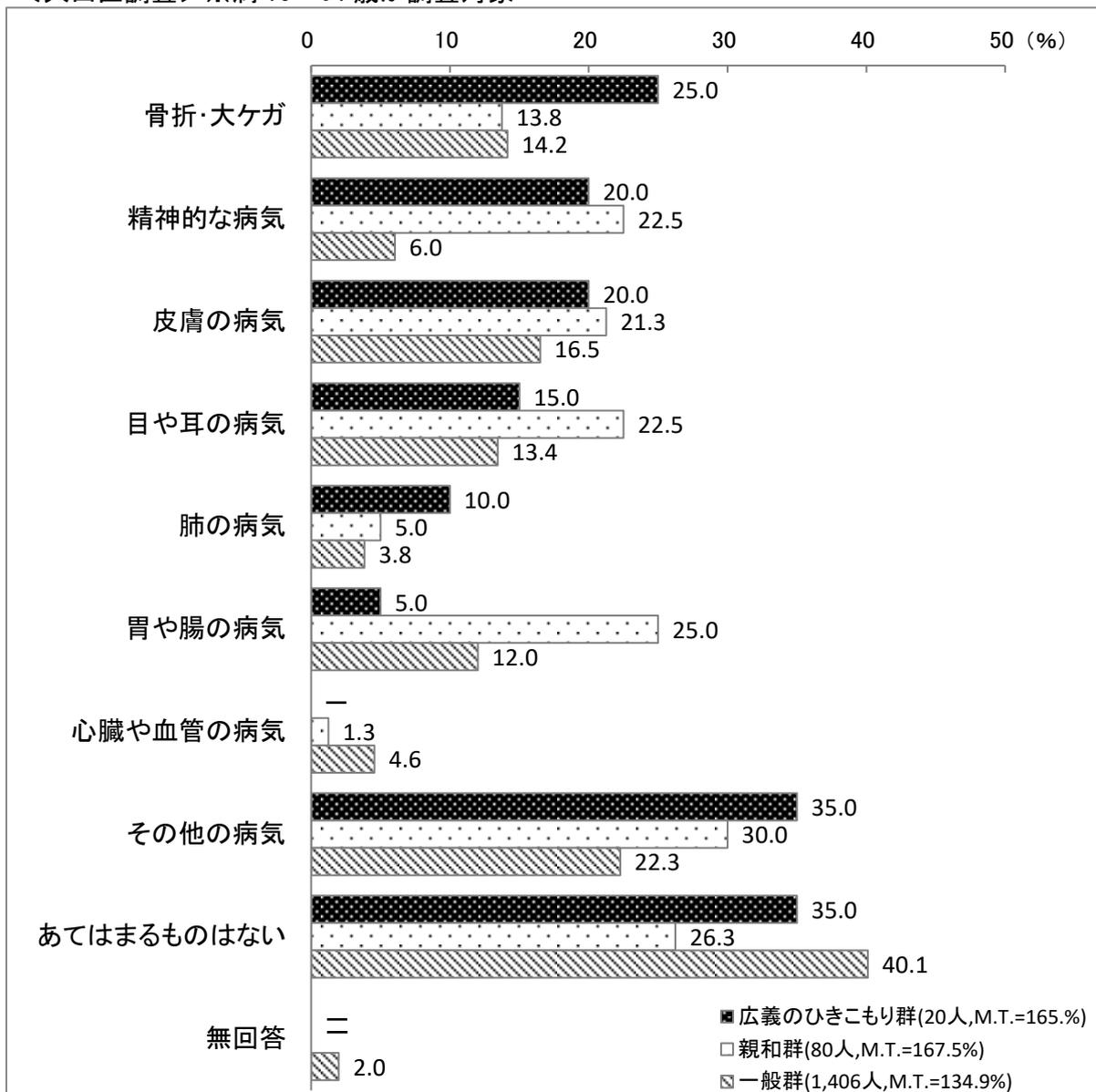
＜内閣府調査（平成 27 年度）＞※満 15～39 歳が調査対象



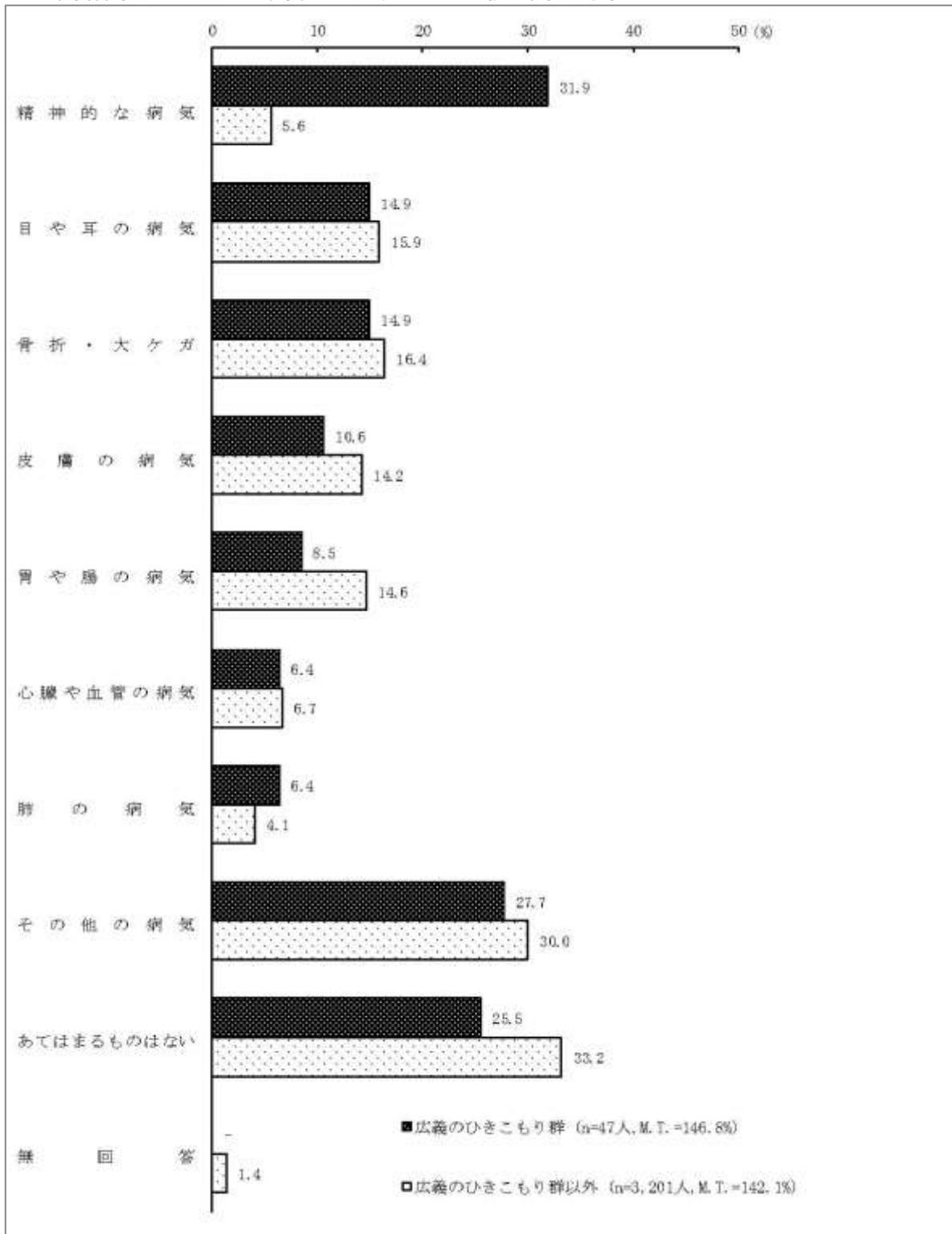
Q 8 これまでに、以下の病気やけがで通院や入院をしたことはありますか。通院・入院したことがある病気に○をつけてください。(複数回答)

- 大田区のひきこもり群は「骨折・大ケガ」が 25.0%、「精神的な病気」「皮膚の病気」がそれぞれ 20.0%となっている。
- 内閣府調査（平成 30 年度）のひきこもり群は「精神的な病気」が、内閣府調査（平成 27 年度）では「骨折・大ケガ」や「精神的な病気」の割合が高い。
- 大田区では、内閣府調査（平成 30 年度）と比べて「精神的な病気」の割合が低く、様々な病気に分散している。

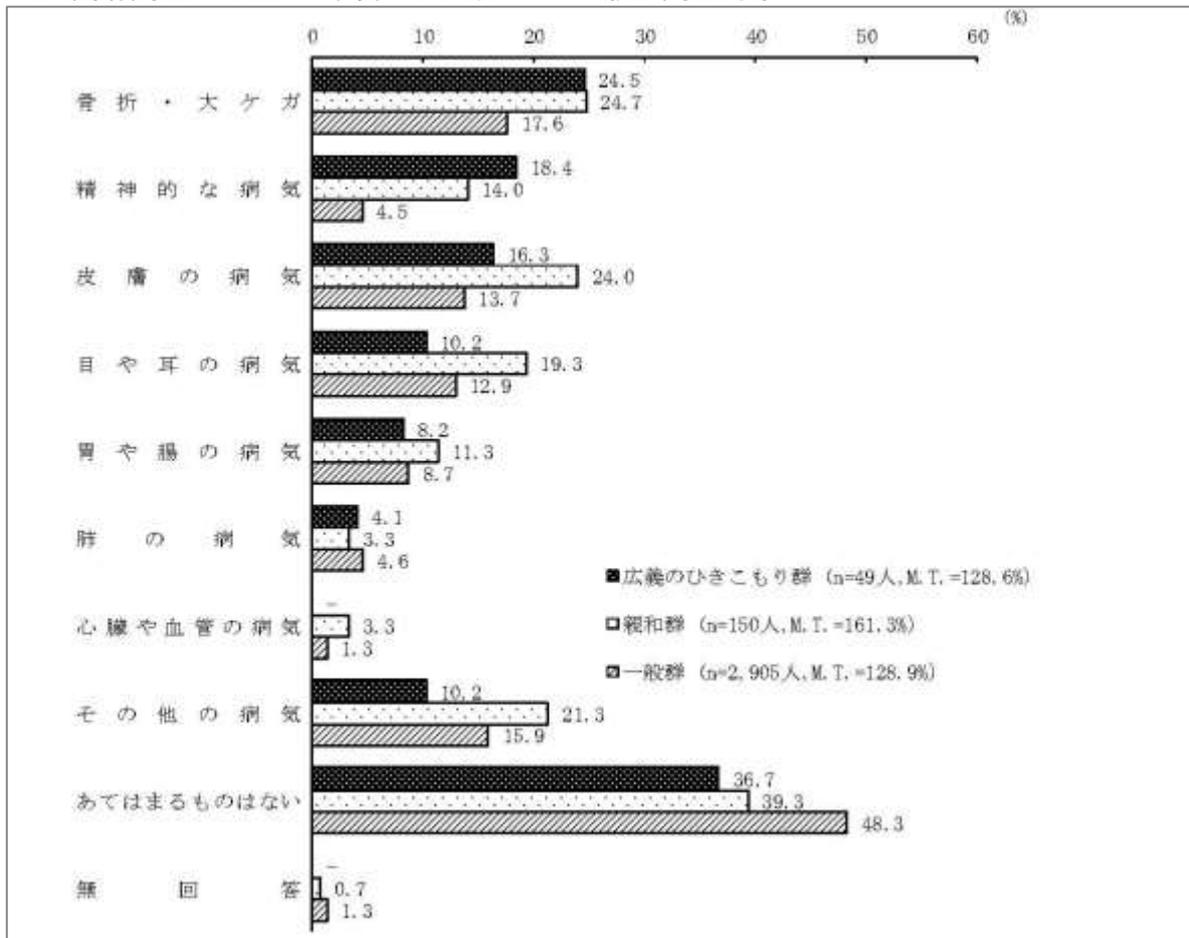
<大田区調査>※満 15～64 歳が調査対象



<内閣府調査（平成 30 年度）> ※満 40～64 歳が調査対象



<内閣府調査（平成 27 年度）> ※満 15～39 歳が調査対象

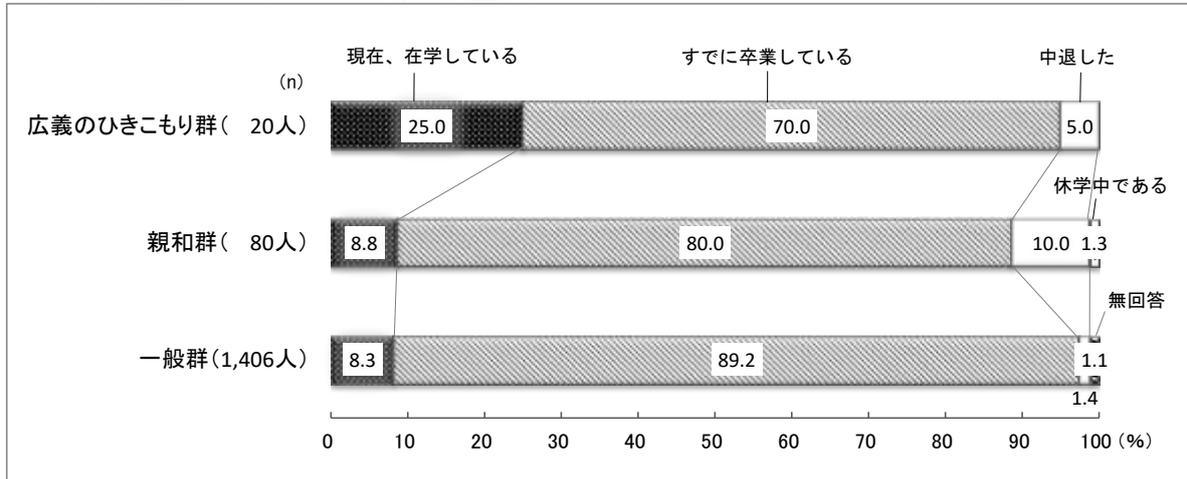


■ 学校のことについて

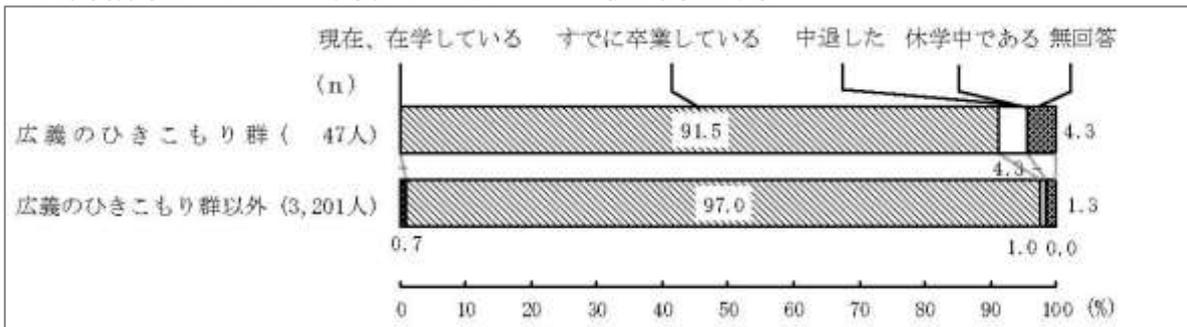
Q9 あなたは現在、学校に通っていますか。(単一回答)

- ・大田区のひきこもり群は「すでに卒業している」が70.0%、「現在、在学している」が25.0%となっている。

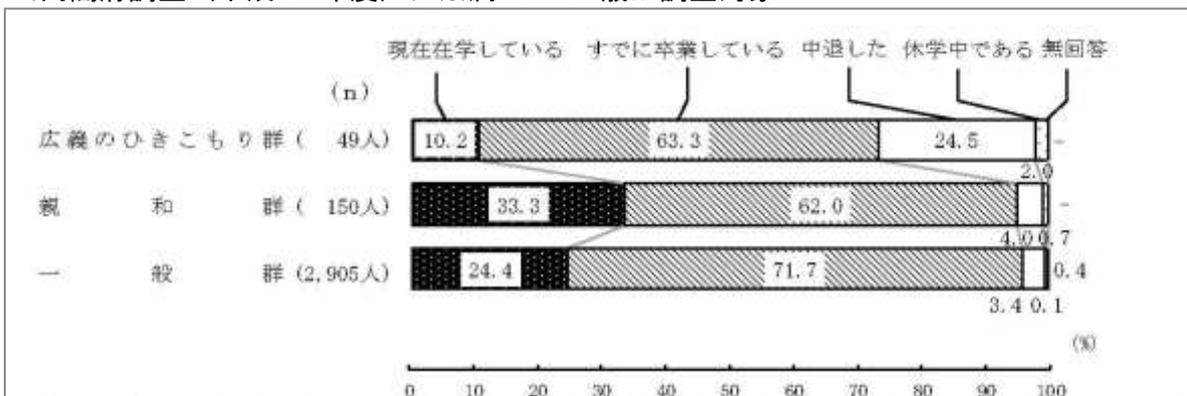
<大田区調査> ※満15~64歳が調査対象



<内閣府調査 (平成30年度)> ※満40~64歳が調査対象



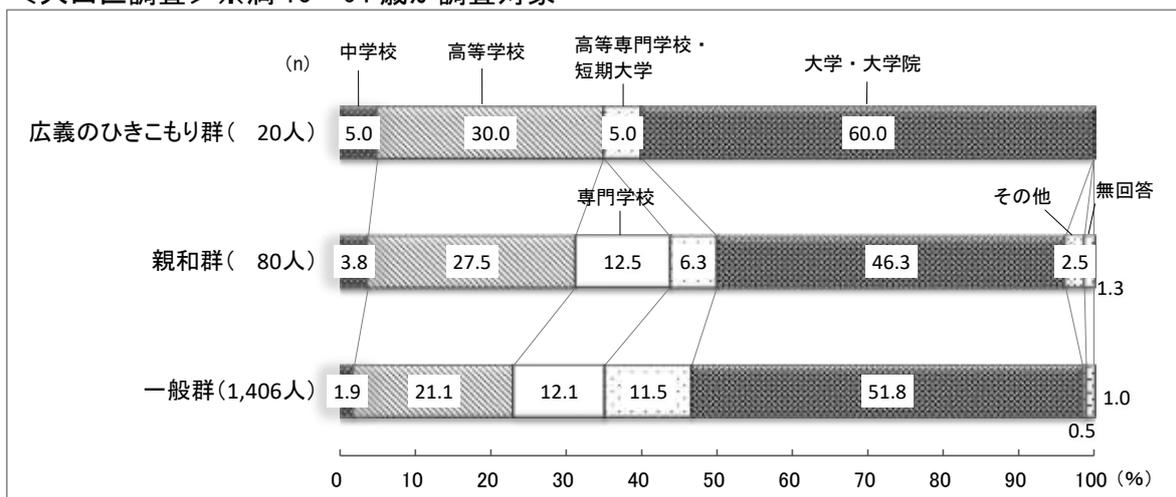
<内閣府調査 (平成27年度)> ※満15~39歳が調査対象



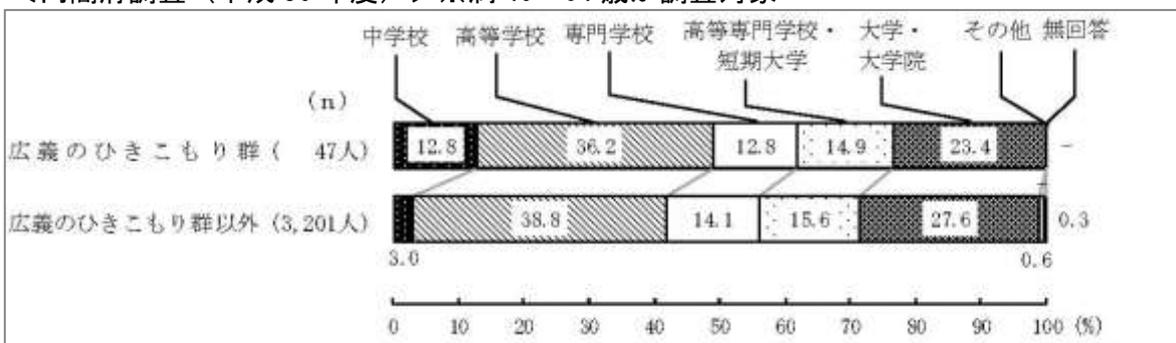
Q 10 あなたが最後に卒業（中退を含む）した、または現在、在学している学校はどれですか。  
（単一回答）

- ・大田区のひきこもり群は「大学・大学院」が 60.0%、「高等学校」が 30.0%となっている。
- ・内閣府調査（平成 30・27 年度）のひきこもり群は「高等学校」の割合が高い。
- ・大田区では、内閣府調査（平成 30・27 年度）と比べて「大学・大学院」の割合が高い。

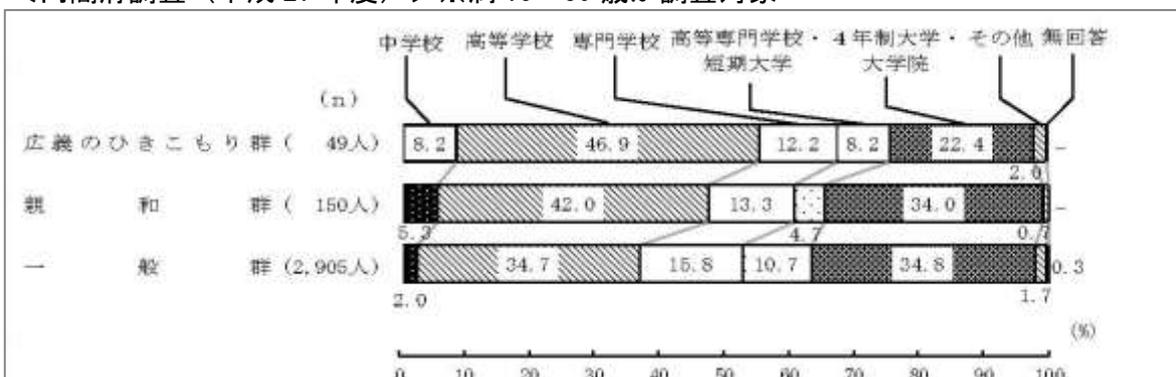
＜大田区調査＞※満 15～64 歳が調査対象



＜内閣府調査（平成 30 年度）＞※満 40～64 歳が調査対象



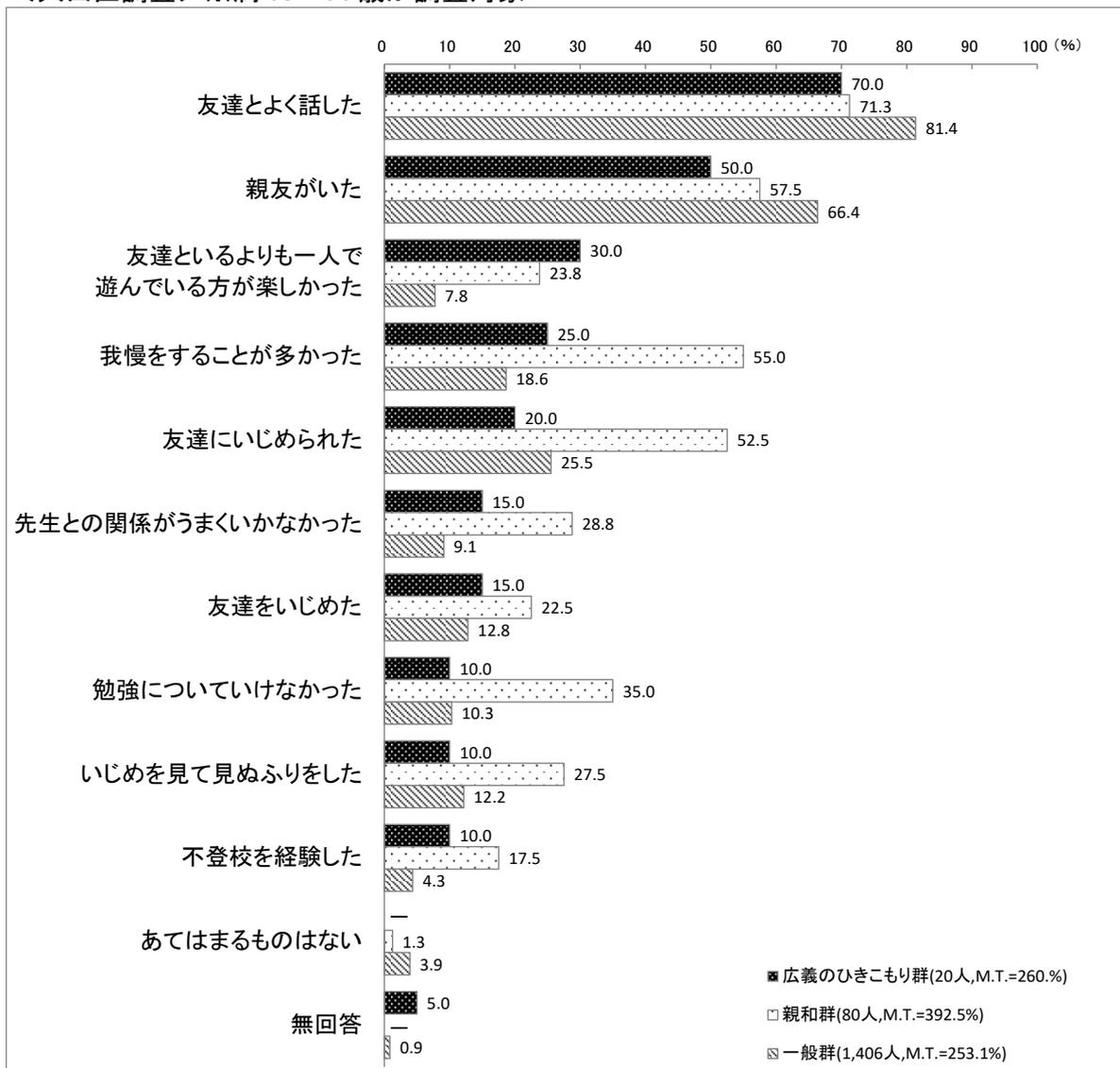
＜内閣府調査（平成 27 年度）＞※満 15～39 歳が調査対象



Q 1 1 あなたは小学校や中学校の頃に、学校で次のようなことを経験したことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(複数回答)

- 大田区のひきこもり群は「友達とよく話した」が70.0%、「親友がいた」が50.0%となっている。
- 内閣府調査(平成27年度)のひきこもり群は「友達とよく話した」や「親友がいた」の割合が高い。
- 大田区では、内閣府調査(平成27年度)と比べて上位の回答に大きな差はみられない。

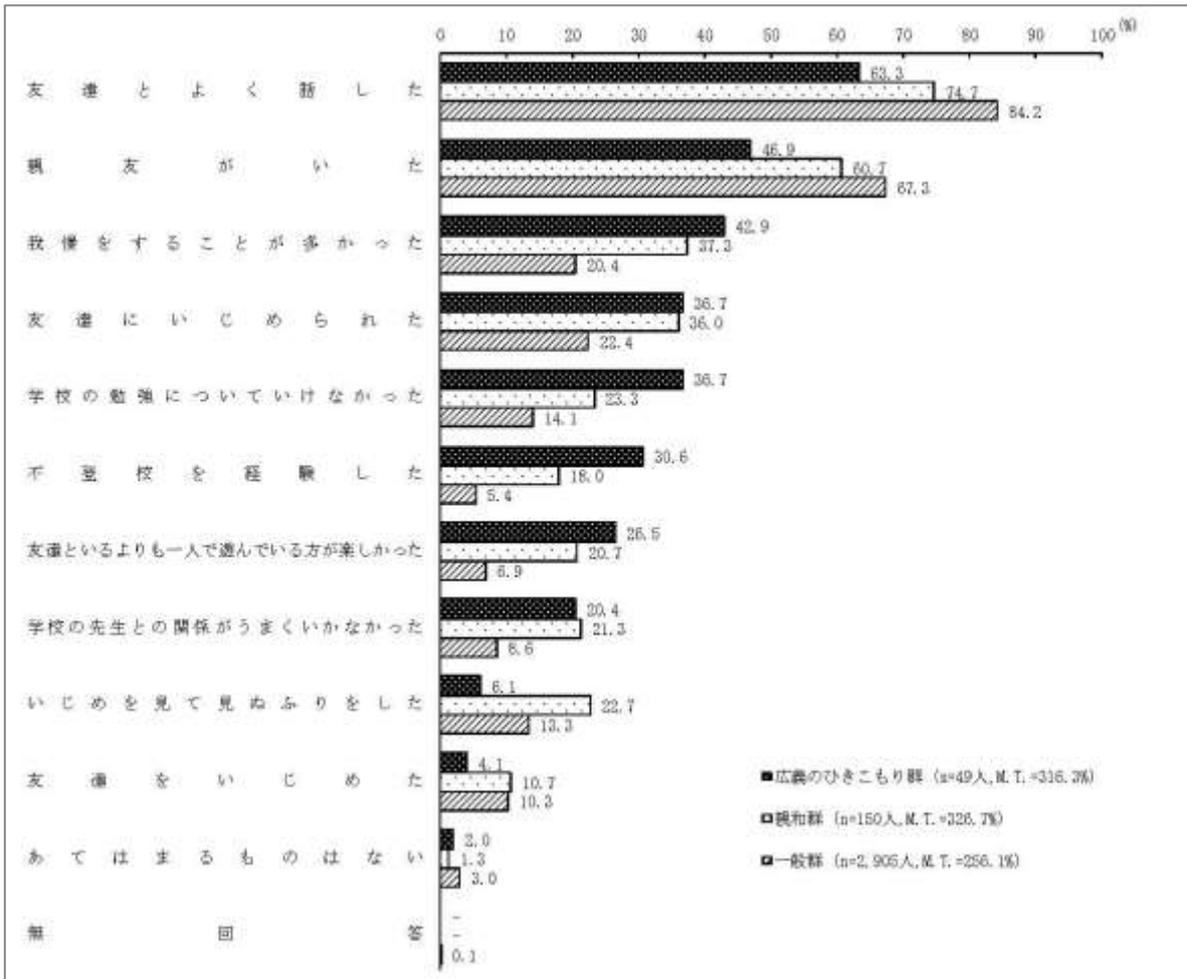
<大田区調査> ※満15~64歳が調査対象



<内閣府調査（平成 30 年度）> ※満 40～64 歳が調査対象

設問なし

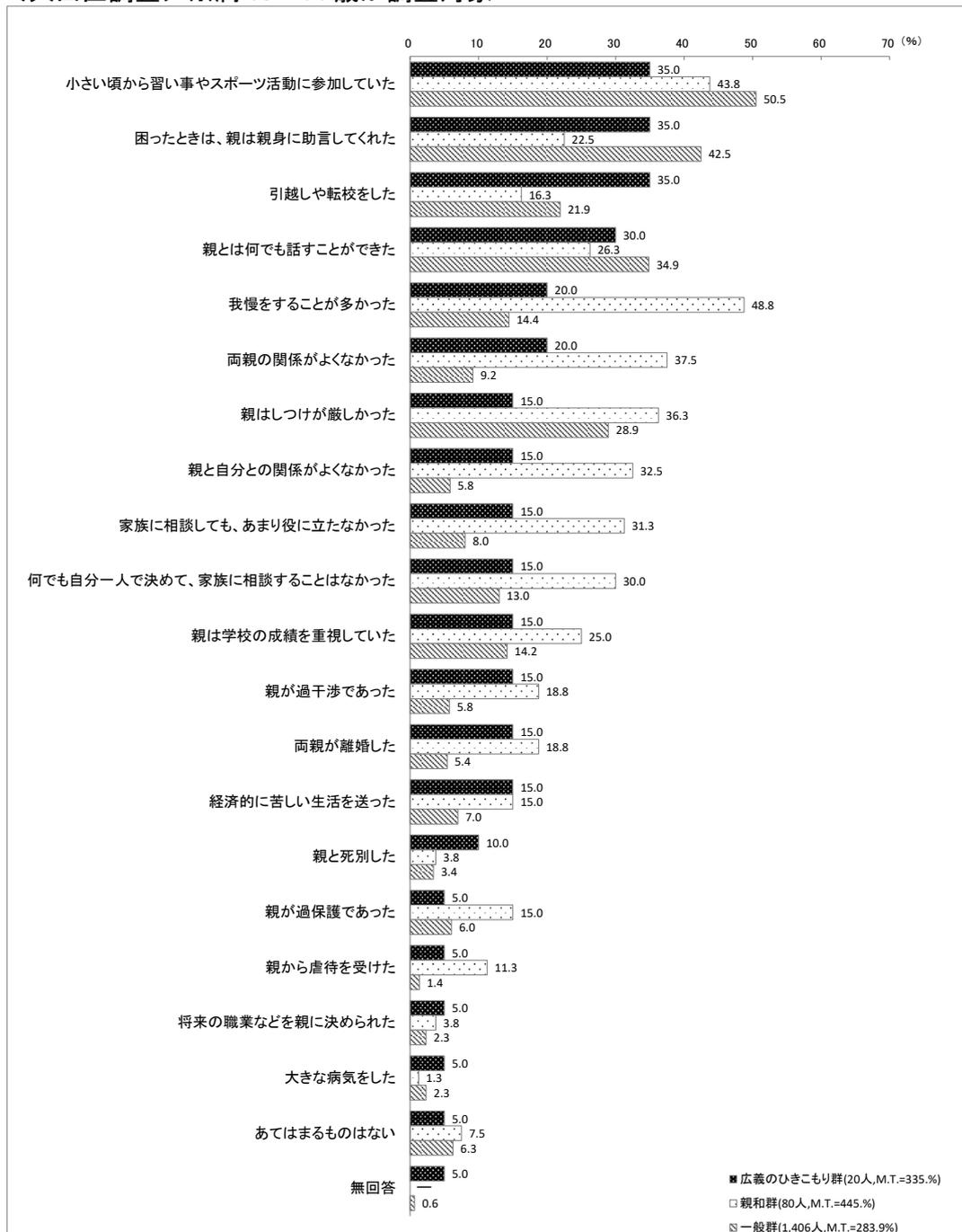
<内閣府調査（平成 27 年度）> ※満 15～39 歳が調査対象



Q 1 2 あなたは小学校や中学校の頃に、家庭で次のようなことを経験したことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(複数回答)

- ・大田区のひきこもり群は「小さい頃から習い事やスポーツ活動に参加していた」「困ったときは、親は親身に助言してくれた」「引越しや転校をした」がそれぞれ 35.0%、「親とはなんでも話すことができた」が 30.0%となっている。
- ・内閣府調査（平成 27 年度）のひきこもり群は「小さい頃から習い事やスポーツ活動に参加していた」や「困ったときは、親は親身に助言してくれた」の割合が高い。
- ・大田区では、内閣府調査（平成 27 年度）と比べて大きな差はみられない。

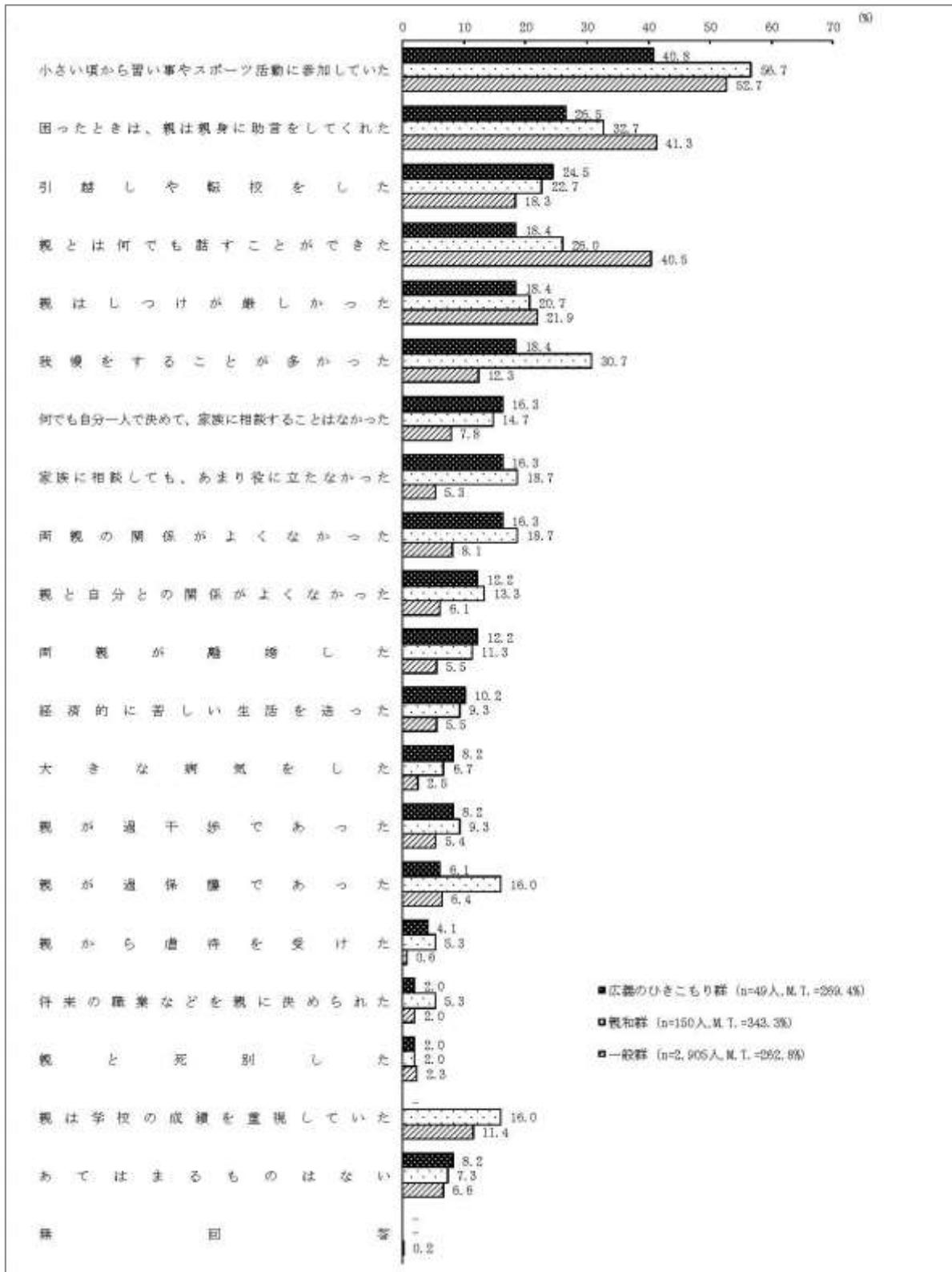
<大田区調査> ※満 15~64 歳が調査対象



<内閣府調査（平成 30 年度）> ※満 40～64 歳が調査対象

設問なし

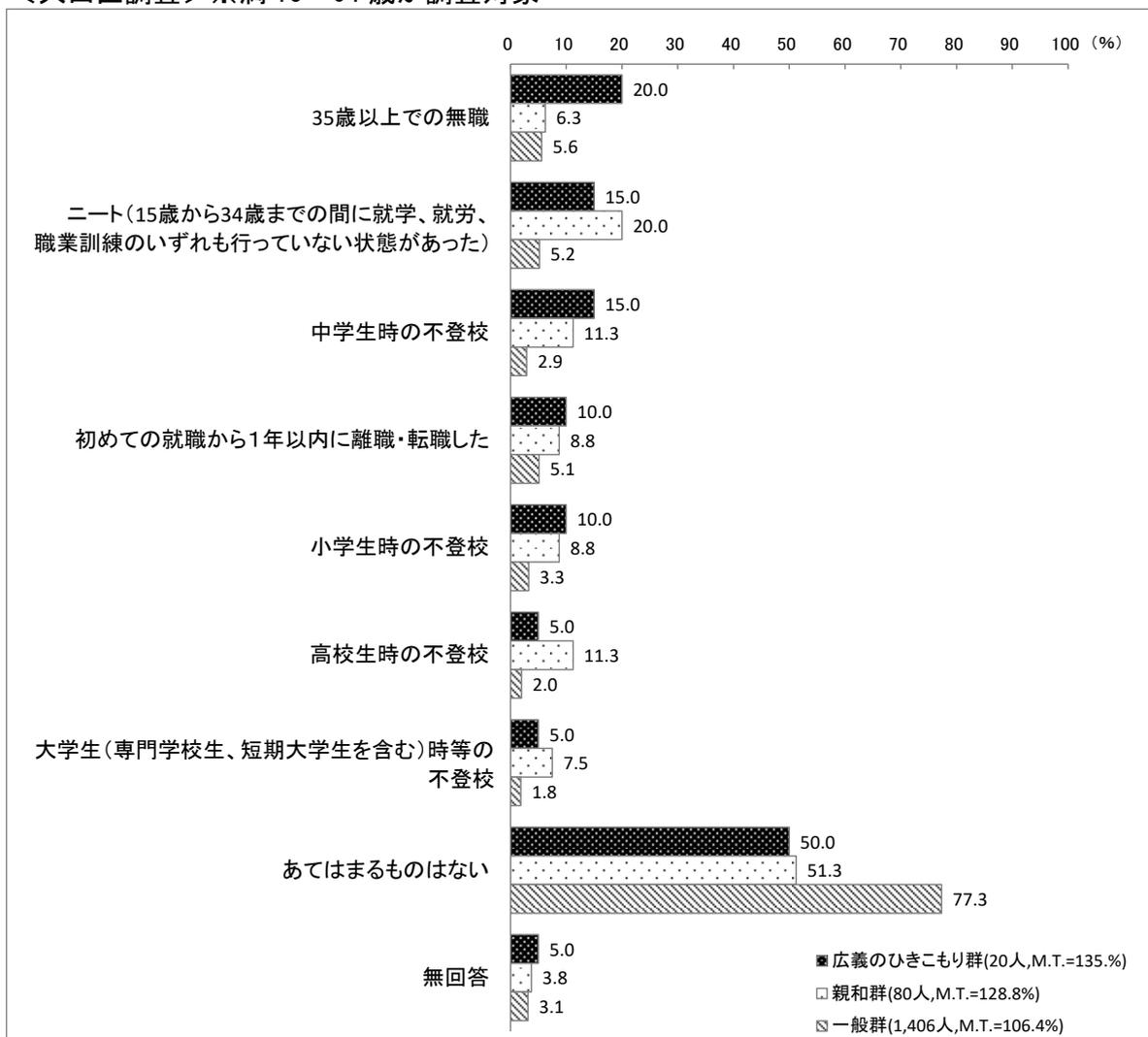
<内閣府調査（平成 27 年度）> ※満 15～39 歳が調査対象



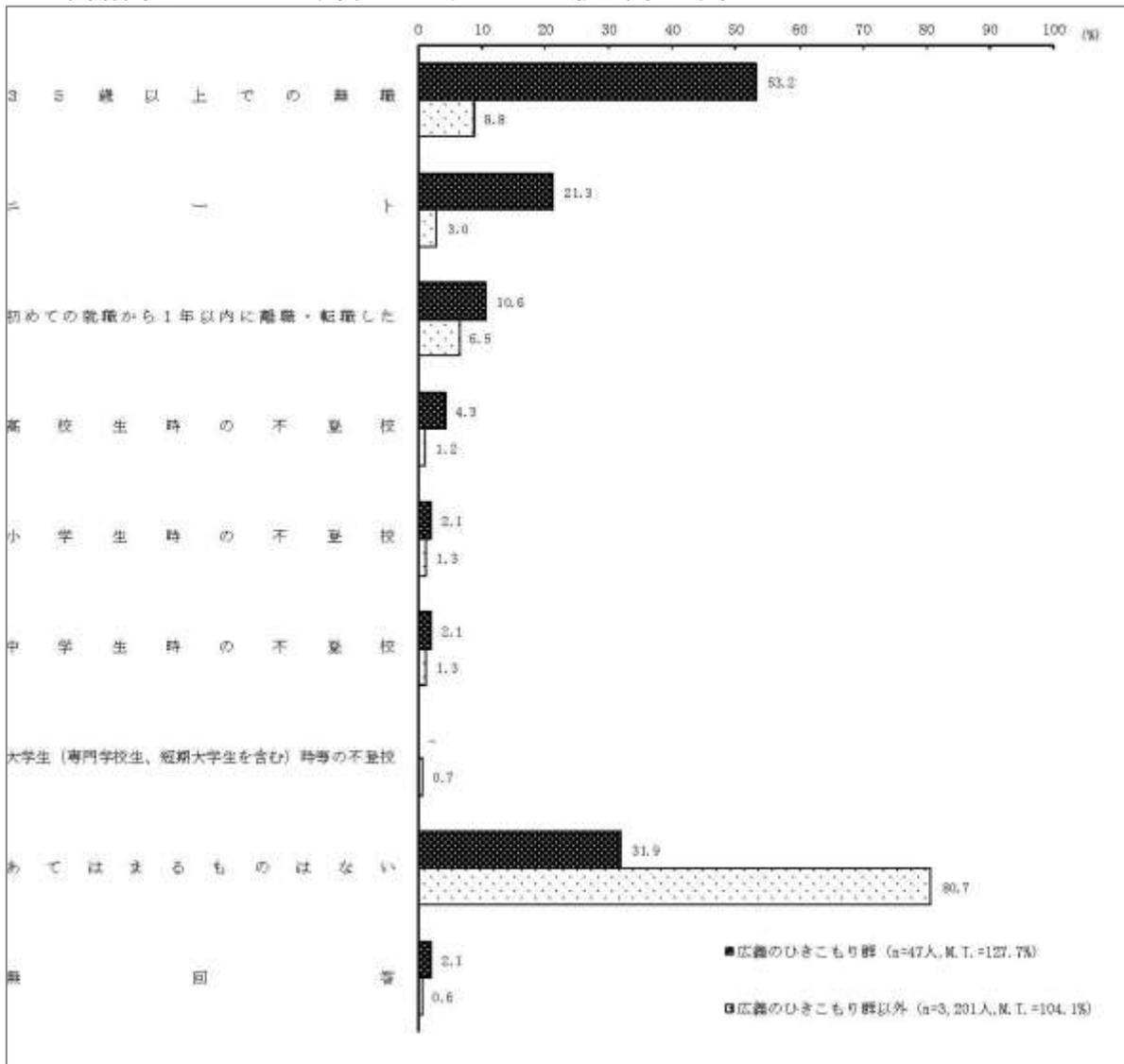
Q 13 これまでに、以下のようなことを経験したことがありますか。あてはまるものにすべて○をつけてください。(複数回答)

- 大田区のひきこもり群は「35歳以上での無職」が20.0%、「ニート（15歳から34歳までの間に就学、就労、職業訓練のいずれも行っていない状態があった）」「中学生時の不登校」がそれぞれ15.0%となっている。
- 内閣府調査（平成30年度）のひきこもり群は「35歳以上での無職」や「ニート」の割合が高い。
- 大田区では、内閣府調査（平成30年度）と同様の傾向にあるが、不登校の経験がある方が3割以上を占めている。

<大田区調査> ※満15～64歳が調査対象



＜内閣府調査（平成 30 年度）＞※満 40～64 歳が調査対象



＜内閣府調査（平成 27 年度）＞※満 15～39 歳が調査対象

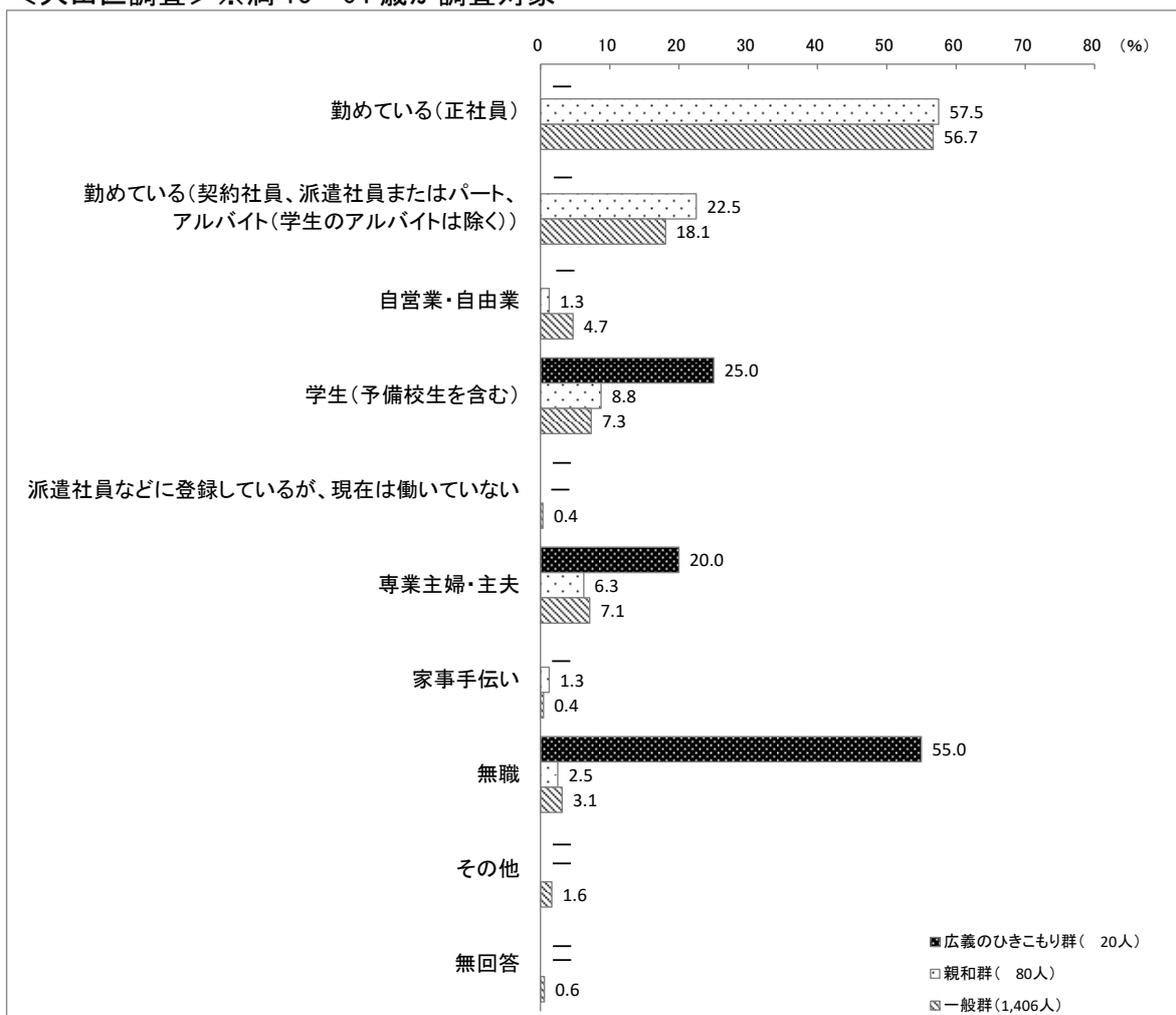
設問なし

■ 仕事のことについて

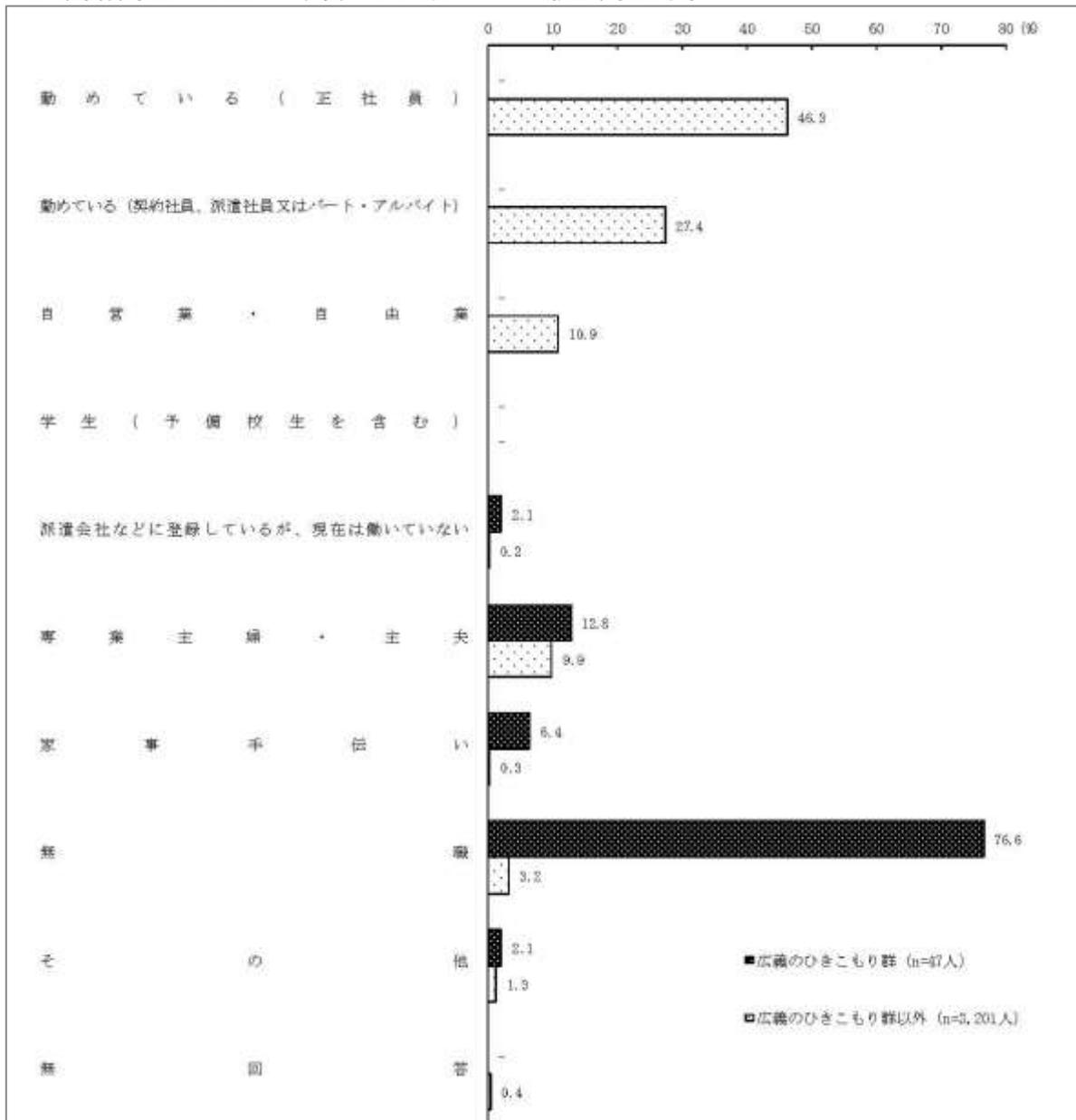
Q 1 4 あなたの現在の就労・就学等の状況についてお答えください。(単一回答)

- ・大田区のひきこもり群は「無職」が55.0%、「学生(予備校生を含む)」が25.0%、「専業主婦・主夫」が20.0%となっている。
- ・内閣府調査(平成30・27年度)のひきこもり群は「無職」の割合が高い。
- ・大田区、内閣府調査(平成30・27年度)ともに、ひきこもり群では無職の割合が高い。

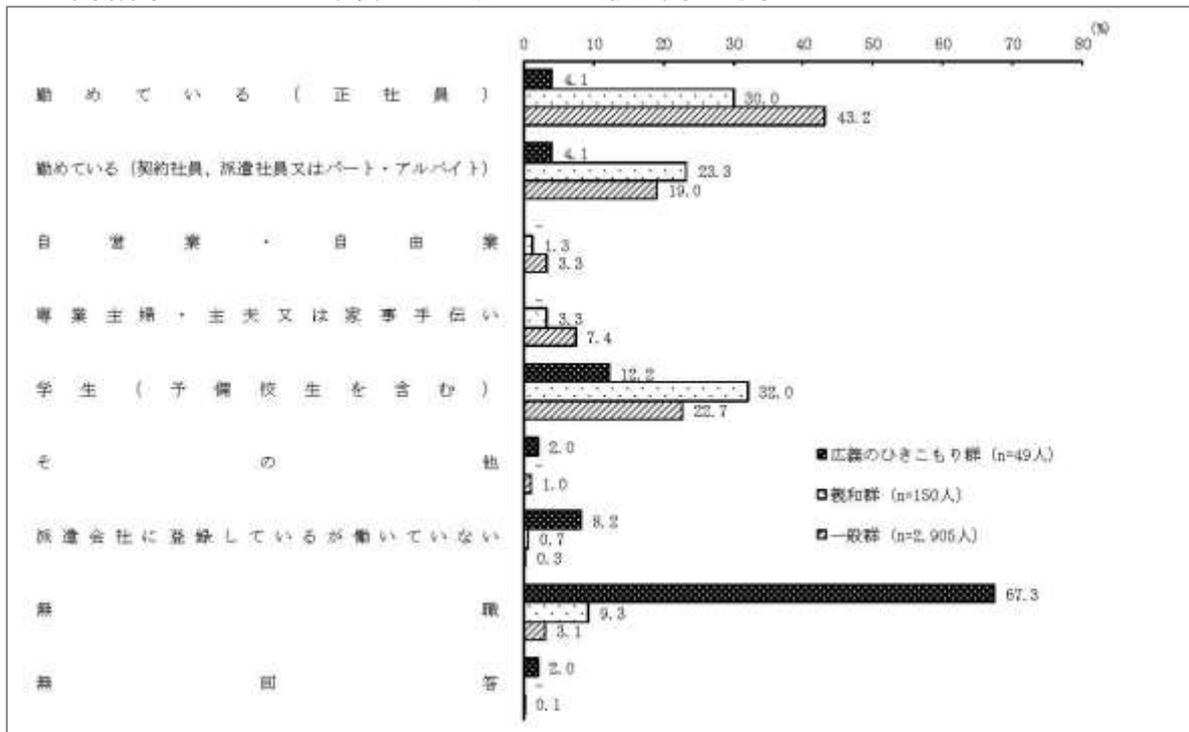
<大田区調査> ※満15~64歳が調査対象



<内閣府調査（平成30年度）> ※満40～64歳が調査対象



<内閣府調査（平成27年度）> ※満15～39歳が調査対象

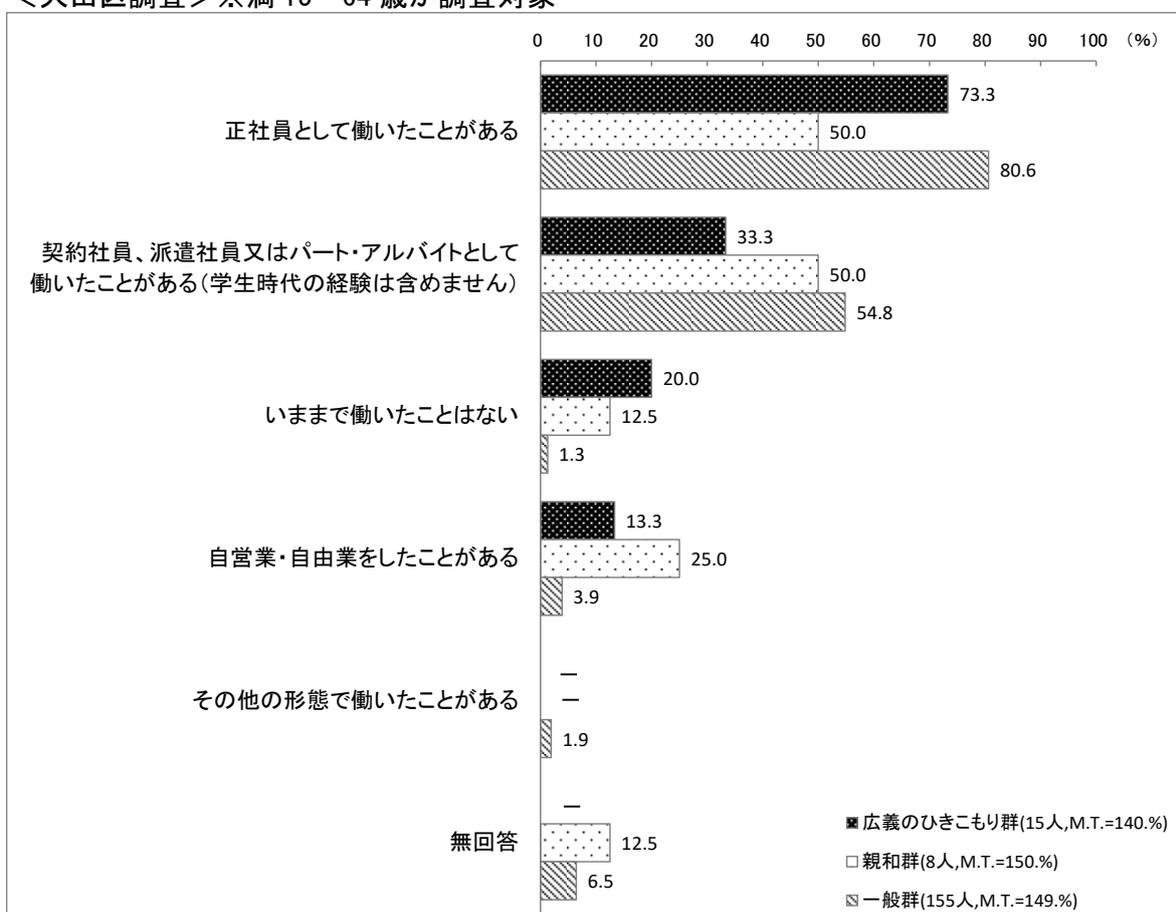


Q 15 あなたは、いままでに働いていたことはありますか。(複数回答)

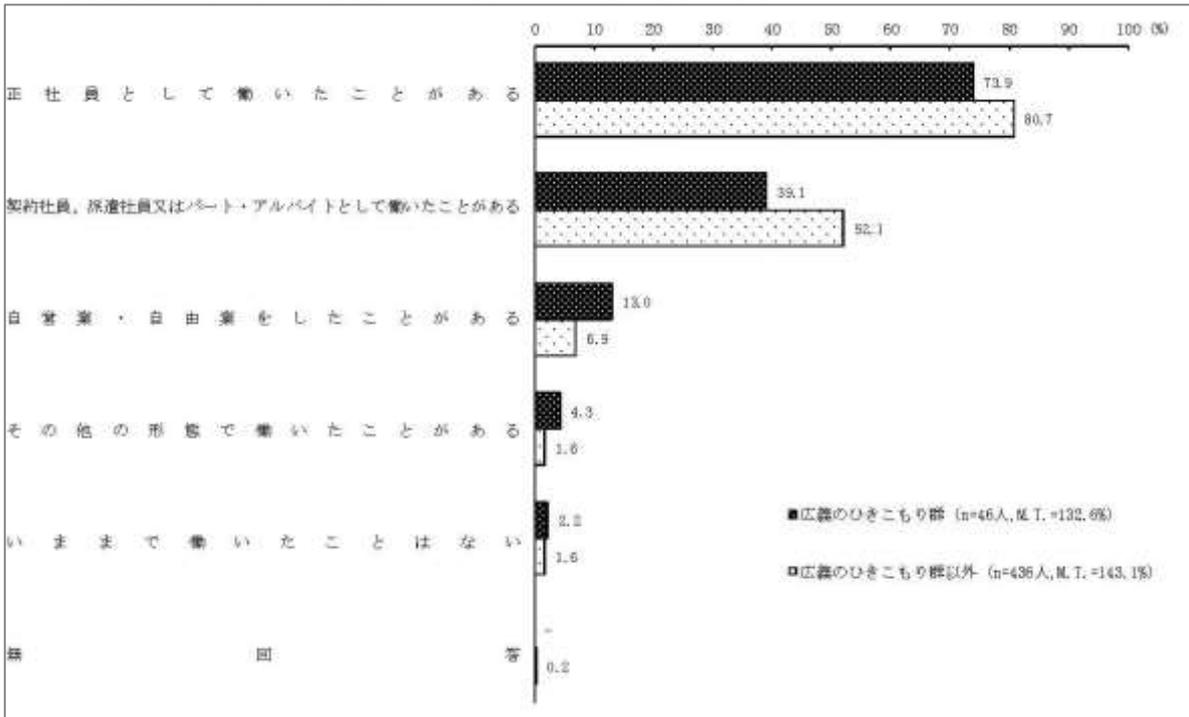
※Q 14 現在の就労・就学等の状況に関する設問で「5～8」の働いていない、専業主婦・主夫、家事手伝い、無職と選択した方のみ回答

- ・大田区のひきこもり群は「正社員として働いたことがある」が73.3%、「契約社員、派遣社員又はパート・アルバイトとして働いたことがある(学生時代の経験は含めません)」が33.3%となっている。
- ・内閣府調査(平成30年度)のひきこもり群は「正社員として働いたことがある」「契約社員、派遣社員又はパート・アルバイトとして働いたことがある」の割合が高い。
- ・大田区では、内閣府調査(平成30年度)と同様の傾向にあり、過去に就労経験のある方が多いことがうかがえる。

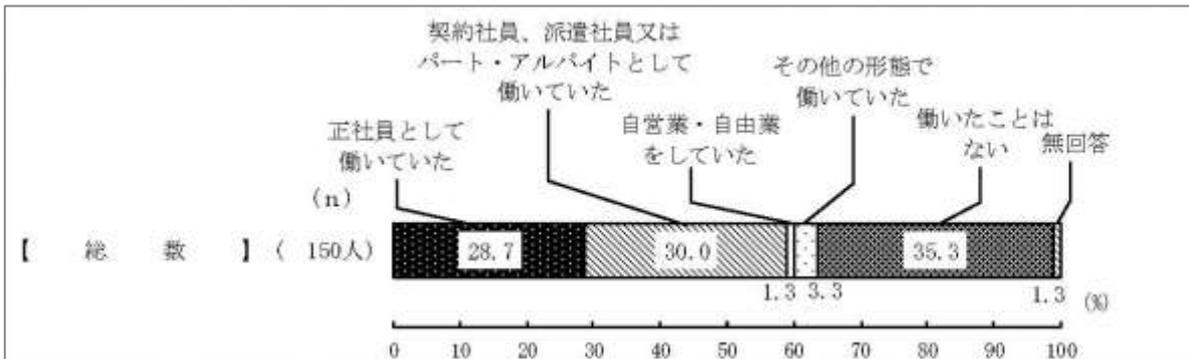
<大田区調査>※満15～64歳が調査対象



<内閣府調査（平成 30 年度）> ※満 40～64 歳が調査対象



<内閣府調査（平成 27 年度）> ※満 15～39 歳が調査対象

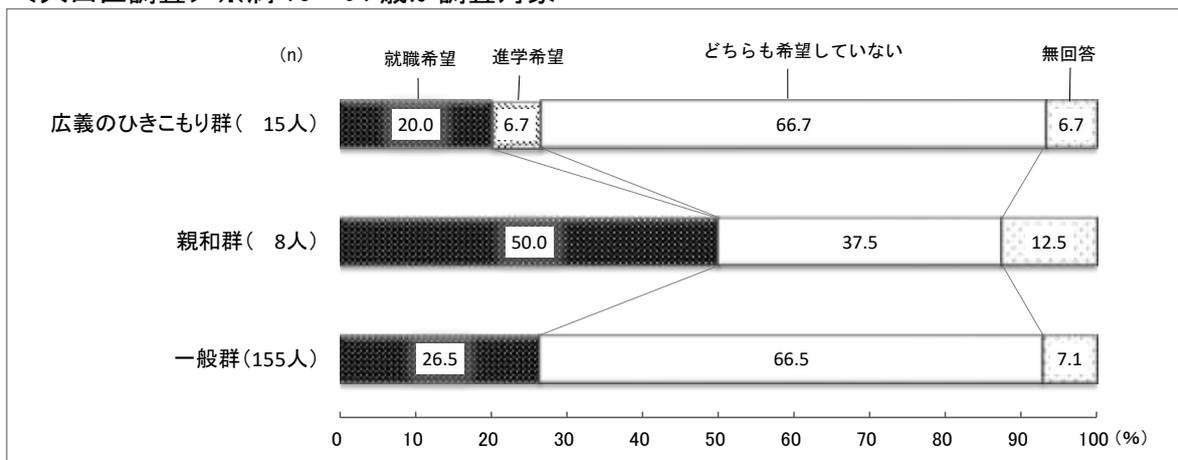


Q 1 6 現在、就職または進学を希望していますか。(単一回答)

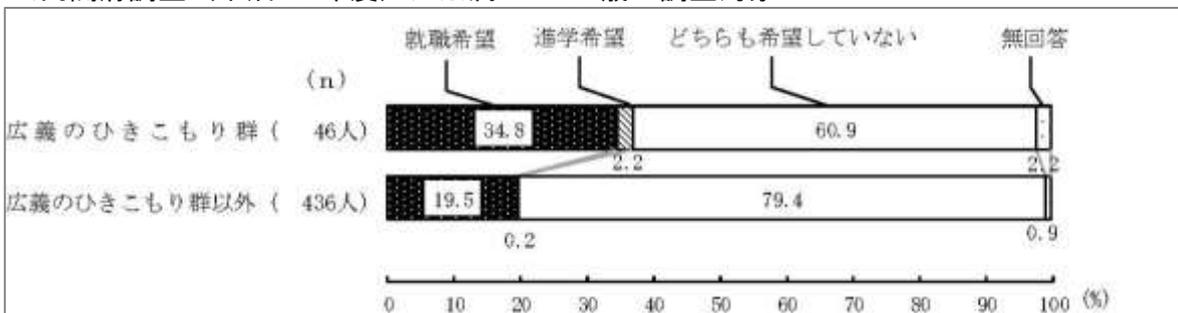
※Q 1 4 現在の就労・就学等の状況に関する設問で「5～8」の働いていない、専業主婦・主夫、家事手伝い、無職と選択した方のみ回答

- ・大田区のひきこもり群は「どちらも希望していない」が66.7%、「就職希望」が20.0%となっている。
- ・内閣府調査（平成 30 年度）のひきこもり群は、就職も進学も希望していない割合が高いが、4割は就労又は進学を希望している。
- ・大田区では、内閣府調査（平成 30 年度）と同様の傾向にある。

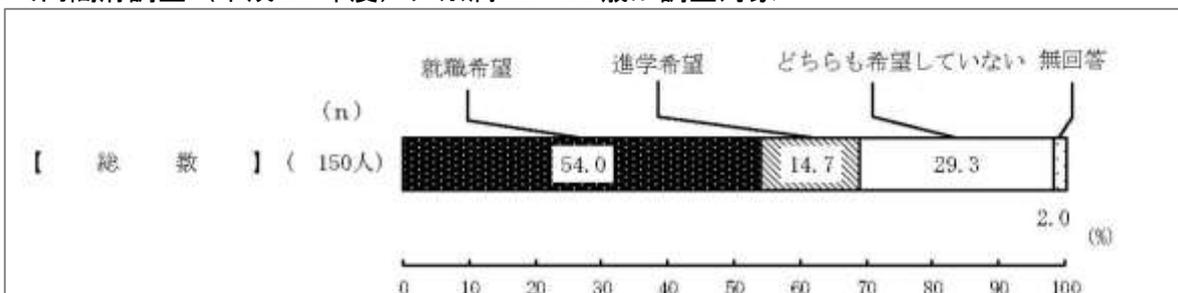
＜大田区調査＞※満 15～64 歳が調査対象



＜内閣府調査（平成 30 年度）＞※満 40～64 歳が調査対象



＜内閣府調査（平成 27 年度）＞※満 15～39 歳が調査対象

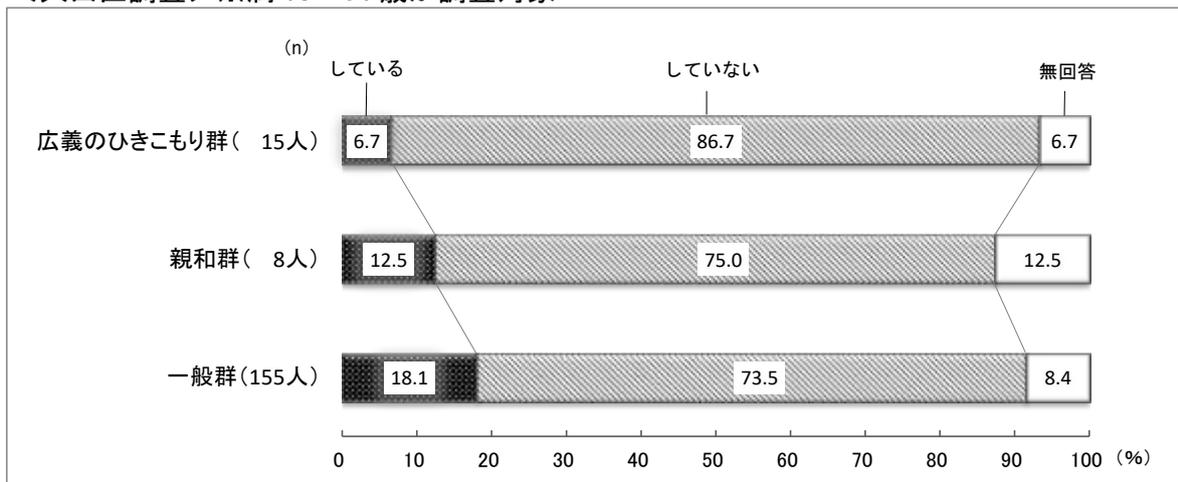


Q 1 7 現在、就職活動をしていますか。(単一回答)

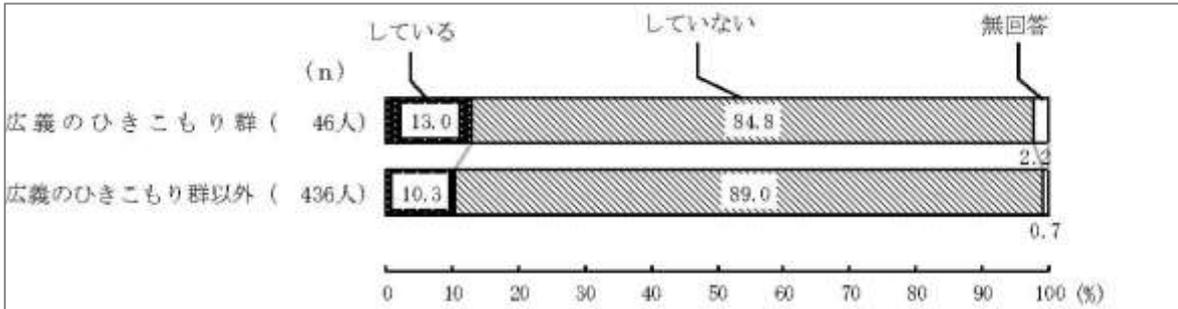
※Q 1 4 現在の就労・就学等の状況に関する設問で「5～8」の働いていない、専業主婦・主夫、家事手伝い、無職と選択した方のみ回答

- 大田区のひきこもり群は「就職活動をしていない」が86.7%となっている。
- 内閣府調査（平成30年度）のひきこもり群は就職活動をしていない割合が高い。
- 大田区では、内閣府調査（平成30年度）と同様の傾向にある。

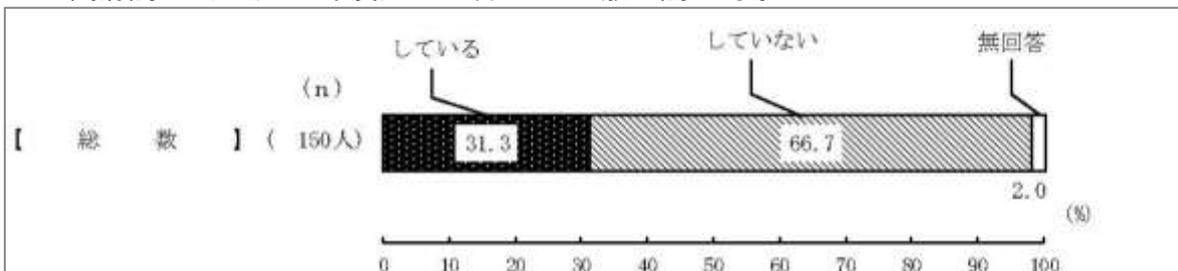
＜大田区調査＞※満15～64歳が調査対象



＜内閣府調査（平成30年度）＞※満40～64歳が調査対象



＜内閣府調査（平成27年度）＞※満15～39歳が調査対象

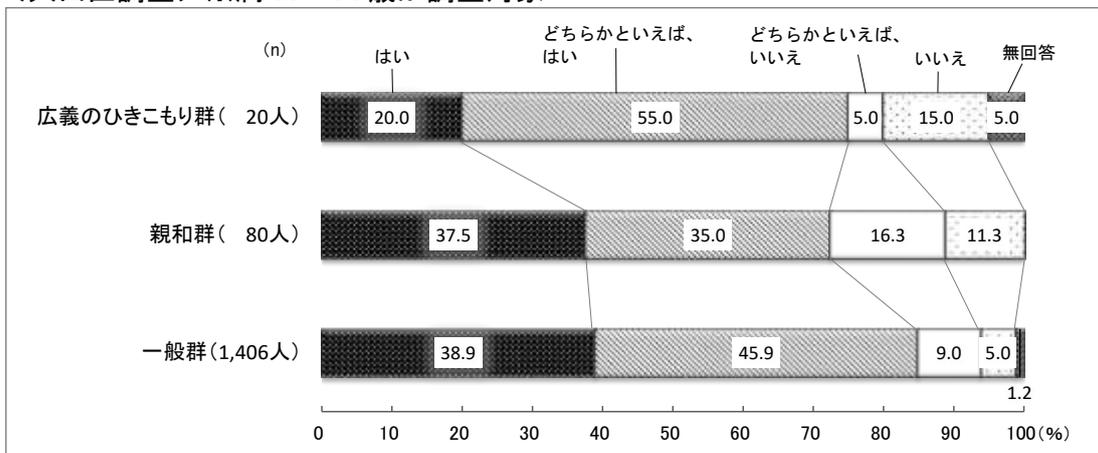


Q 18 次に挙げられた職業に関する意見の中で、あなたの考えにあてはまるものに○をつけてください。(単一回答)

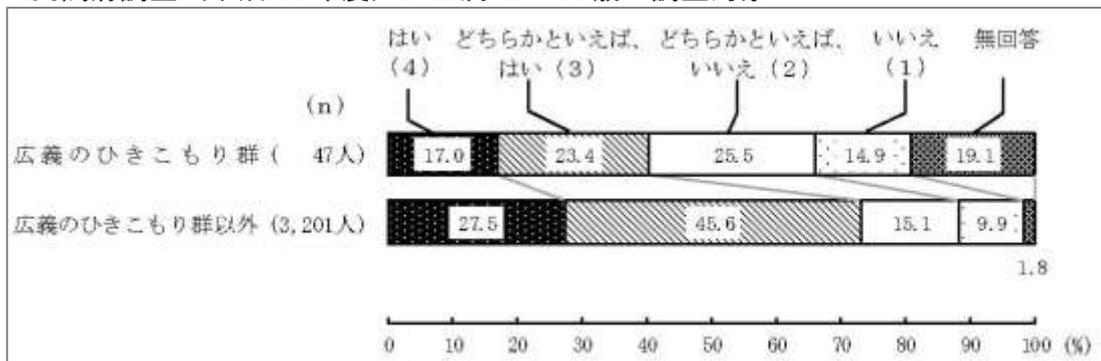
(1) 自分にふさわしい仕事はどこかにあると思う

- 大田区のひきこもり群は「どちらかといえば、はい」が55.0%、「はい」が20.0%となっている。
- 内閣府調査(平成30・27年度)のひきこもり群は「どちらかといえば、いいえ」の割合が高い。
- 大田区では、内閣府調査(平成30・27年度)と比べて、「はい」「どちらかといえば、はい」の割合が高く、就労への期待を高く持つ傾向にある。

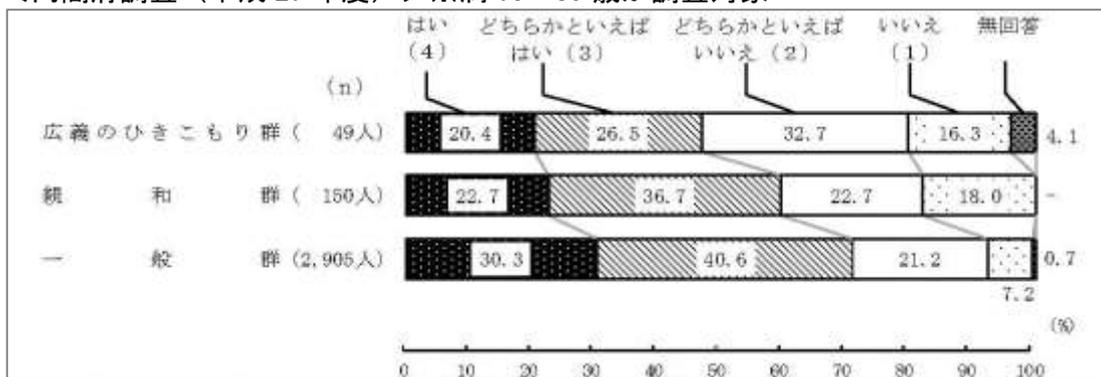
<大田区調査> ※満15~64歳が調査対象



<内閣府調査(平成30年度)> ※満40~64歳が調査対象



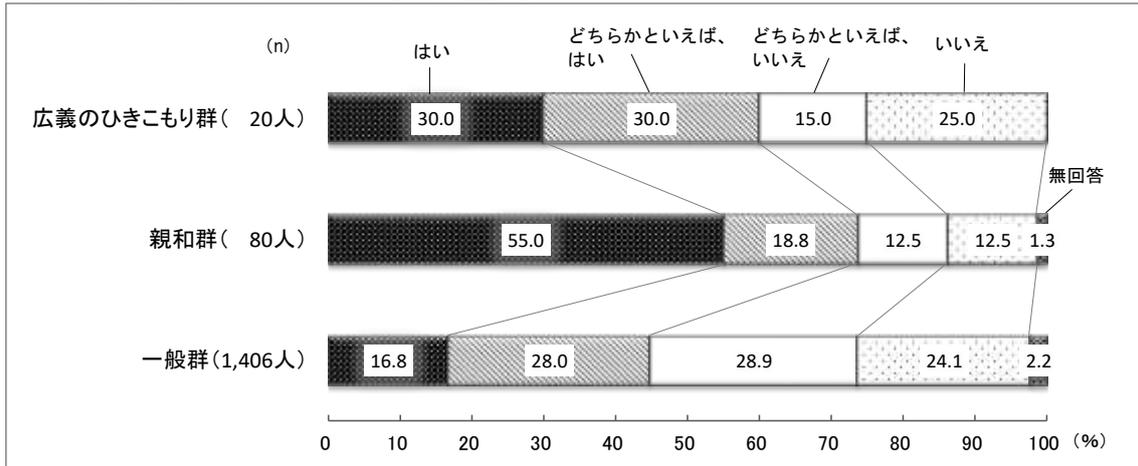
<内閣府調査(平成27年度)> ※満15~39歳が調査対象



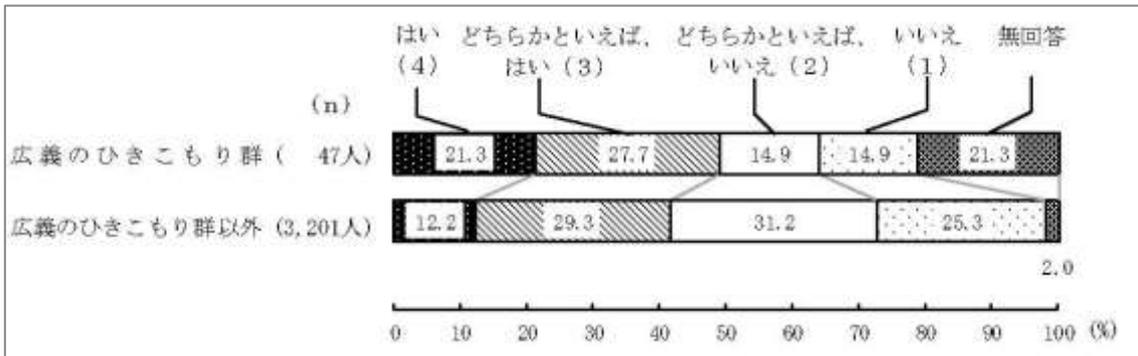
(2) まだ自分の夢を実現させる仕事に就けていないと思う

- 大田区のひきこもり群は「はい」「どちらかといえば、はい」がいずれも30.0%となっている。
- 内閣府調査（平成30・27年度）のひきこもり群は「はい」「どちらかといえば、はい」の割合が高い。
- 大田区では、内閣府調査（平成30・27年度）と比べて大きな差はみられず、「はい」「どちらかといえば、はい」が6割を占めており、就労への期待を高く持つ傾向にある。

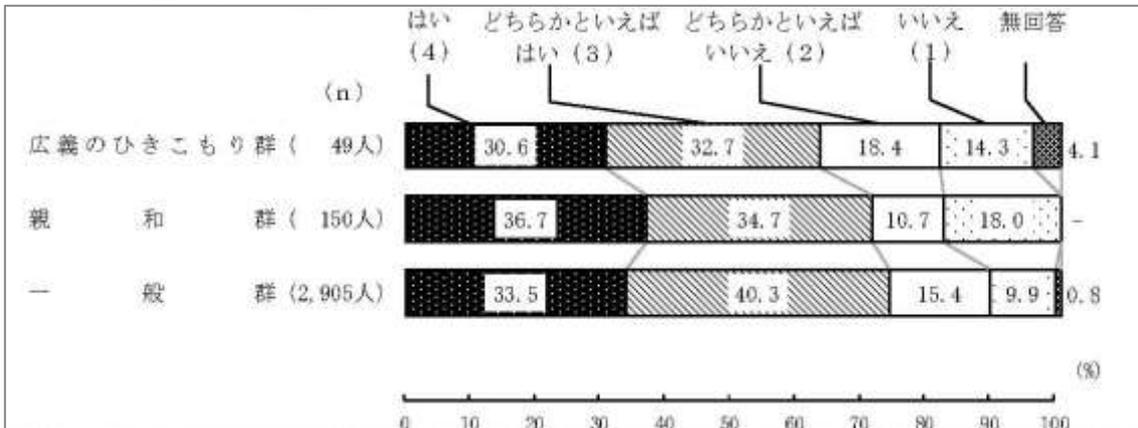
<大田区調査> ※満15～64歳が調査対象



<内閣府調査（平成30年度）> ※満40～64歳が調査対象



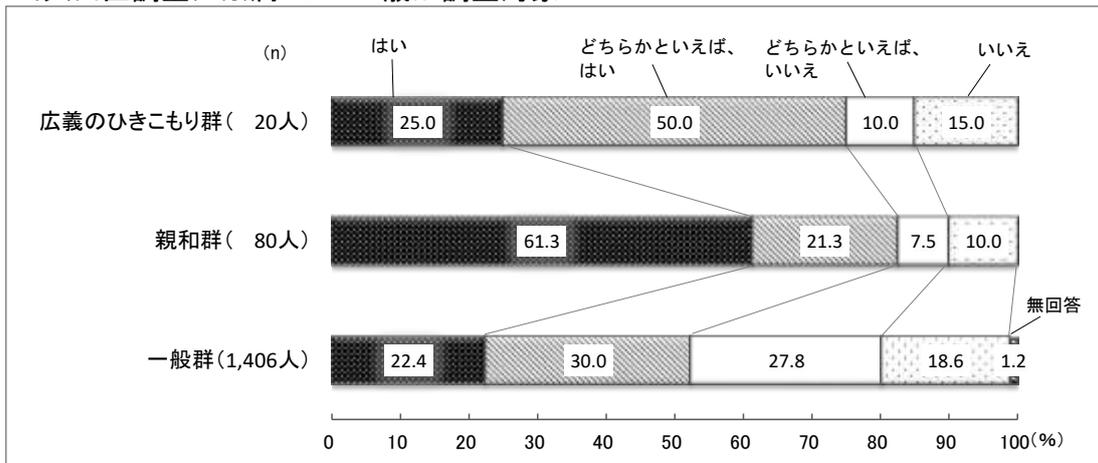
<内閣府調査（平成27年度）> ※満15～39歳が調査対象



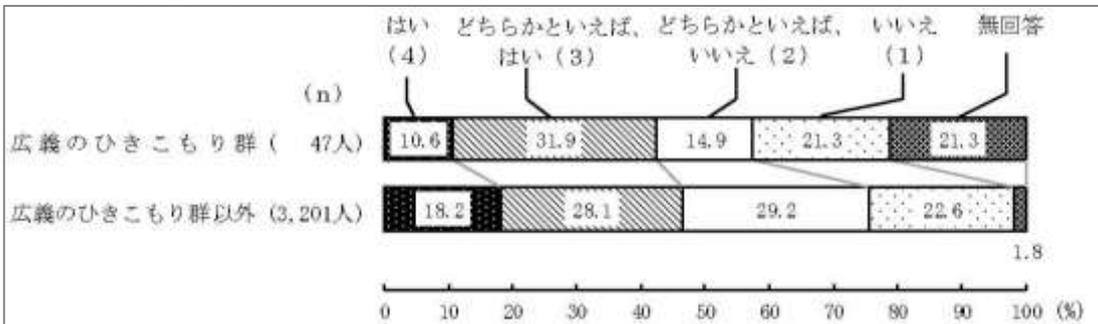
(3) 仕事をしなくても生活できるのならば、仕事はしたくない

- 大田区のひきこもり群は「どちらかといえば、はい」が50.0%、「はい」が25.0%となっている。
- 内閣府調査（平成 30・27 年度）のひきこもり群は「どちらかといえば、はい」の割合が高い。
- 大田区では、内閣府調査（平成 30・27 年度）と比べて、「はい」「どちらかといえば、はい」が7割以上を占めており、就労意欲が乏しい傾向にある。

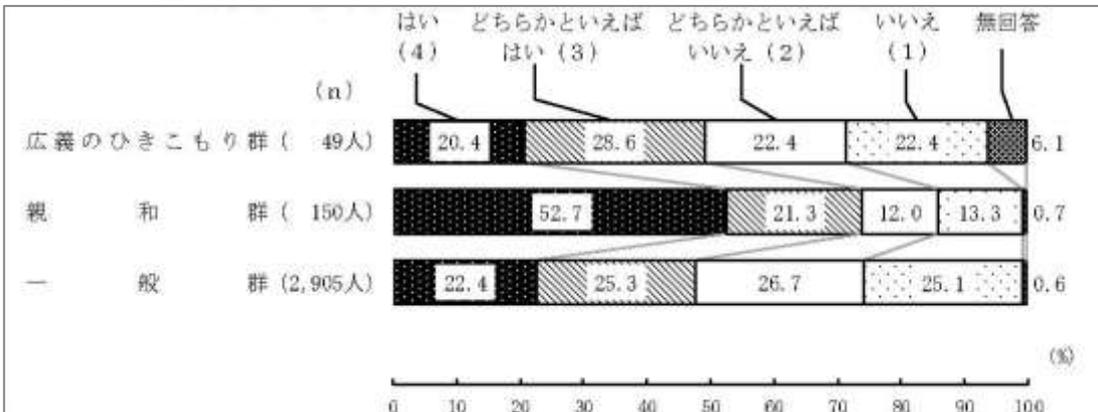
＜大田区調査＞※満 15～64 歳が調査対象



＜内閣府調査（平成 30 年度）＞※満 40～64 歳が調査対象



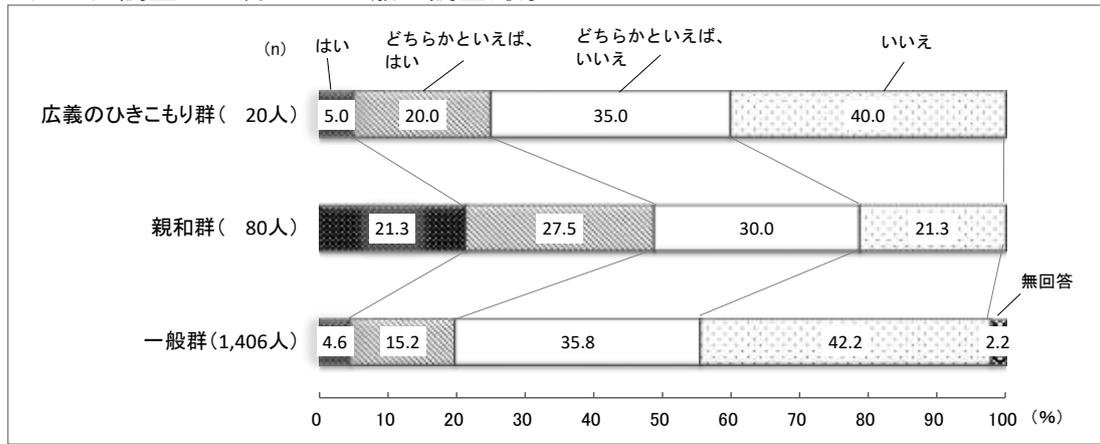
＜内閣府調査（平成 27 年度）＞※満 15～39 歳が調査対象



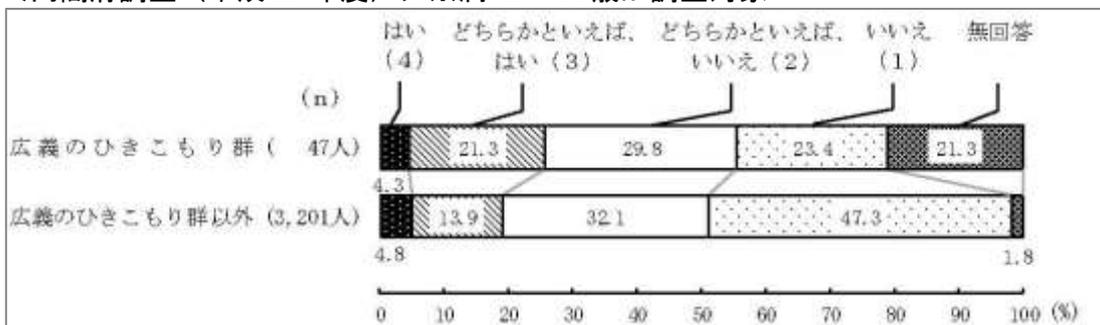
(4) 定職に就かない方が自由でいいと思う

- 大田区のひきこもり群は「いいえ」が40.0%、「どちらかといえば、いいえ」が35.0%となっている。
- 内閣府調査（平成30・27年度）のひきこもり群は「どちらかといえば、いいえ」「いいえ」の割合が高い。
- 大田区では、内閣府調査（平成30・27年度）と比べて大きな差はみられず、「どちらかといえば、いいえ」「いいえ」が7割以上を占めており、定職に就く必要性を感じている傾向にある。

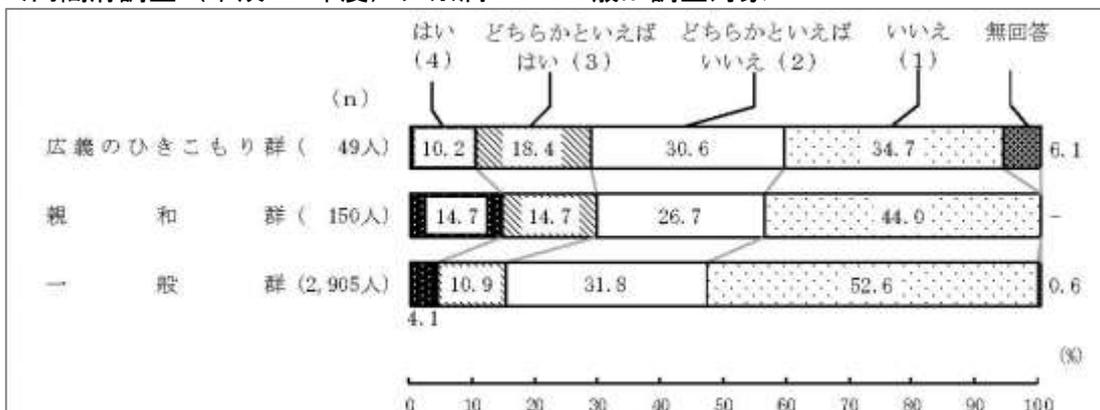
＜大田区調査＞※満15～64歳が調査対象



＜内閣府調査（平成30年度）＞※満40～64歳が調査対象



＜内閣府調査（平成27年度）＞※満15～39歳が調査対象

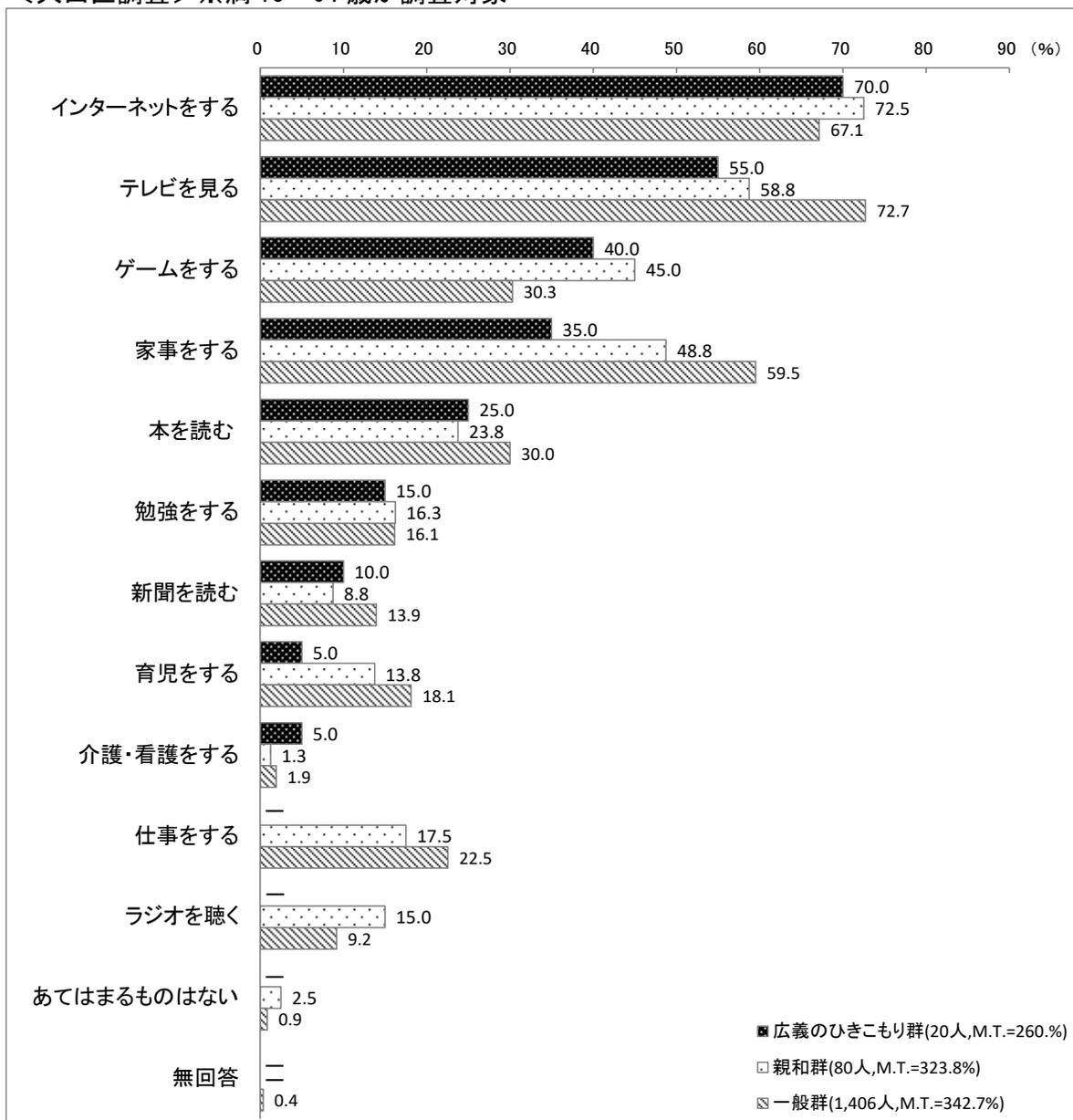


■ ふだんの生活について

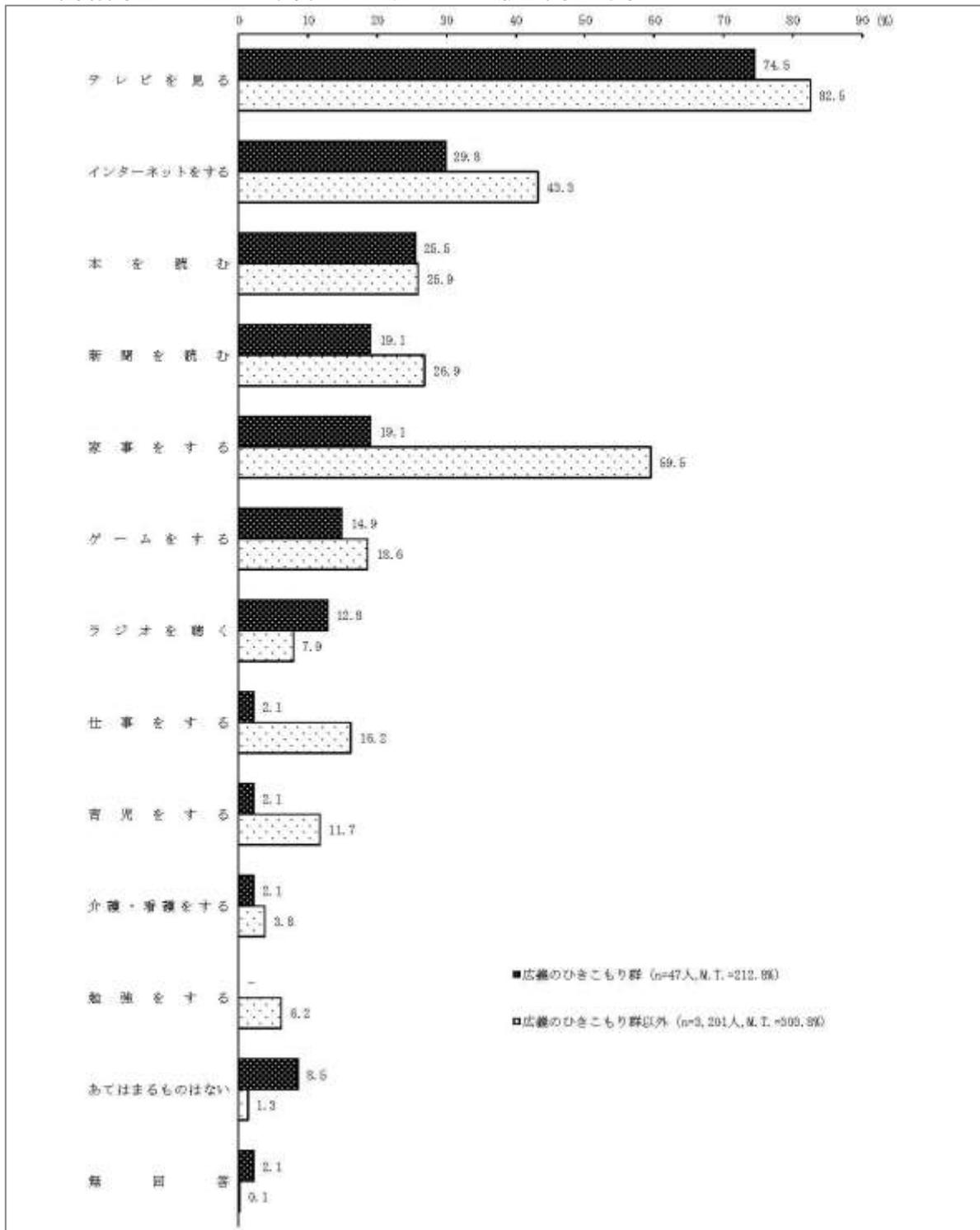
Q19 ふだんご自宅にいるときに、よくしていることすべてに○をつけてください。(複数回答)

- ・大田区のひきこもり群は「インターネットをする」が70.0%、「テレビを見る」が55.0%となっている。
- ・内閣府調査(平成30・27年度)のひきこもり群は「テレビを見る」と「インターネットをする」の回答が上位となっている。
- ・大田区では、内閣府調査(平成30・27年度)と比べて上位の回答に大きな差はみられない。一方、「家事をする」の割合は高い傾向にある。

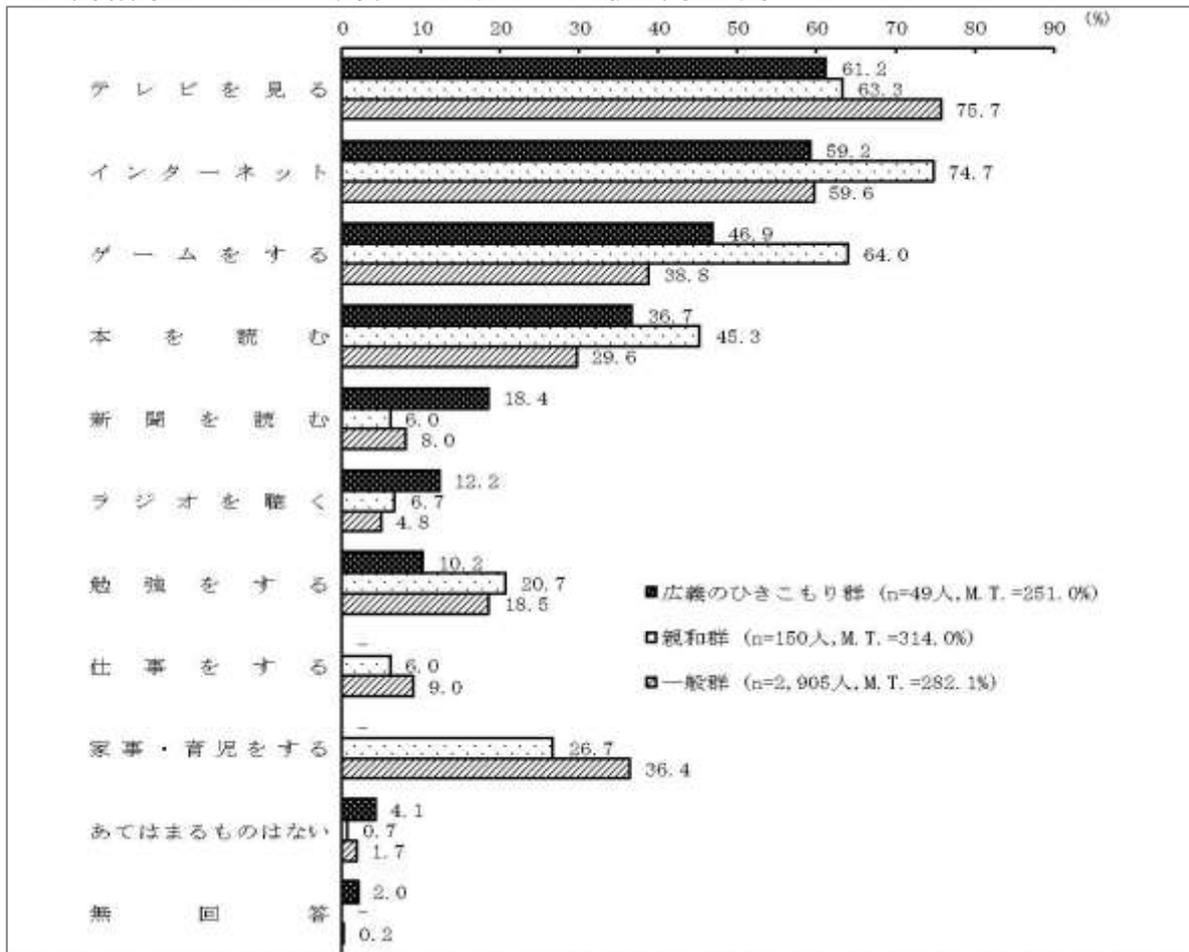
<大田区調査>※満15～64歳が調査対象



＜内閣府調査（平成 30 年度）＞※満 40～64 歳が調査対象



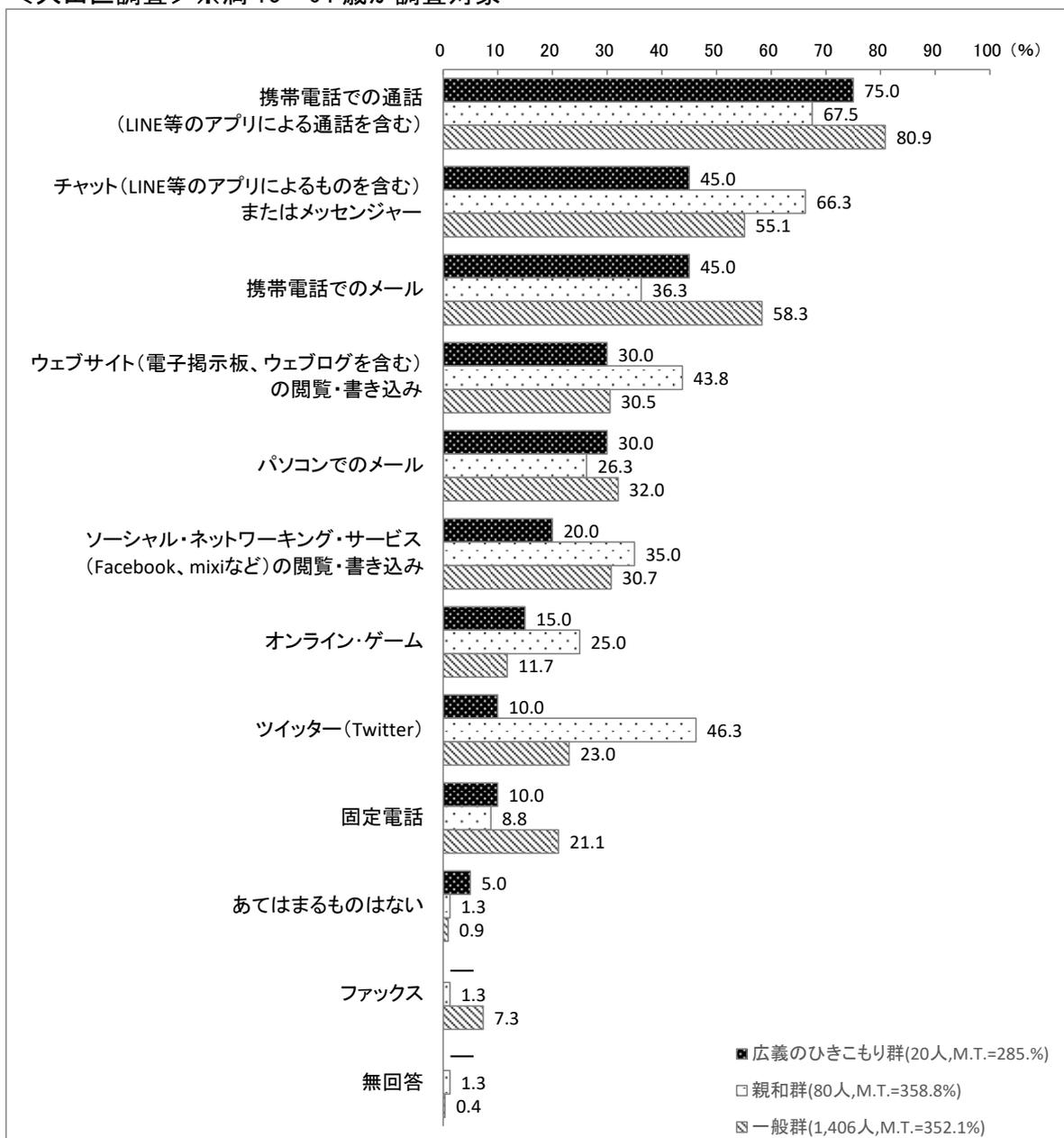
<内閣府調査（平成 27 年度）> ※満 15～39 歳が調査対象



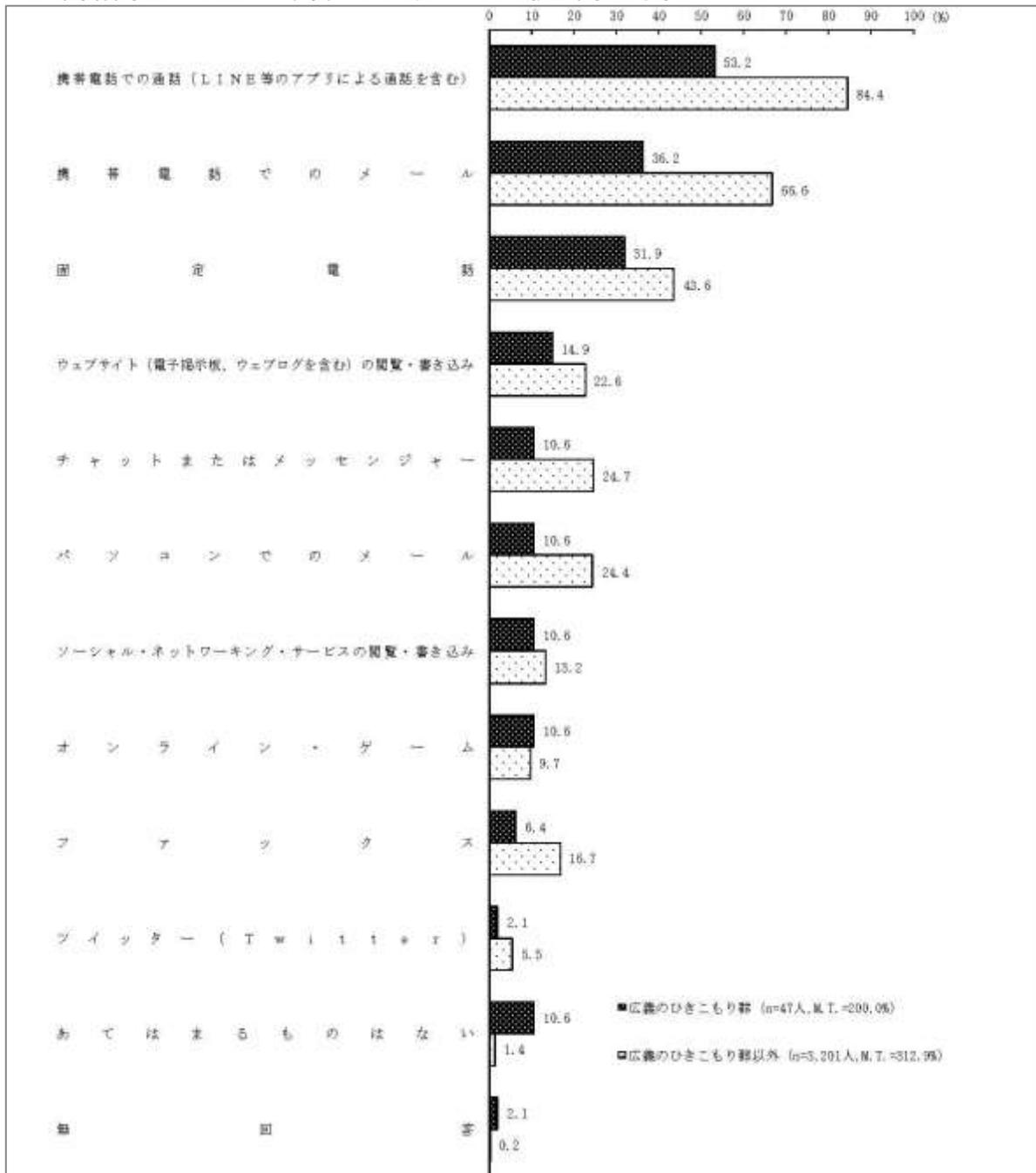
Q20 以下に挙げられた通信手段の中で、ふだん利用しているものすべてに○をつけてください。  
(複数回答)

- ・大田区のひきこもり群は「携帯電話での通話(LINE等のアプリによる通話を含む)」が75.0%、「チャット(LINE等のアプリによるものを含む) またはメッセージ」「携帯電話でのメール」がそれぞれ45.0%となっている。
- ・内閣府調査(平成30・27年度)のひきこもり群は「携帯電話での通話(LINE等のアプリによる通話を含む)」「携帯電話でのメール」の回答が上位となっている。
- ・大田区では、内閣府調査(平成30・27年度)と同様の傾向にあり、携帯電話やSNSなどのインターネットを用いた通信手段を使用するとの回答が多い。

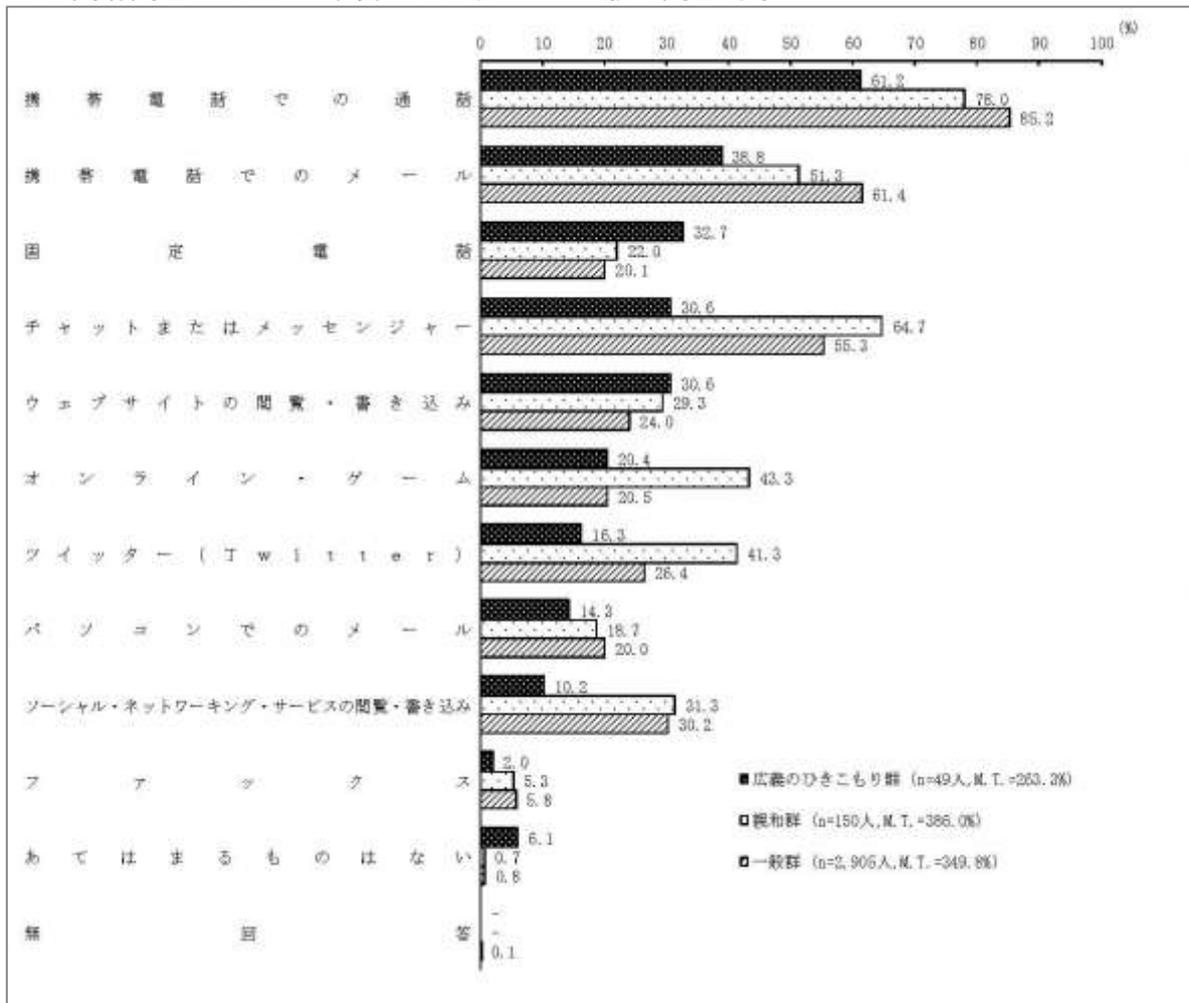
<大田区調査> ※満15~64歳が調査対象



<内閣府調査（平成30年度）> ※満40～64歳が調査対象



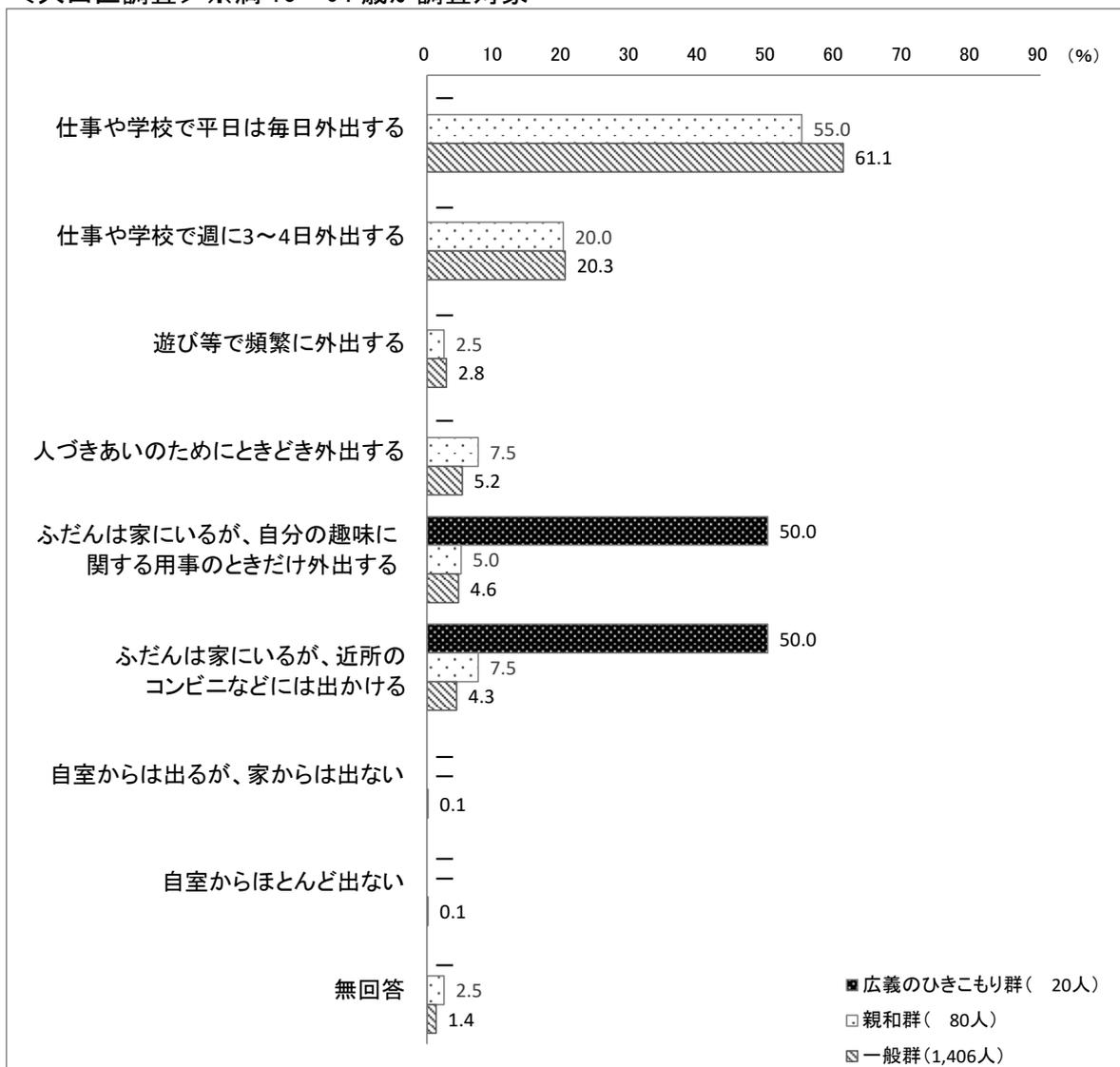
<内閣府調査（平成27年度）> ※満15～39歳が調査対象



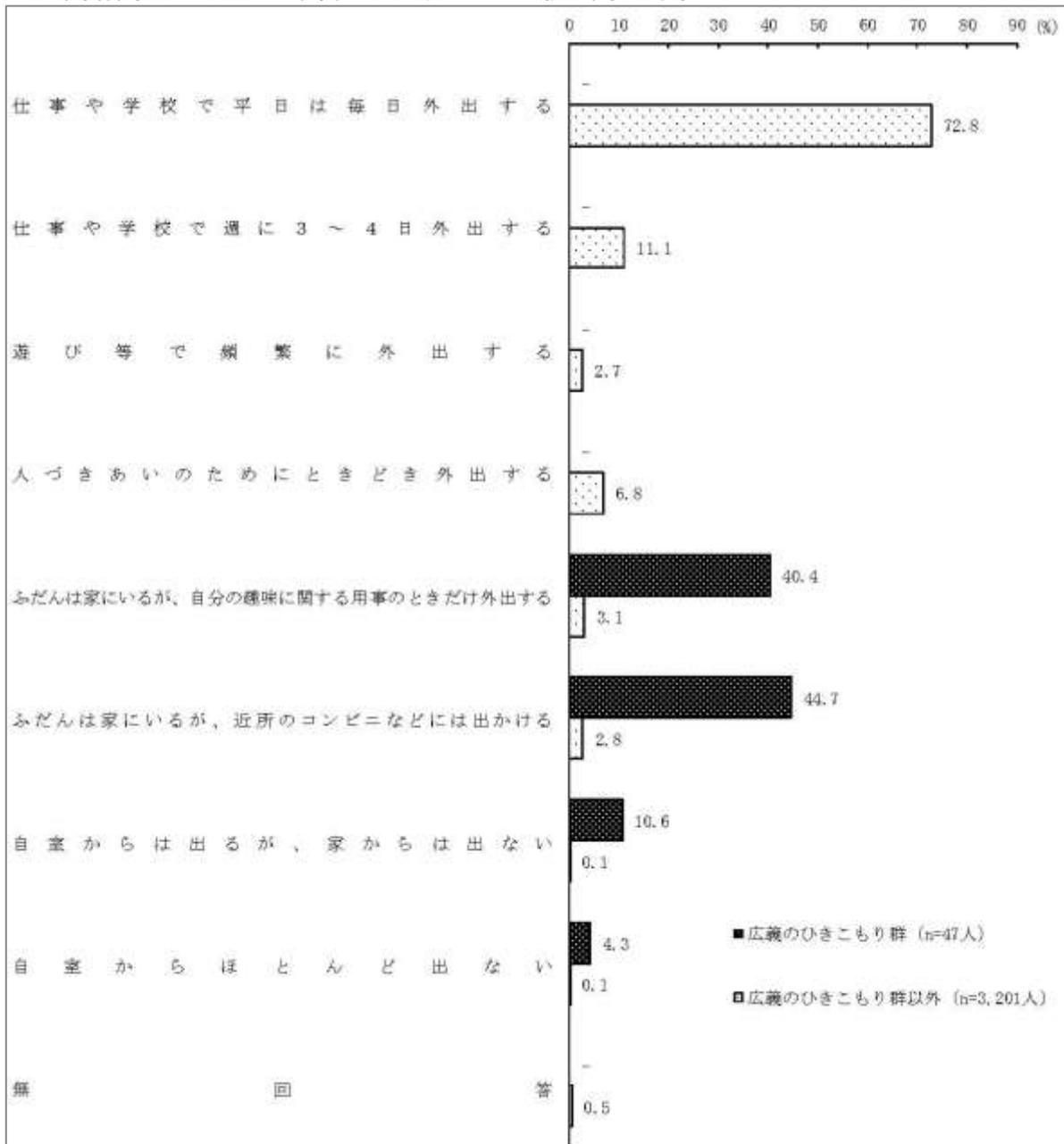
Q 2 1 ふだんどのくらい外出しますか。(単一回答)

- ・大田区のひきこもり群は「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事的时候だけ外出する」「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」がいずれも 50.0%となっている。
- ・内閣府調査（平成 30・27 年度）のひきこもり群は「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事的时候だけ外出する」「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」の割合が高い。
- ・大田区では、内閣府調査（平成 30・27 年度）と同様の傾向にあるが、自室もしくは自宅から出ないとの回答はみられない。

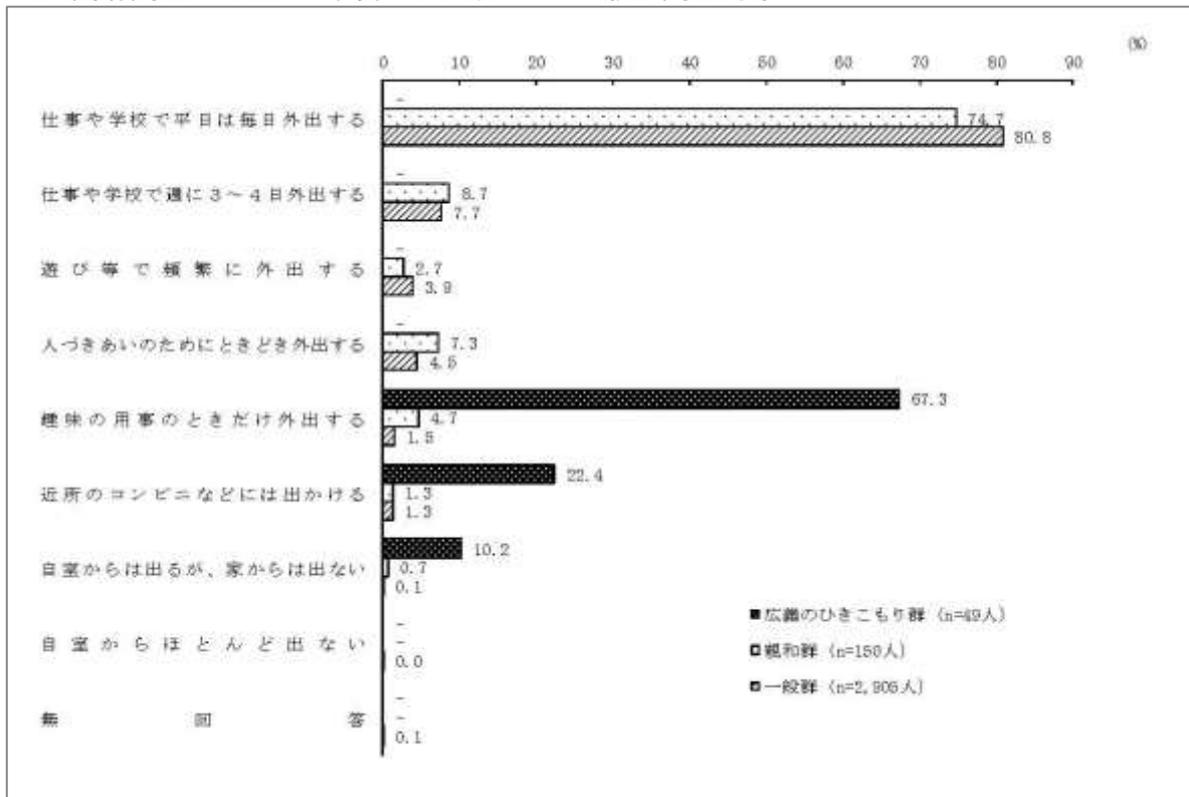
<大田区調査> ※満 15～64 歳が調査対象



<内閣府調査（平成30年度）> ※満40～64歳が調査対象



<内閣府調査（平成27年度）> ※満15～39歳が調査対象

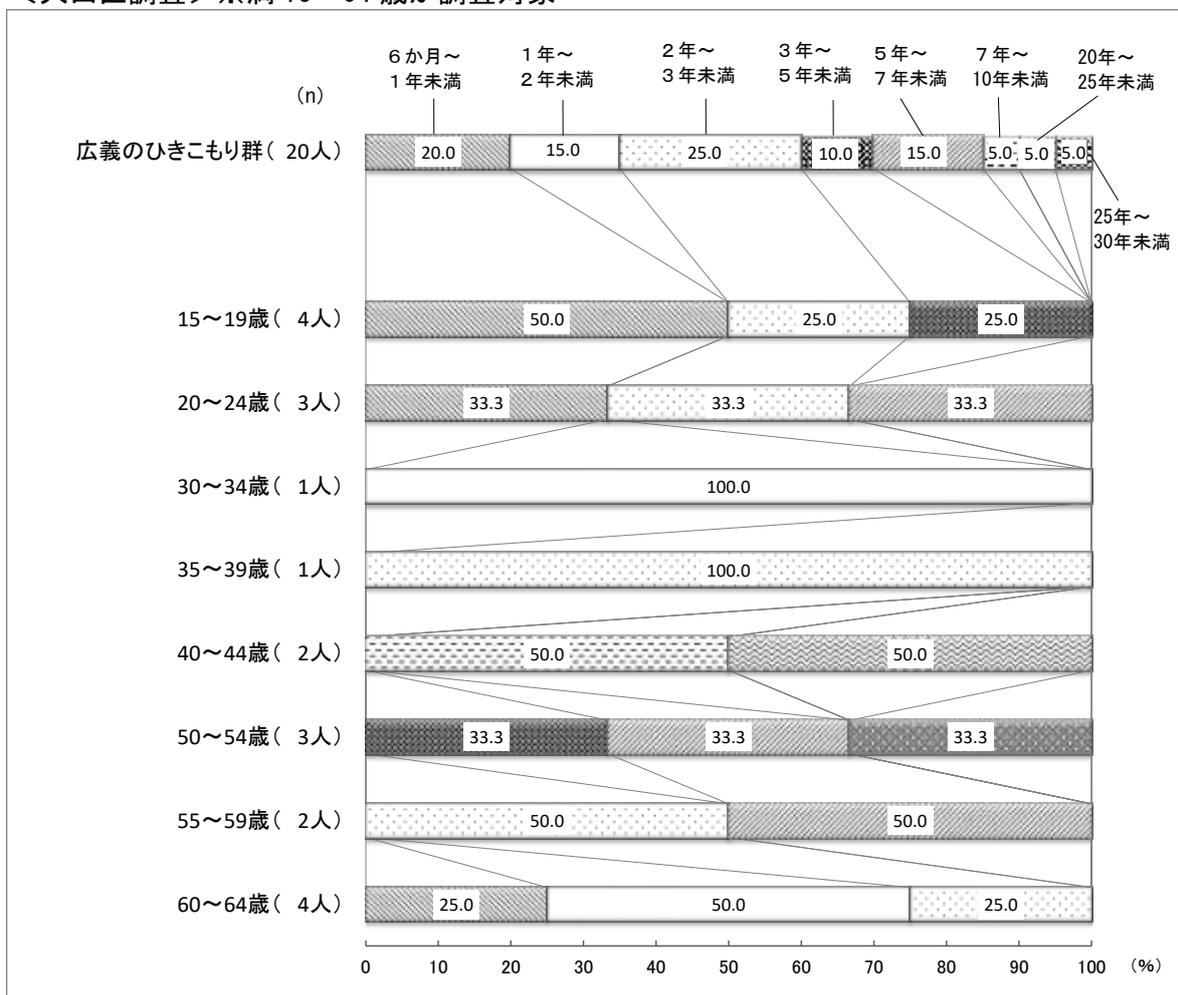


Q 2 2 現在の状態となってどのくらい経ちますか。(単一回答)

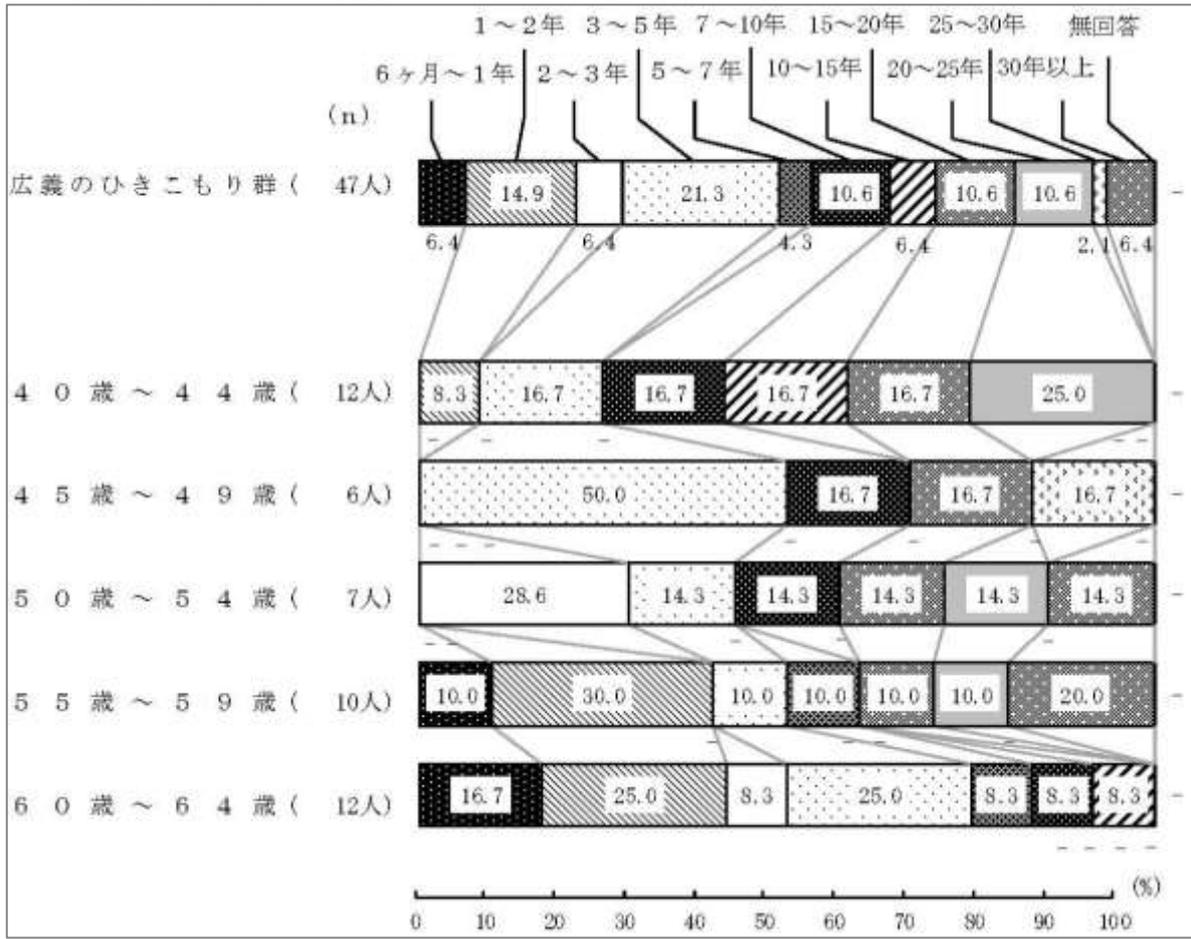
※Q 2 1 ふだんの外出状況に関する設問で「5～8」の趣味や近所への外出又は家から出ないと選択した方のみ回答

- 大田区のひきこもり群は「2年～3年未満」が25.0%、「6か月～1年未満」が20.0%となっている。
- 内閣府調査（平成30年度）のひきこもり群は「3～5年未満」の割合が高く、内閣府調査（平成27年度）では「7年以上」の割合が高い。
- 大田区では、「3年未満」が6割を占めており、内閣府調査（平成30・27年度）と比べて現在の状態となった期間が短い傾向にある。

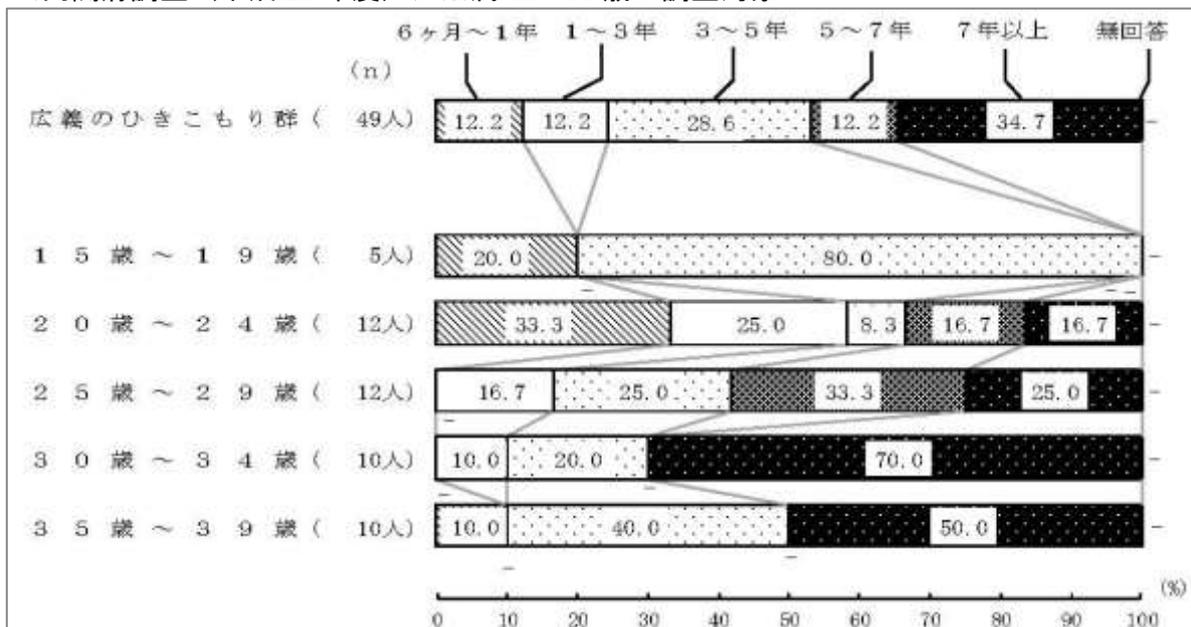
＜大田区調査＞※満15～64歳が調査対象



<内閣府調査（平成 30 年度）> ※満 40～64 歳が調査対象



<内閣府調査（平成 27 年度）> ※満 15～39 歳が調査対象

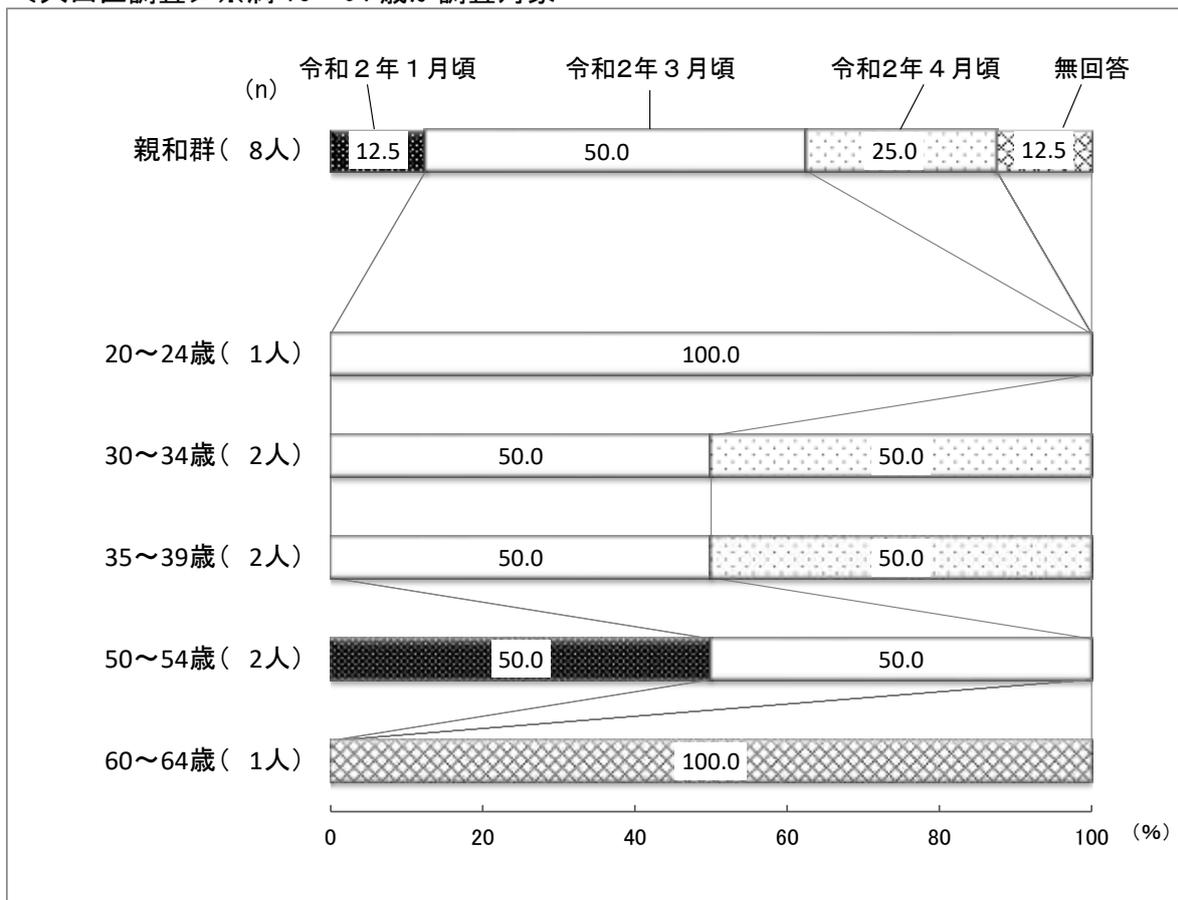


Q 2 3 おおよその時期を記入してください。(数字で具体的に)

※Q 2 1 ふだんの外出状況に関する設問で「5～8」の趣味や近所への外出又は家から出ないと選択した方かつ、Q 2 2 現在の状況になってからの期間に関する設問で「1～2」の6か月未満又は6か月～1年未満と選択した方のみ回答

- 大田区のひきこもり群の回答はなし。
- 親和群は全体では「令和2年3月頃」が50.0%、「令和2年4月頃」が25.0%となっている。これについては、新型コロナウイルスの影響が考えられる。

<大田区調査>※満15～64歳が調査対象

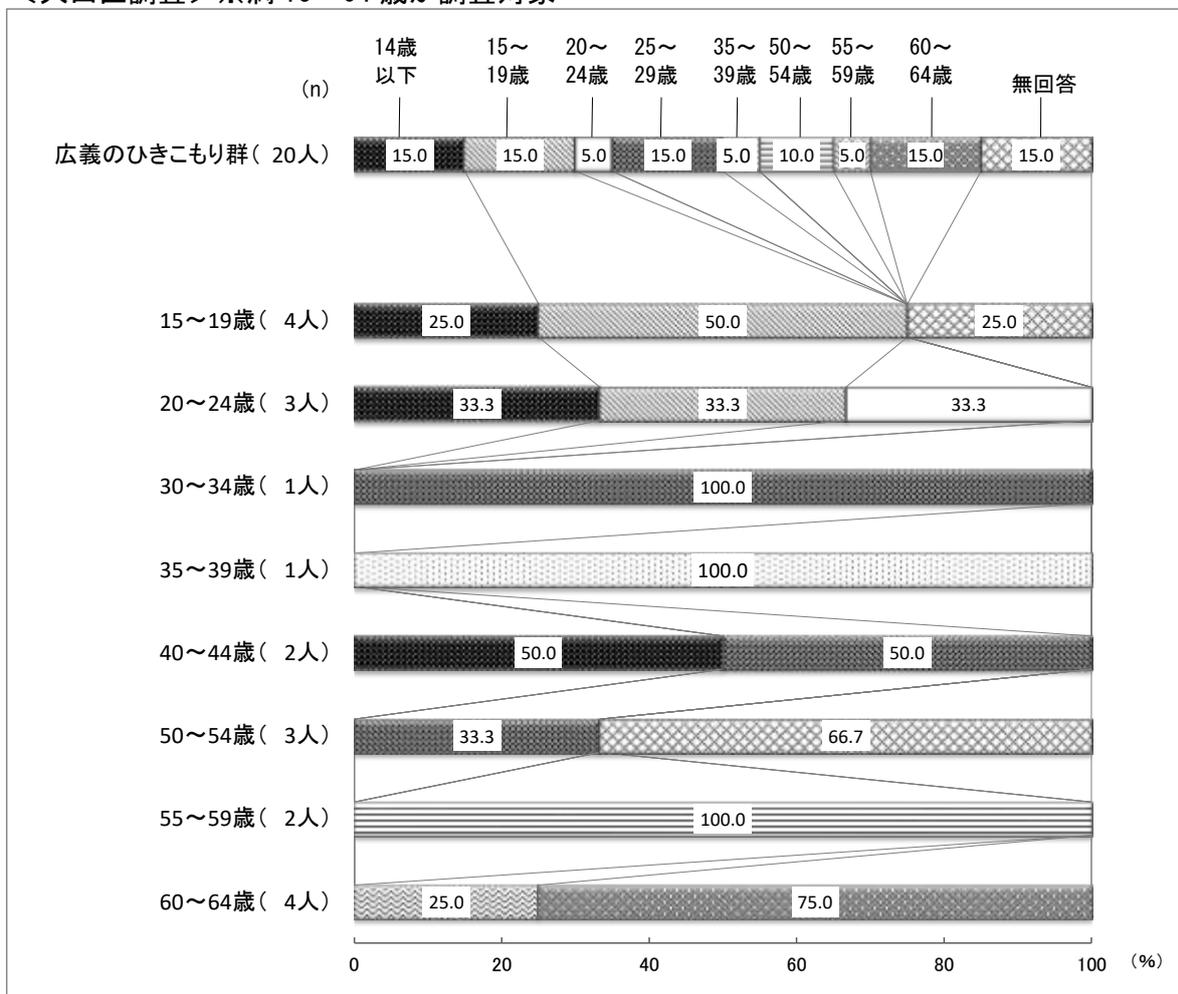


Q 2 4 初めて現在の状態になったのは、あなたが何歳の頃ですか。(数字で具体的に)

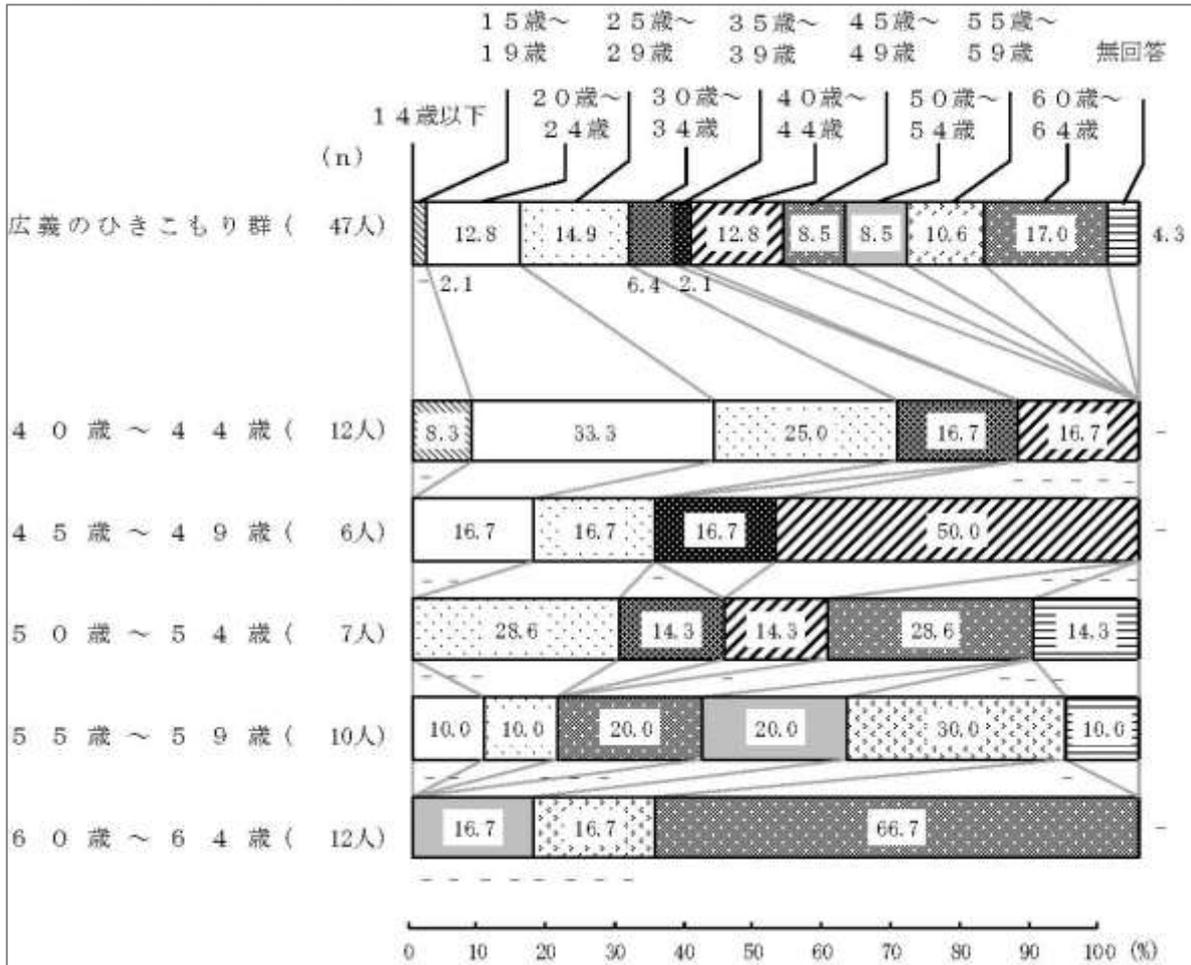
※Q 2 1 ふだんの外出状況に関する設問で「5～8」の趣味や近所への外出又は家から出ないと選択した方のみ回答

- 大田区のひきこもり群は「14歳以下」「15～19歳」「25～29歳」「60～64歳」がそれぞれ15.0%となっている。
- 内閣府調査（平成30年度）のひきこもり群では「60～64歳」が17.0%、「25～29歳」が14.9%、内閣府調査（平成27年度）では「20～24歳」が34.7%、「15～19歳」が30.6%となっている。
- 大田区、内閣府調査（平成30・27年度）ともに現在の状態になった年齢は分散しているが、10～20代との回答が5割を占めており、きっかけが若年の時期にあることがうかがえる。

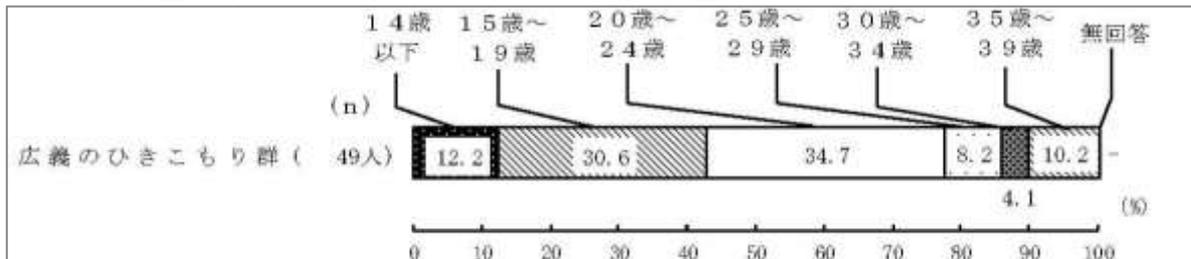
<大田区調査>※満15～64歳が調査対象



<内閣府調査（平成 30 年度）> ※満 40～64 歳が調査対象



<内閣府調査（平成 27 年度）> ※満 15～39 歳が調査対象

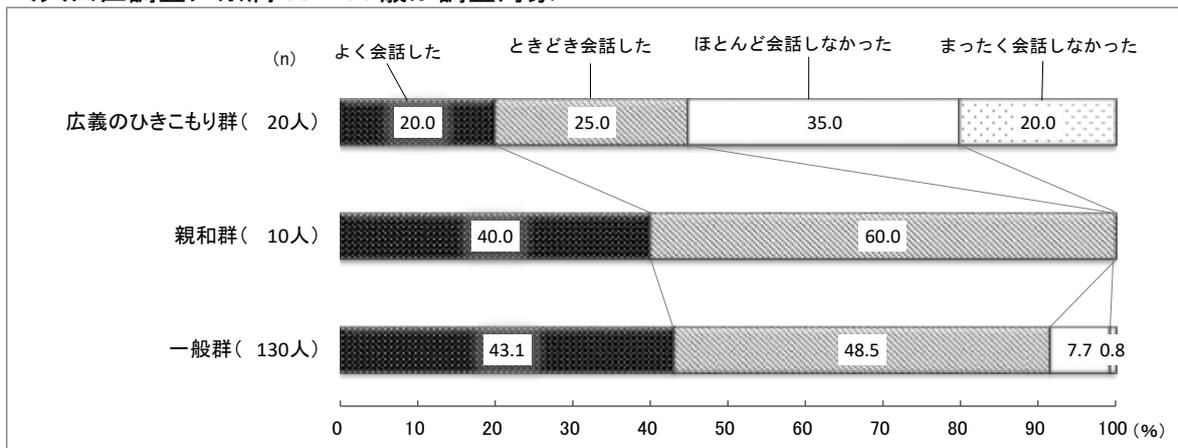


Q 2 5 最近 6 ヶ月間に家族以外の人と会話しましたか。(単一回答)

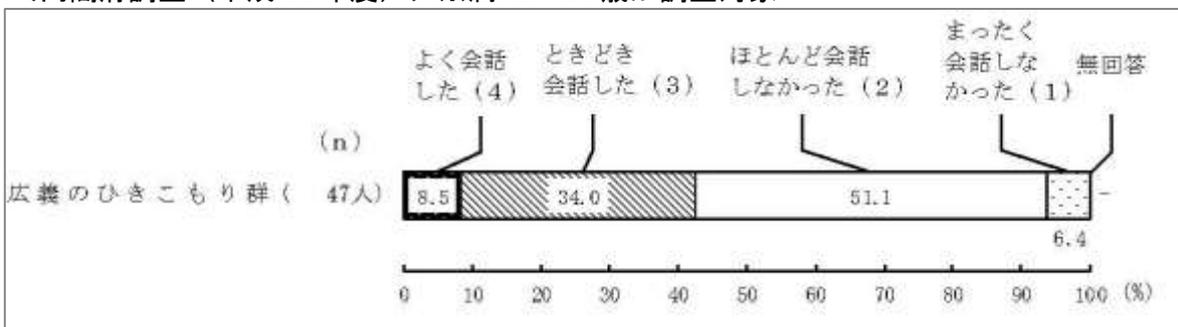
※Q 2 1 ふだんの外出状況に関する設問で「5～8」の趣味や近所への外出又は家から出ないと選択した方のみ回答

- 大田区のひきこもり群は「ほとんど会話しなかった」が 35.0%、「ときどき会話した」が 25.0% となっている。
- 内閣府調査（平成 30 年度）のひきこもり群は「ほとんど会話しなかった」の割合が高い。
- 内閣府調査（平成 30 年度）と同様、4 割以上の方が家族以外の人との交流があり、特に大田区では「よく会話した」の割合が高い。

<大田区調査>※満 15～64 歳が調査対象



<内閣府調査（平成 30 年度）>※満 40～64 歳が調査対象



<内閣府調査（平成 27 年度）>※満 15～39 歳が調査対象

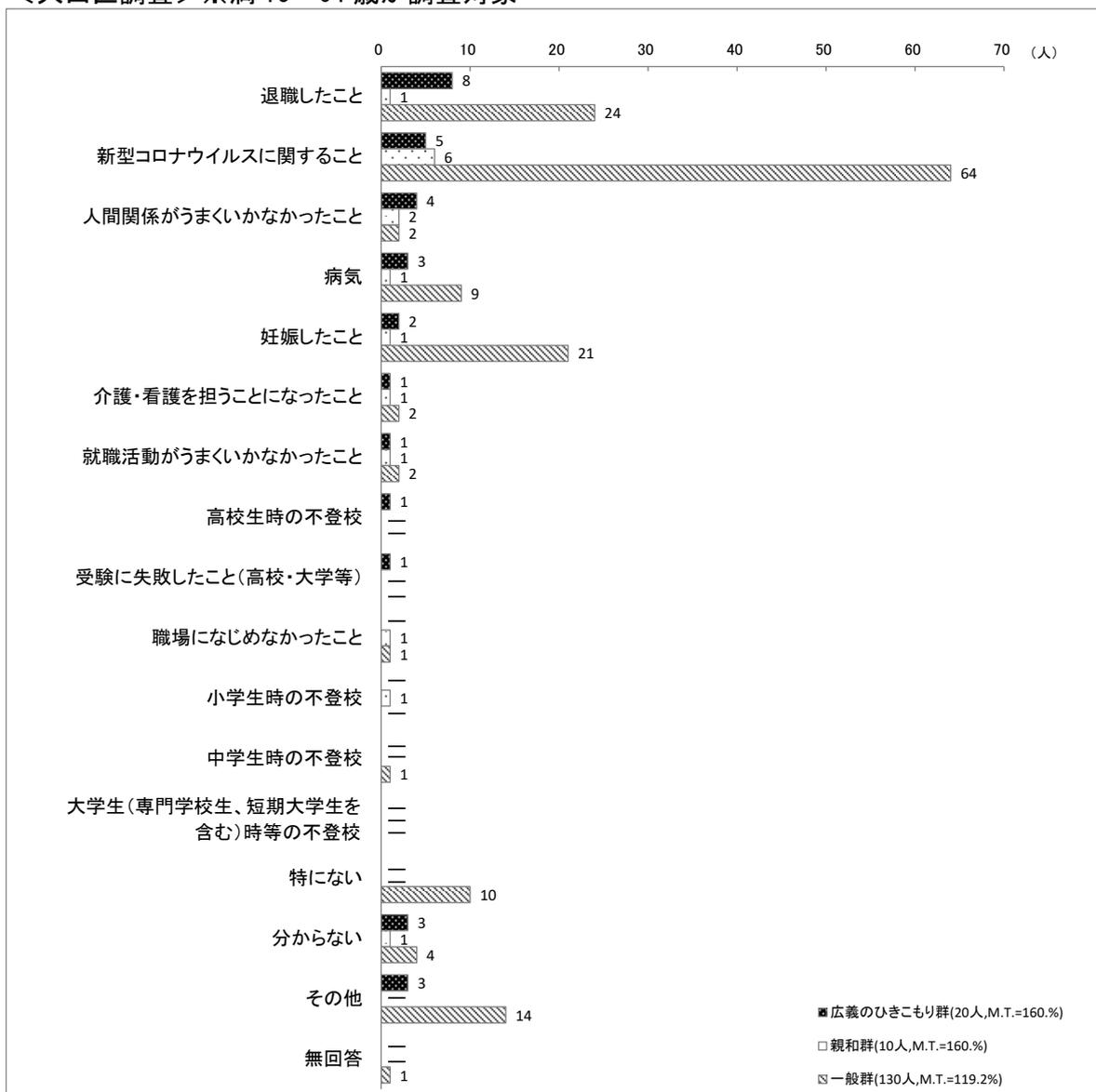
設問なし

Q 2 6 現在の状態になったきっかけは何ですか。(複数回答)

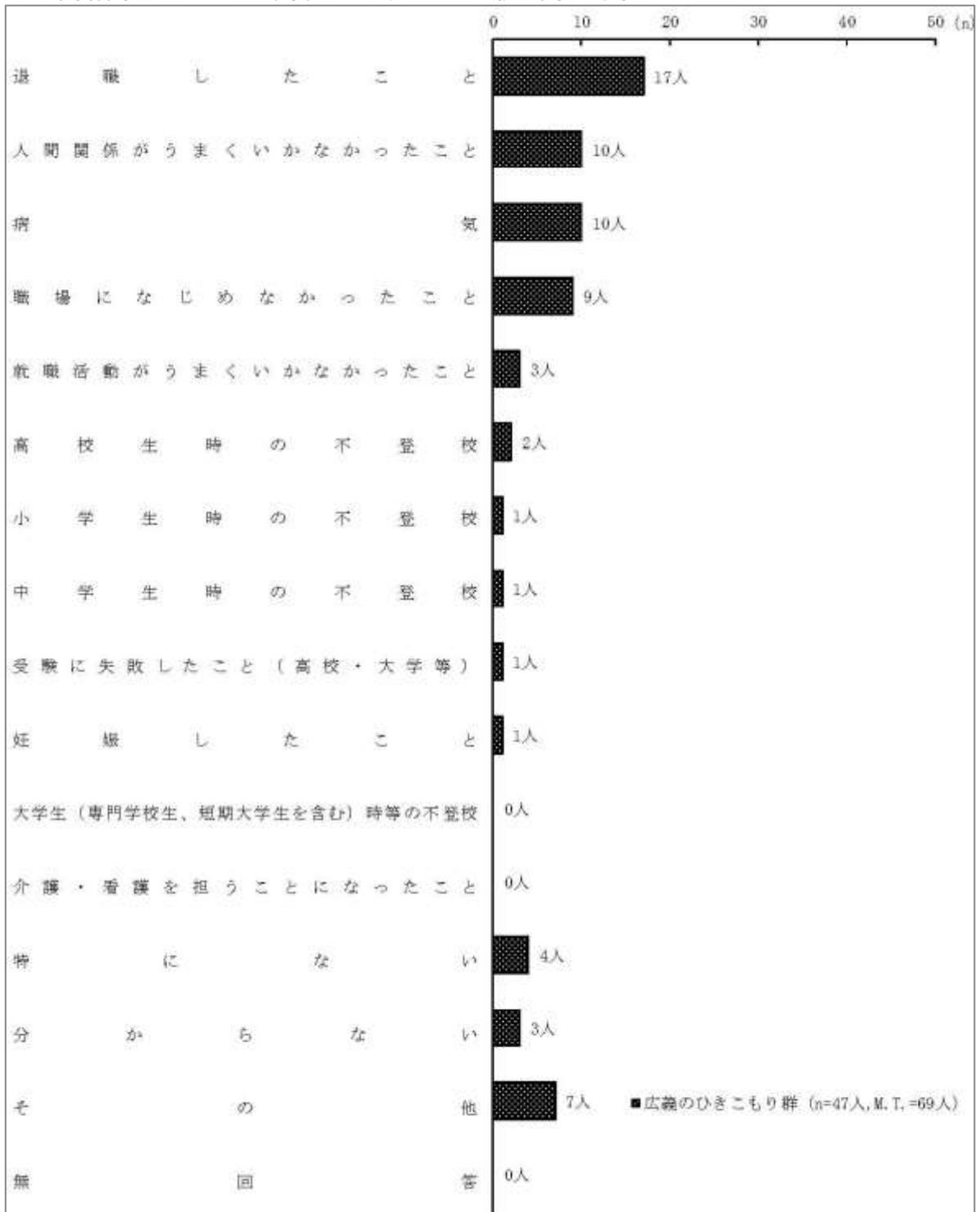
※Q 2 1 ふだんの外出状況に関する設問で「5～8」の趣味や近所への外出又は家から出ないと選択した方のみ回答

- 大田区のひきこもり群は「退職したこと」が最も多い。
- 内閣府調査（平成 30 年度）のひきこもり群は「退職したこと」が、内閣府調査（平成 2 7 年度）では「不登校（小学校・中学校・高校）」「職場になじめなかった」が多い。
- 大田区では、内閣府調査（平成 30 年度）と同様の傾向にある。

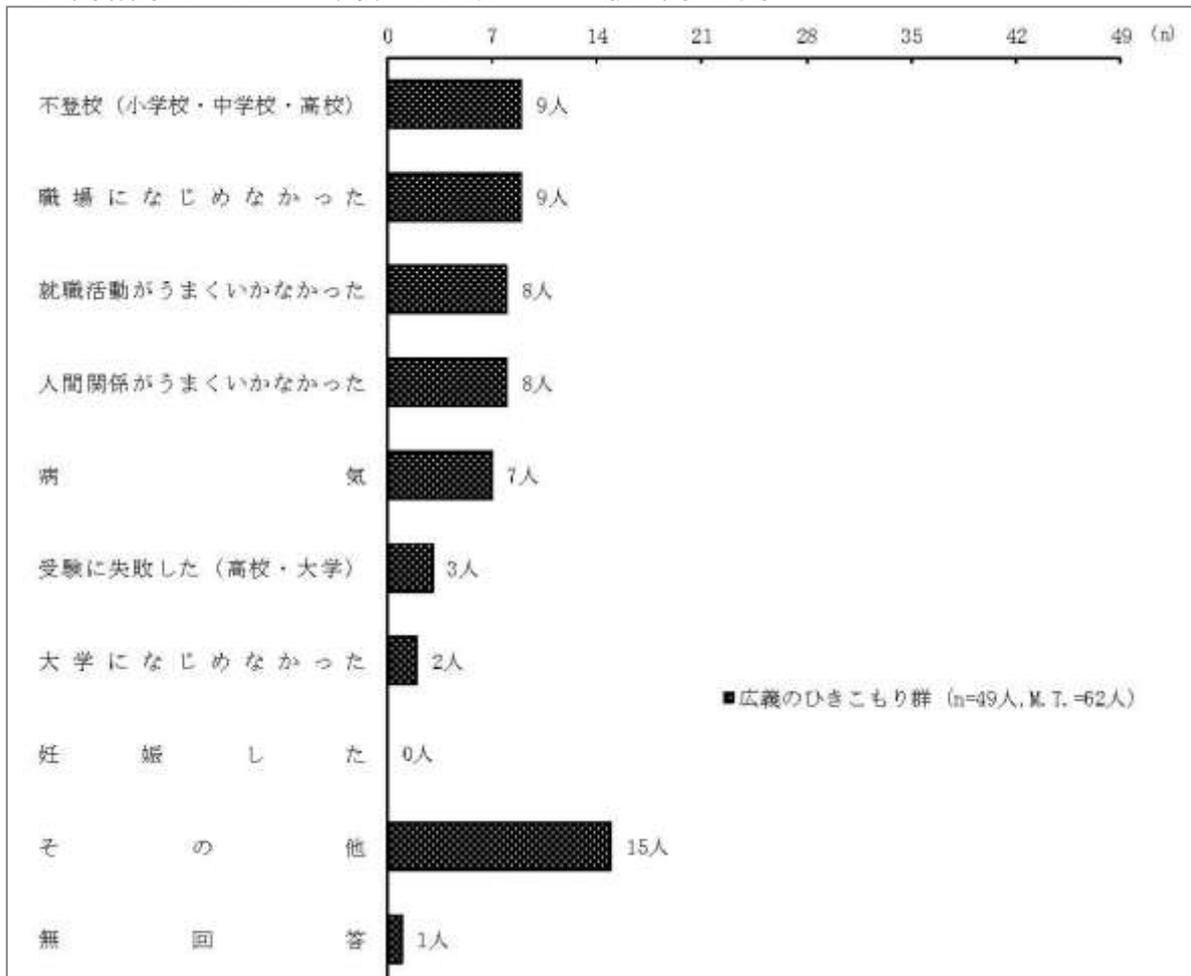
<大田区調査> ※満 15～64 歳が調査対象



<内閣府調査（平成30年度）> ※満40～64歳が調査対象



<内閣府調査（平成 27 年度）> ※満 15～39 歳が調査対象

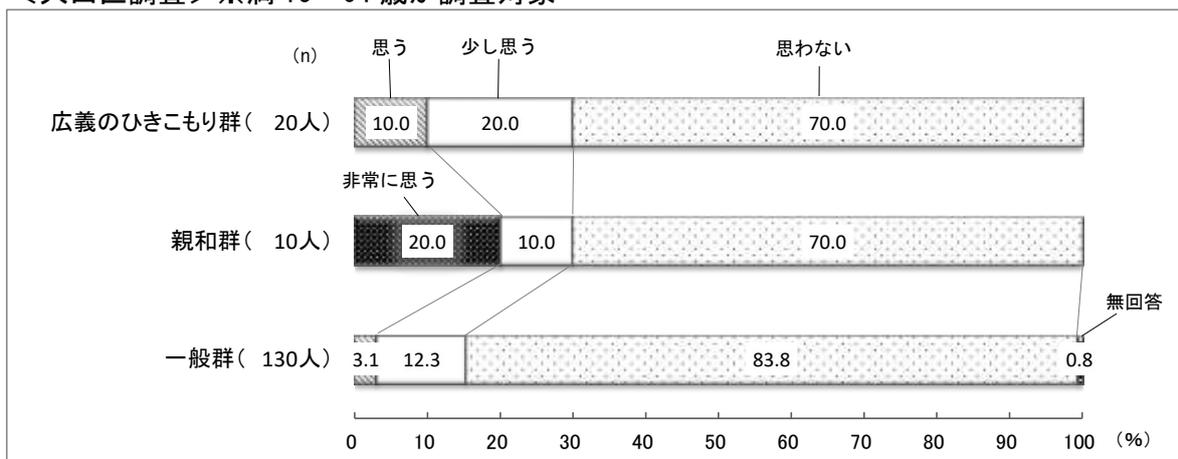


Q 2 7 現在の状態について、関係機関に相談したいと思いませんか。(単一回答)

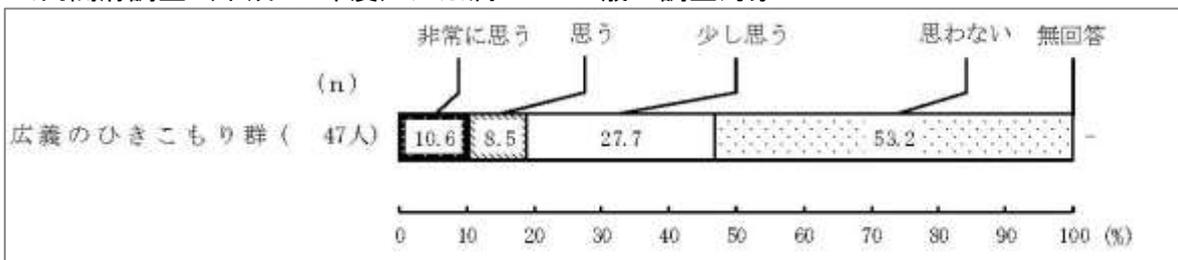
※Q 2 1 ふだんの外出状況に関する設問で「5～8」の趣味や近所への外出又は家から出ないと選択した方のみ回答

- 大田区のひきこもり群は「思わない」が70.0%となっている。
- 内閣府調査（平成30・27年度）のひきこもり群は「思わない」の割合が高い。
- 大田区では、内閣府調査（平成30・27年度）と同様の傾向にあるが、「思う」「少し思う」を合わせて3割の方が相談を希望している。

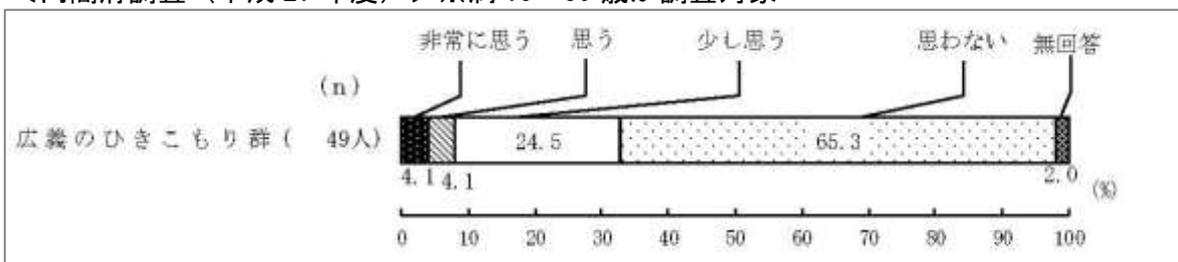
＜大田区調査＞※満15～64歳が調査対象



＜内閣府調査（平成30年度）＞※満40～64歳が調査対象



＜内閣府調査（平成27年度）＞※満15～39歳が調査対象

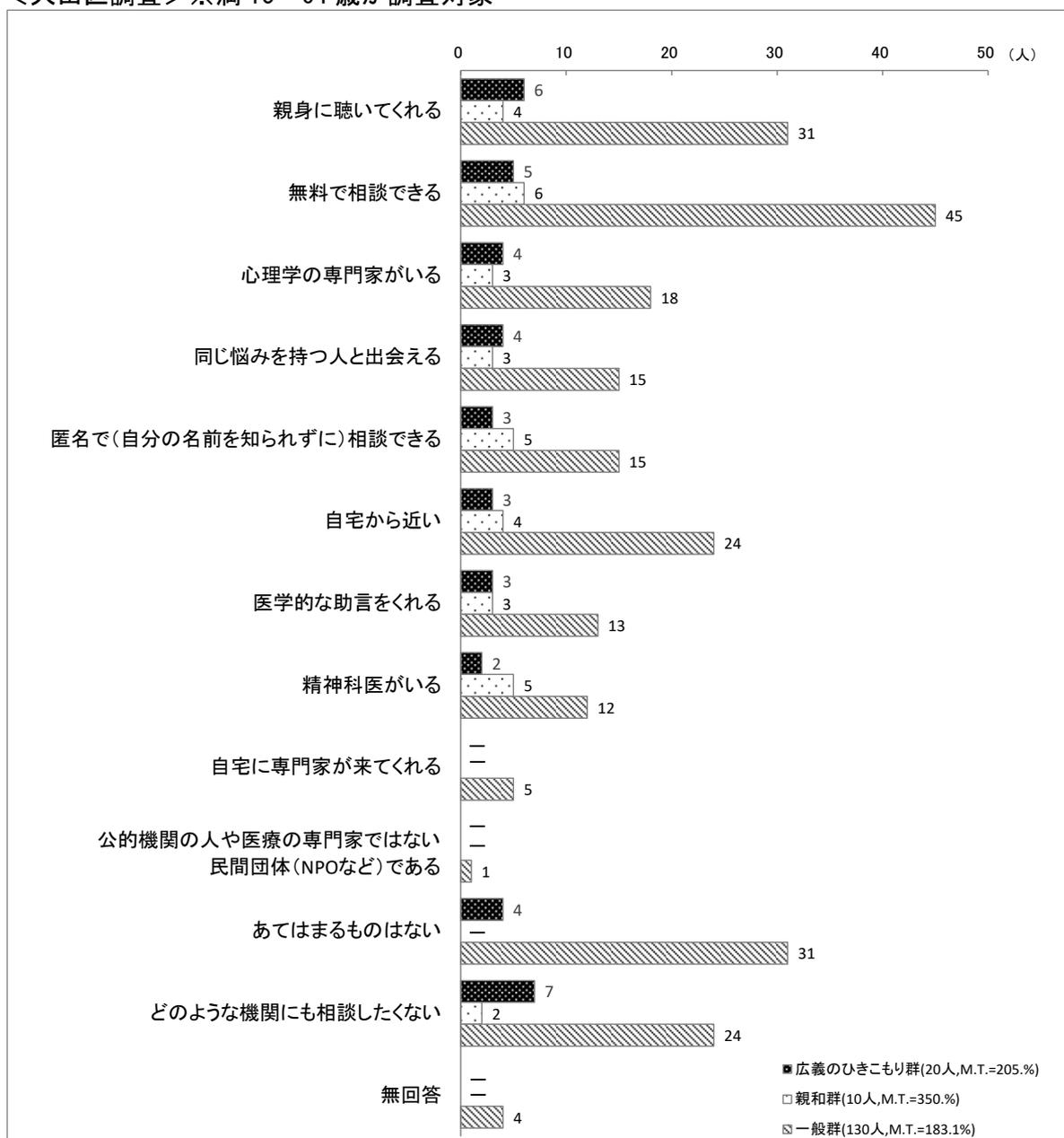


Q 2 8 現在の状態について、関係機関に相談するとすれば、どのような機関なら、相談したいと思いますか。(複数回答)

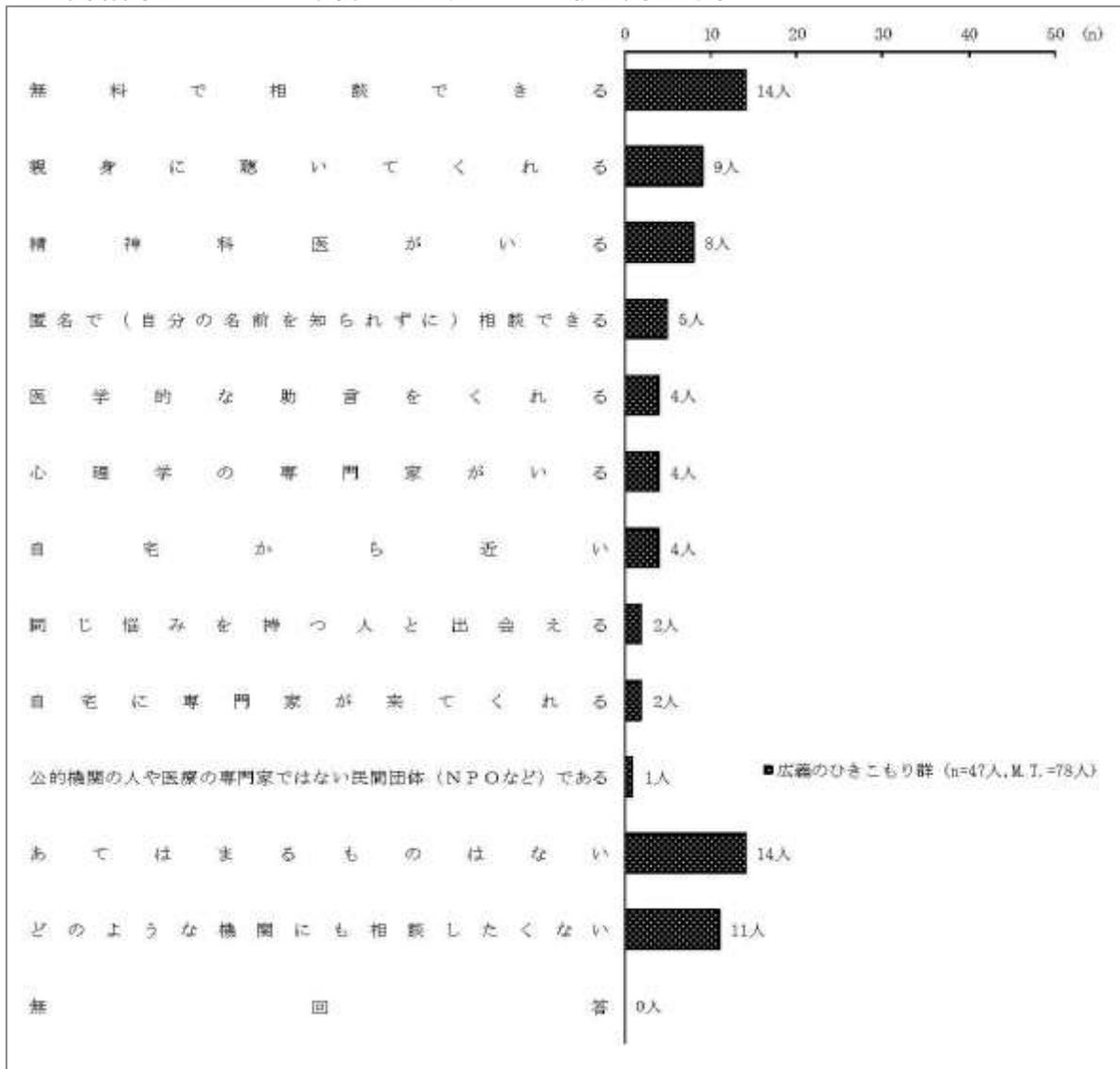
※Q 2 1 ふだんの外出状況に関する設問で「5～8」の趣味や近所への外出又は家から出ないと選択した方のみ回答

- ・大田区のひきこもり群は「親身に聴いてくれる」「無料で相談できる」の順に回答が多い。
- ・内閣府調査（平成 30・27 年度）のひきこもり群は「無料で相談できる」「親身に聴いてくれる」が上位となっている。
- ・大田区では、内閣府調査（平成 30・27 年度）と同様に「親身に聴いてくれる」「無料で相談できる」の回答が上位にみられ、気兼ねなく相談できる場を求めていることがうかがえる。

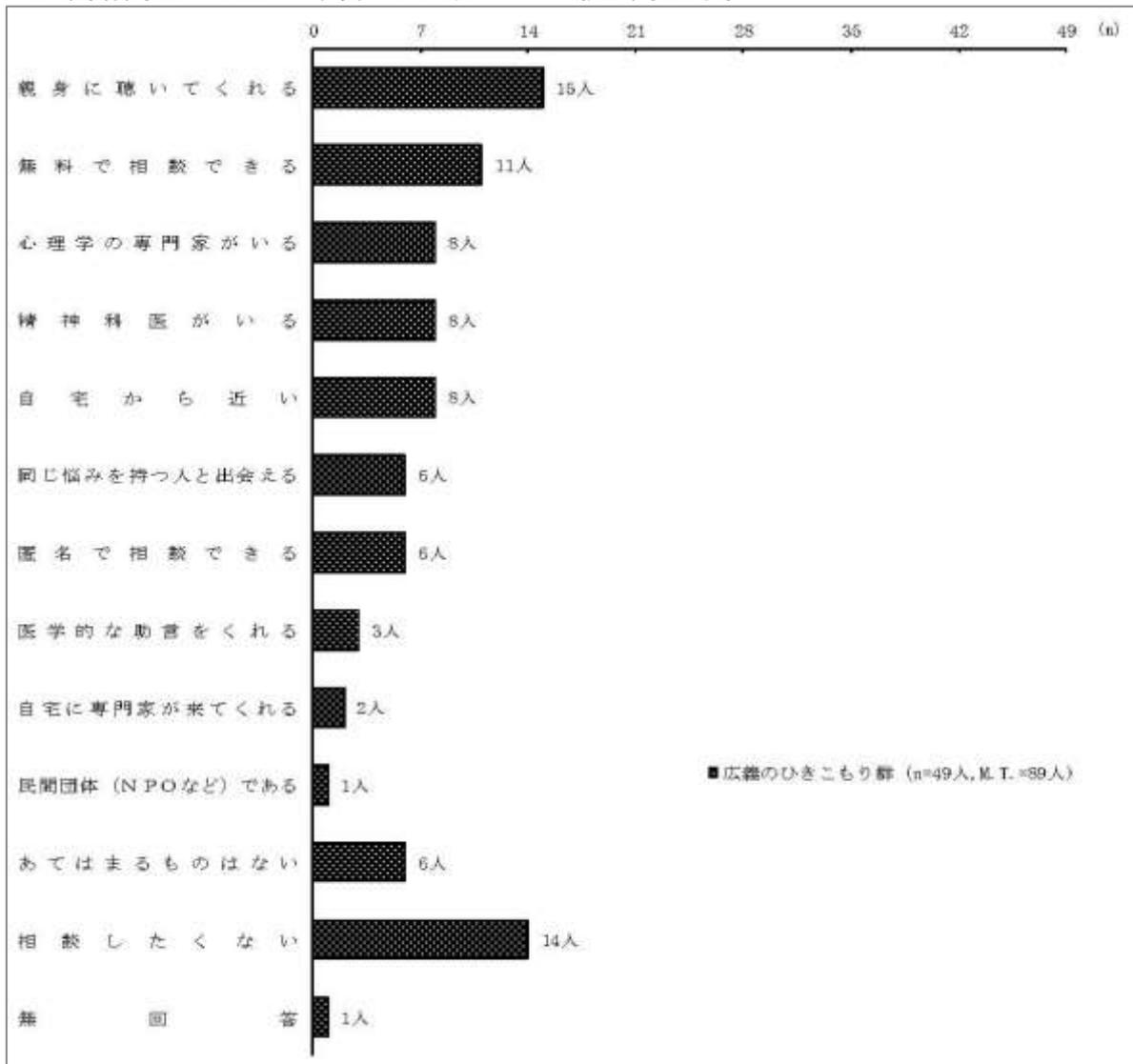
＜大田区調査＞※満 15～64 歳が調査対象



<内閣府調査（平成30年度）> ※満40～64歳が調査対象



<内閣府調査（平成 27 年度）> ※満 15～39 歳が調査対象

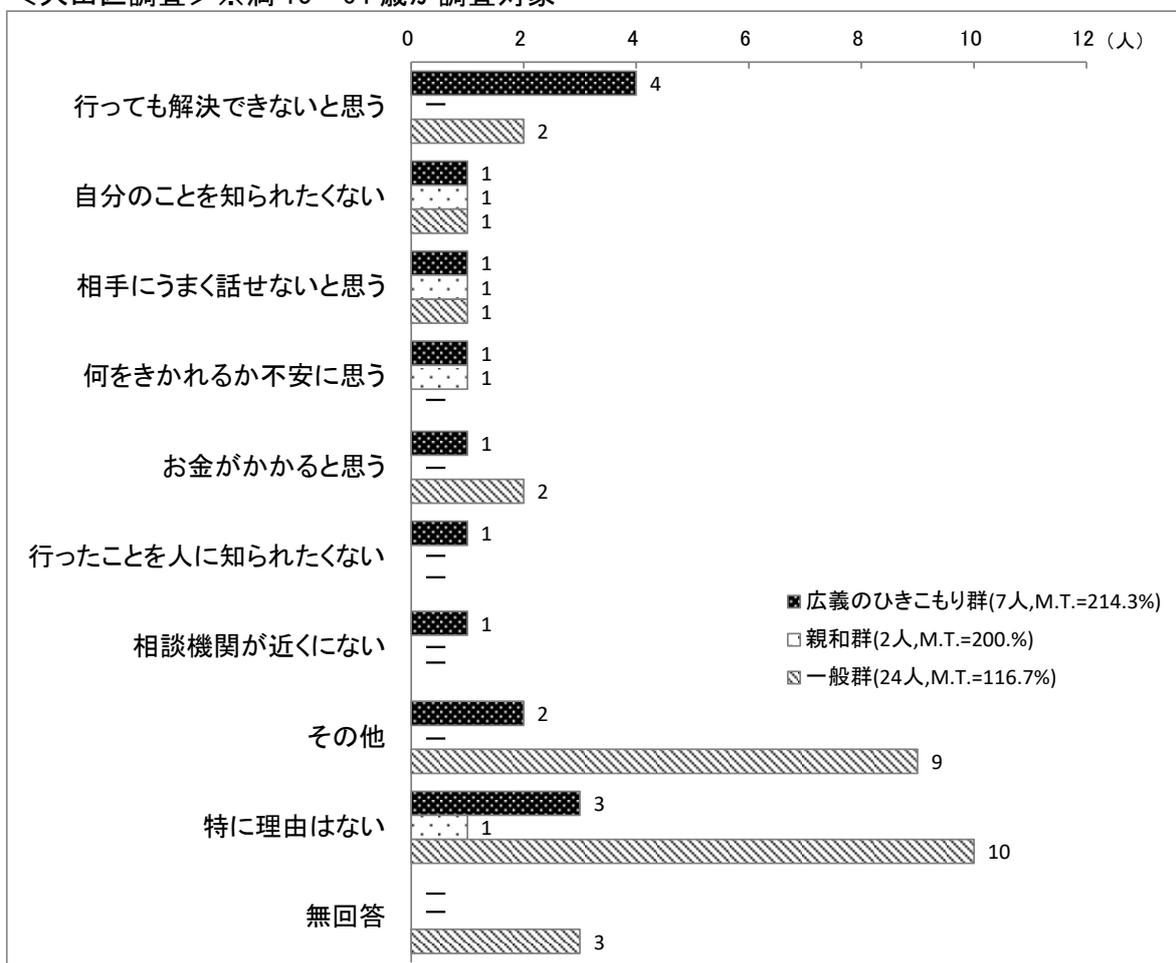


Q 2 9 相談したくないと思う理由は何ですか。(複数回答)

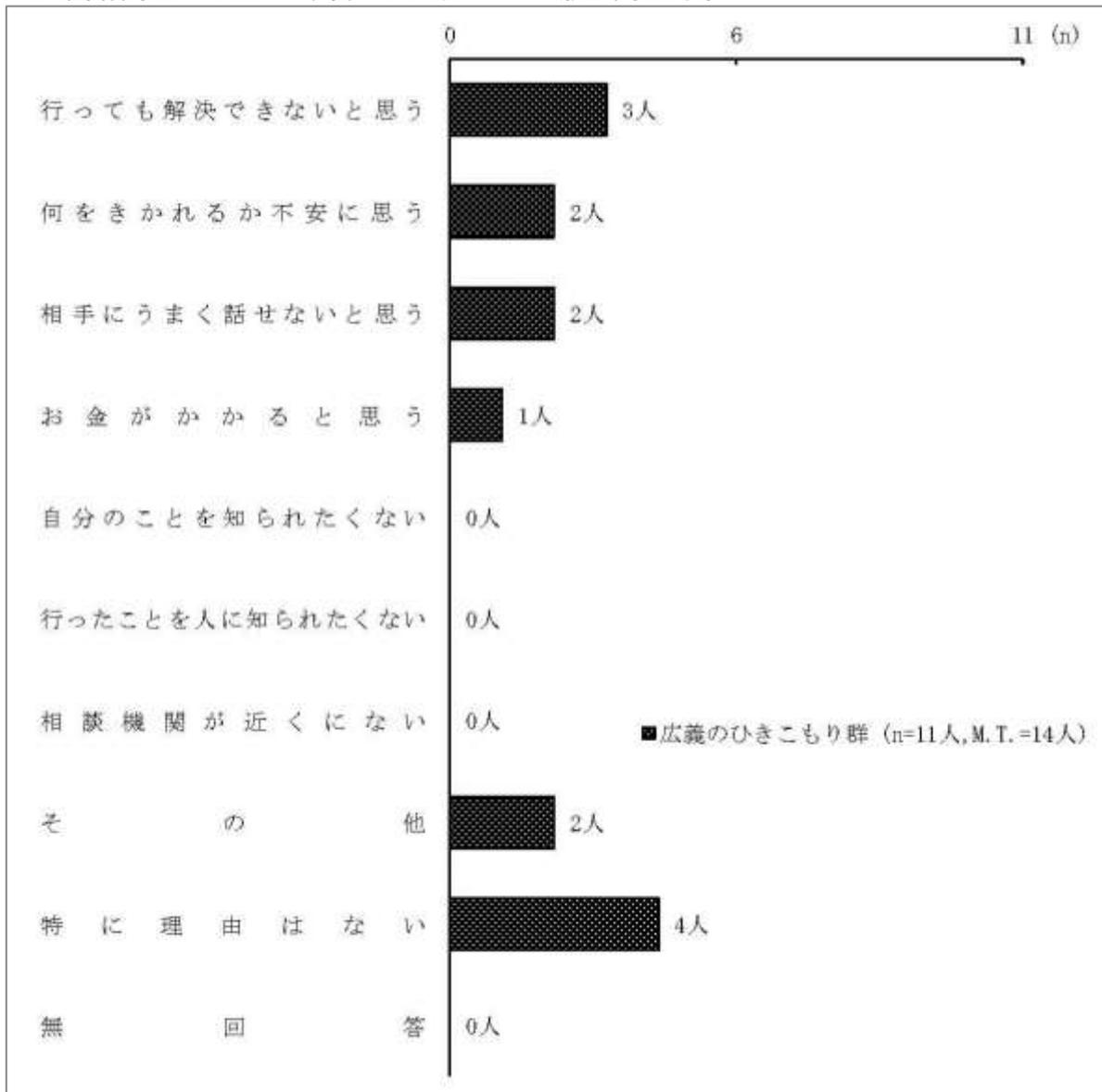
※Q 2 1 ふだんの外出状況に関する設問で「5～8」の趣味や近所への外出又は家から出ないと選択した方かつ、Q 2 8 現在の状態について、どのような関係機関に相談したいかという設問で「12」のどのような機関にも相談したくないと選択した方のみ回答

- 大田区のひきこもり群は「行っても解決できないと思う」が最も多いが、「相手にうまく話せないと思う」「何をきかれるか不安に思う」との回答もみられる。
- 内閣府調査（平成 30 年度）のひきこもり群は「行っても解決できないと思う」が、内閣府調査（平成 27 年度）では「相手にうまく話せないと思う」が最も多い。
- 大田区では、内閣府調査（平成 30 年度）と同様の傾向にあり、相談への不安に関する回答をする方もおり、安心して相談できる場所や方法を求めていることがうかがえる。

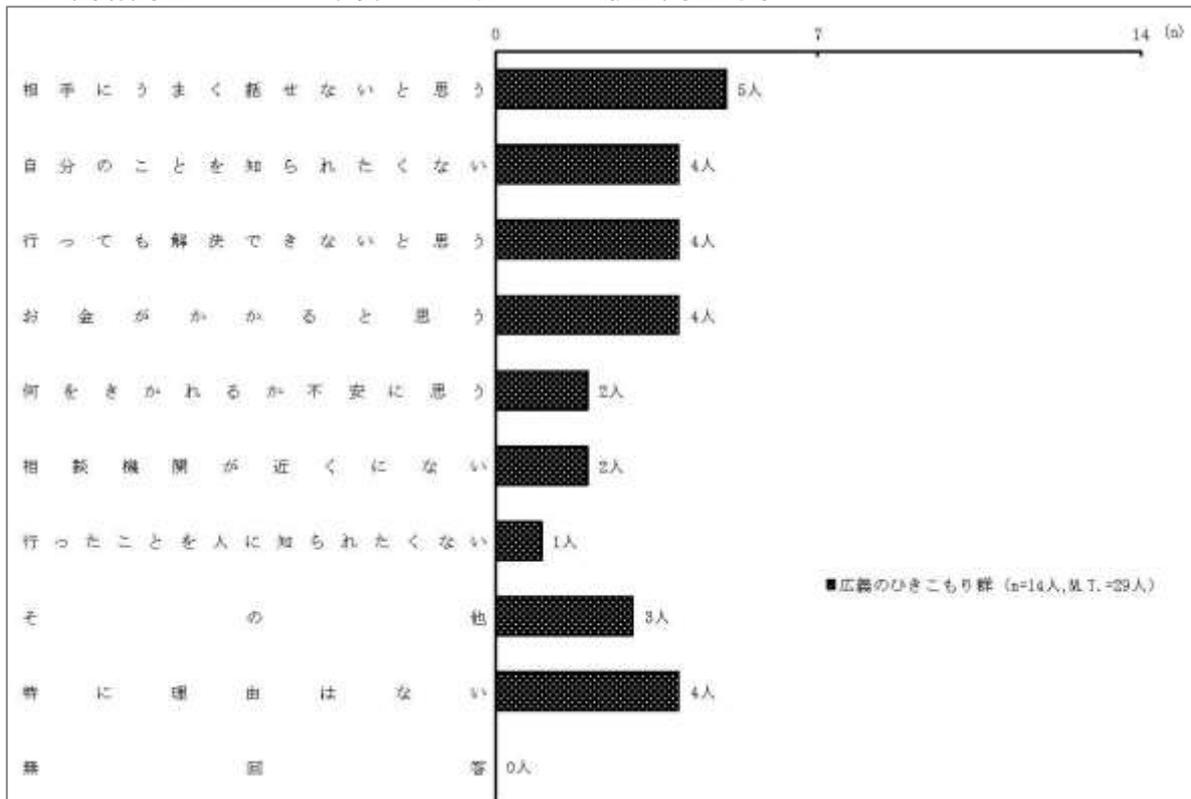
<大田区調査>※満 15～64 歳が調査対象



<内閣府調査（平成30年度）> ※満40～64歳が調査対象



<内閣府調査（平成 27 年度）> ※満 15～39 歳が調査対象

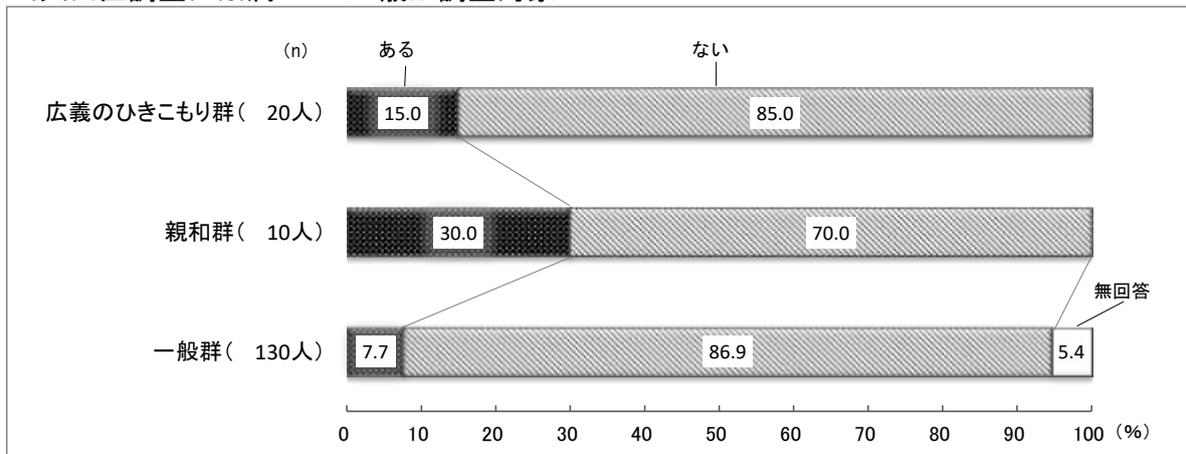


Q30 現在の状態について、関係機関に相談したことはありますか。(単一回答)

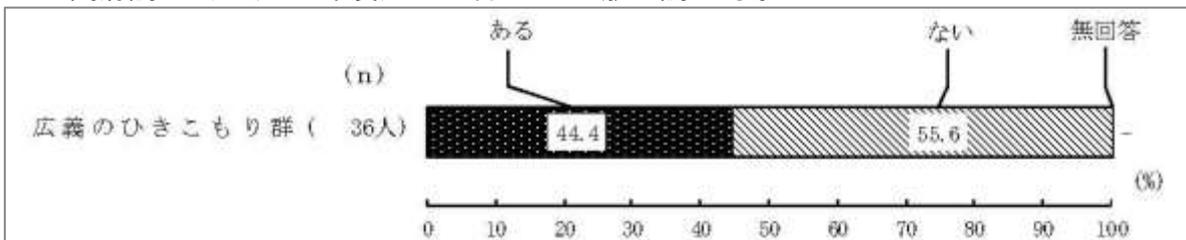
※Q21ふだんの外出状況に関する設問で「5～8」の趣味や近所への外出又は家から出ないと選択した方のみ回答

- ・大田区のひきこもり群は「ない」が85.0%となっている。
- ・内閣府調査（平成30・27年度）のひきこもり群は「ない」が概ね6割程度となっている。
- ・大田区では、内閣府調査（平成30・27年度）と比べて相談したことがない割合が高いが、一方、「ある」との回答もあり、当事者の状況によって相談につながっていることがうかがえる。

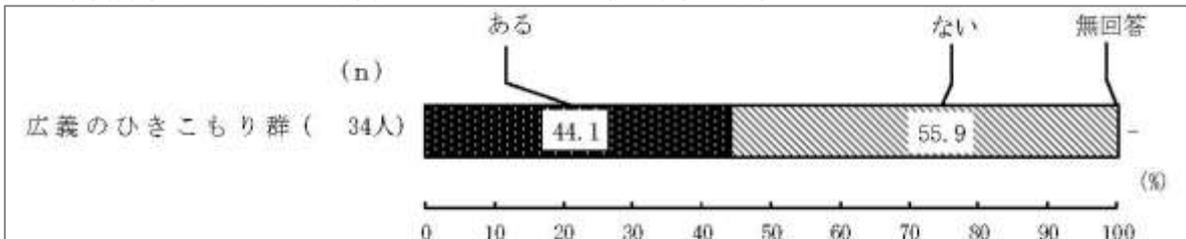
＜大田区調査＞※満15～64歳が調査対象



＜内閣府調査（平成30年度）＞※満40～64歳が調査対象



＜内閣府調査（平成27年度）＞※満15～39歳が調査対象

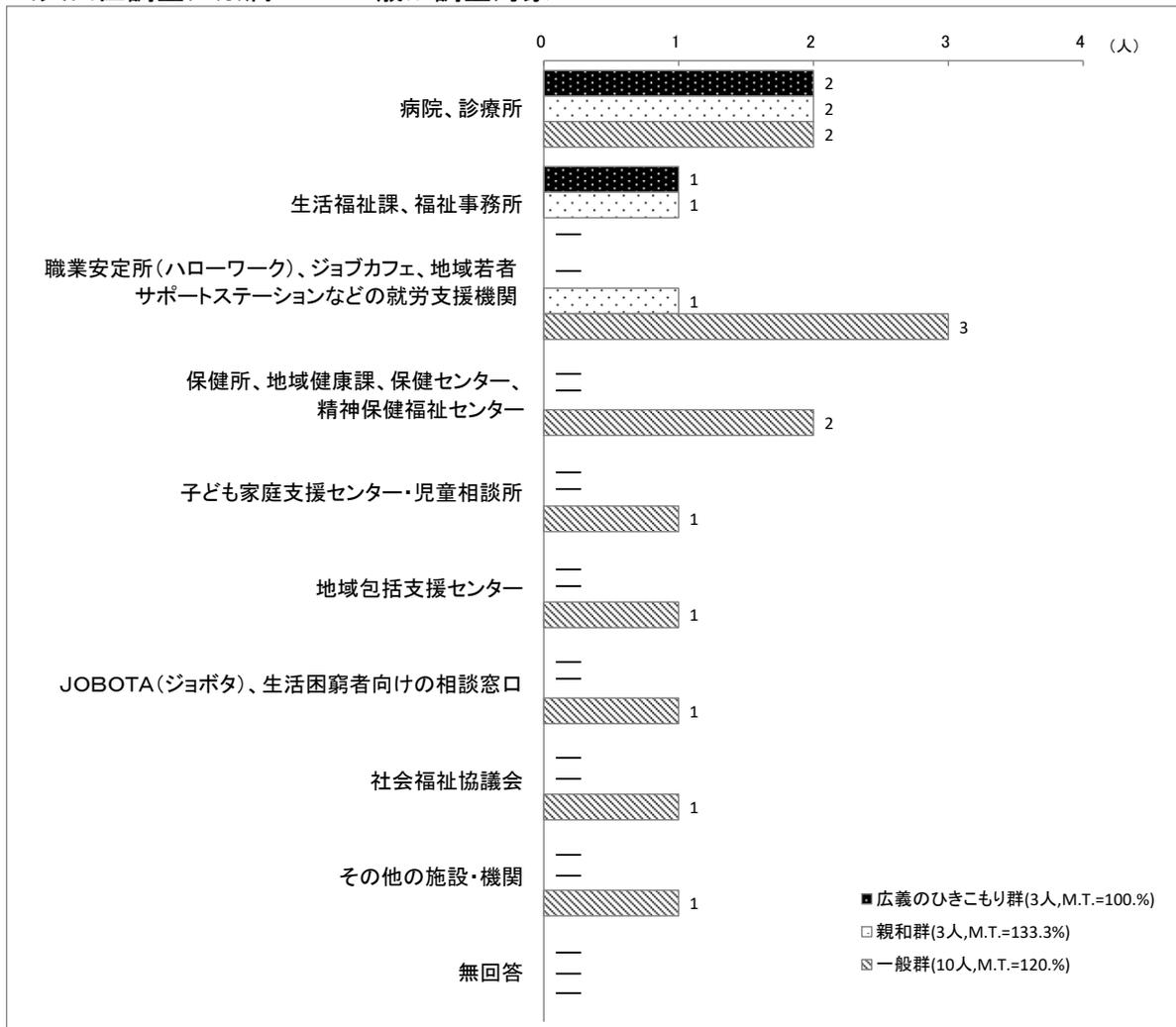


Q 3 1 どのような相談機関等に相談しましたか。相談したことのある機関に○をつけてください。  
 (複数回答)

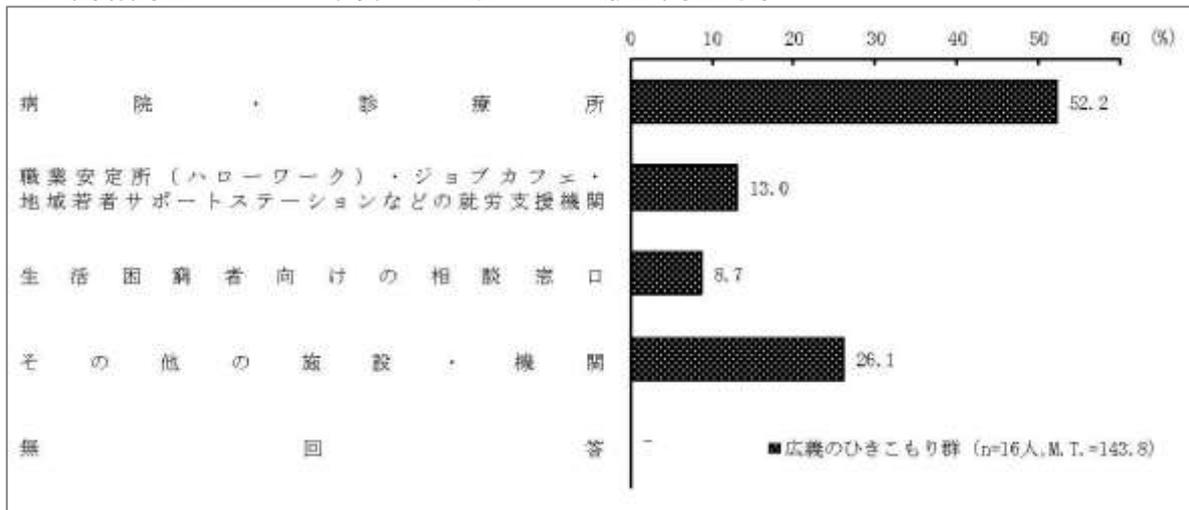
※Q 2 1 ふだんの外出状況に関する設問で「5～8」の趣味や近所への外出又は家から出ないと選択した方かつ、Q 3 0 現在の状態について関係機関への相談の有無に関する設問で「1」のあると選択した方のみ回答

- ・大田区のひきこもり群、親和群では「病院」「福祉事務所」「就労支援機関」の回答がみられた。心身の不調や生活困窮の悩みが相談のきっかけとなっていることがうかがえる。

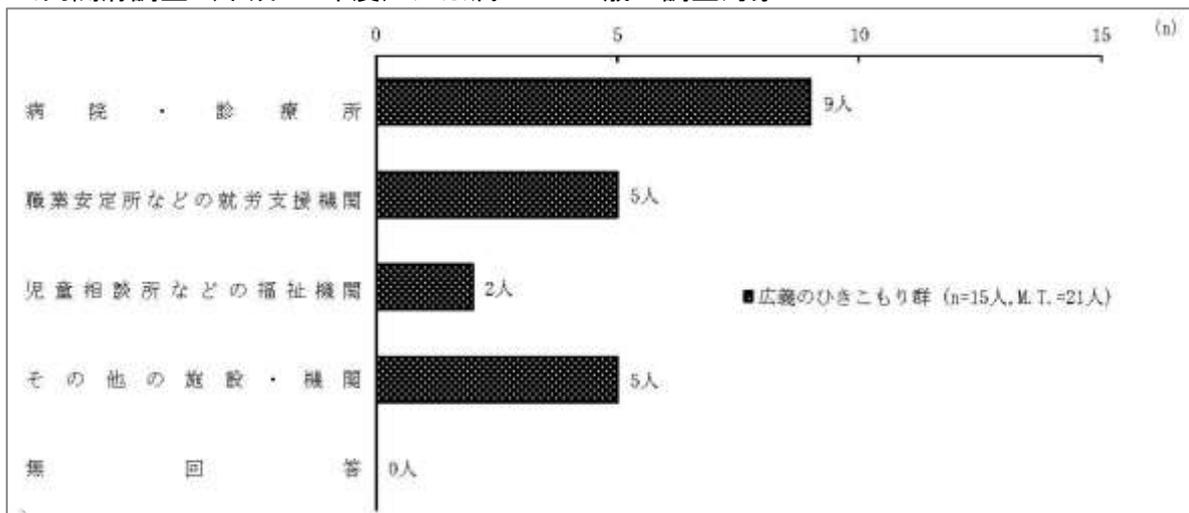
＜大田区調査＞※満 15～64 歳が調査対象



<内閣府調査（平成 30 年度）> ※満 40～64 歳が調査対象



<内閣府調査（平成 27 年度）> ※満 15～39 歳が調査対象



Q 3 2 相談機関に相談した結果について、どのようにお考えですか。ご自由にお書きください。

※Q 2 1 ふだんの外出状況に関する設問で「5～8」の趣味や近所への外出又は家から出ないと選択した方かつ、Q 3 0 現在の状態について関係機関への相談の有無に関する設問で「1」のあると選択した方のみ回答

- 相談した結果について、「良い方向に向かっている」「不安を感じている」との回答が多くみられた。

<大田区調査> ※満 15～64 歳が調査対象

記述概要	回答数
良い方向に向かっている	6
不安を感じている	5
特に変わりはない	1
コロナにより通院を中止した	1
	13

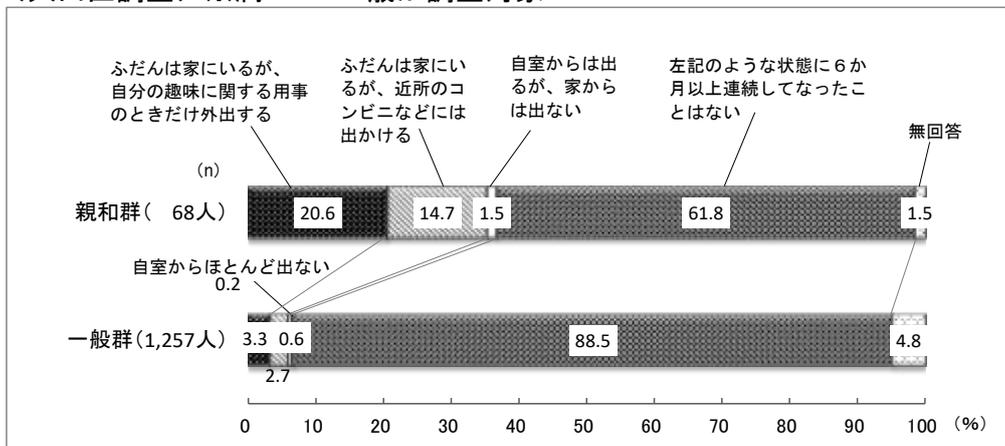
■ 過去の生活について

Q 3 3 あなたは今までに6か月以上連続して、以下のような状態になったことはありますか。(単一回答)

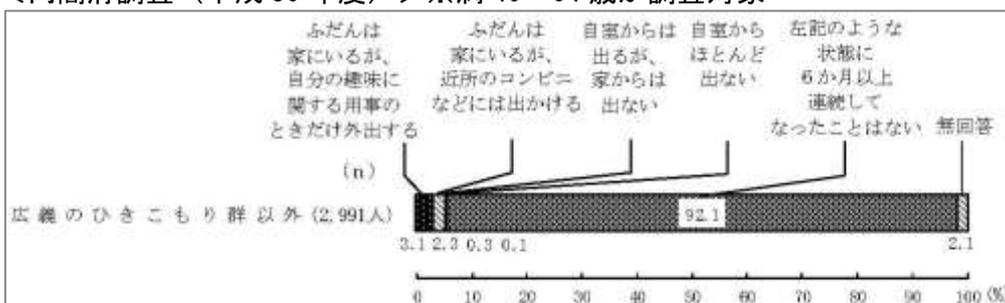
※Q 2 1 ふだんの外出状況に関する設問で「1～4」の平日は仕事や学校で外出する又は人づきあいのためときどき外出すると選択した方のみ回答

- ・大田区のひきこもり群は該当者なし。
- ・親和群は「左記のような状態に6ヶ月以上連続してなったことはない」が61.8%となっている。
- ・大田区の親和群では、内閣府調査（平成27年度）と比べて、外出機会が限定的だった方の割合は高い傾向にある。

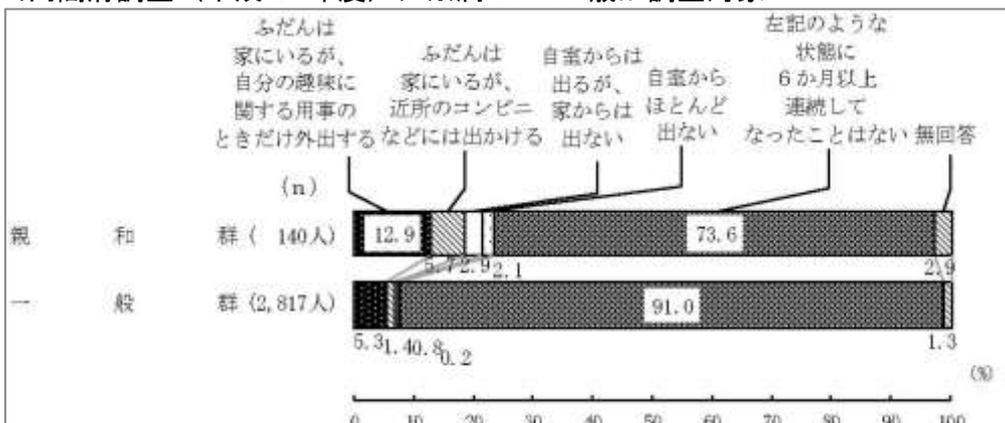
<大田区調査> ※満15～64歳が調査対象



<内閣府調査（平成30年度）> ※満40～64歳が調査対象



<内閣府調査（平成27年度）> ※満15～39歳が調査対象

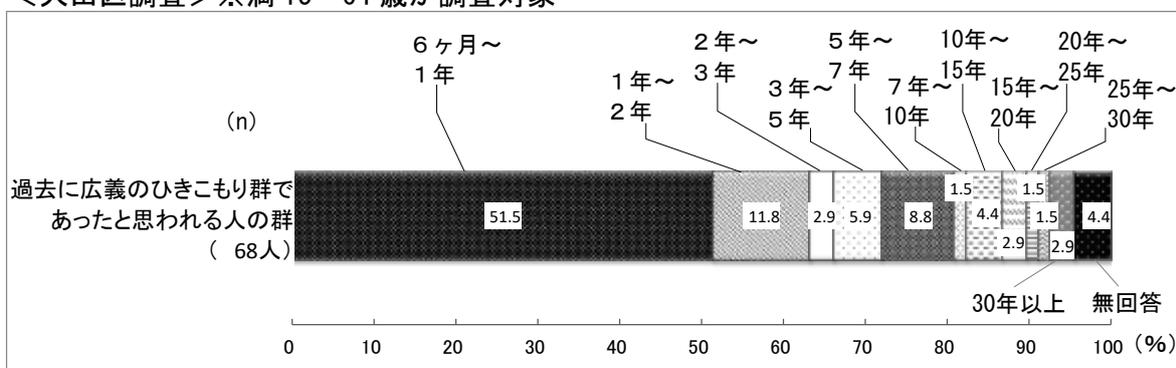


Q 3 4 その状態はどれくらい続きましたか。(単一回答)

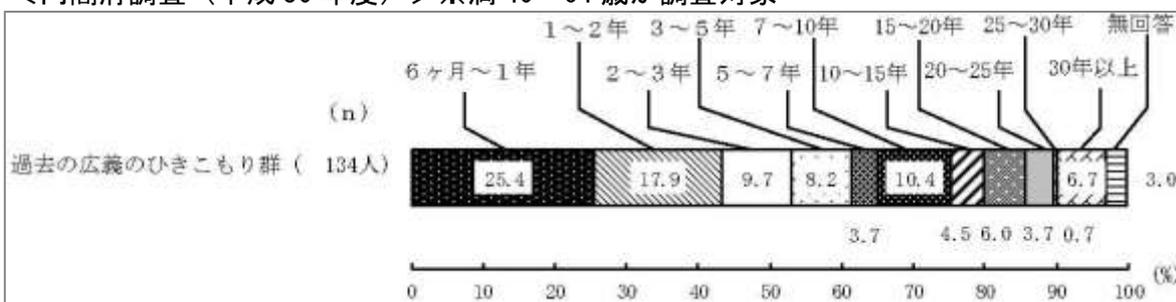
※Q 2 1 ふだんの外出状況に関する設問で「1～4」の平日は仕事や学校で外出する又は人づきあいのためときどき外出すると選択した方かつ、Q 3 3 過去の外出状況に関する設問で「1～4」の6か月以上連続して趣味や近所への外出又は家から出ないと選択した方のみ回答

- 大田区の過去に広義のひきこもり群であったと思われる人の群（以下、「過去の広義のひきこもり群」という。）は「6ヶ月～1年」が51.5%、「1年～2年」が11.8%となっている。
- 内閣府調査（平成 30・27 年度）の過去の広義のひきこもり群は「6ヶ月～1年」の割合が高い。
- 大田区では、内閣府調査（平成 30・27 年度）と比べて、「1年未満」が5割以上を占めており短期間の傾向にある。

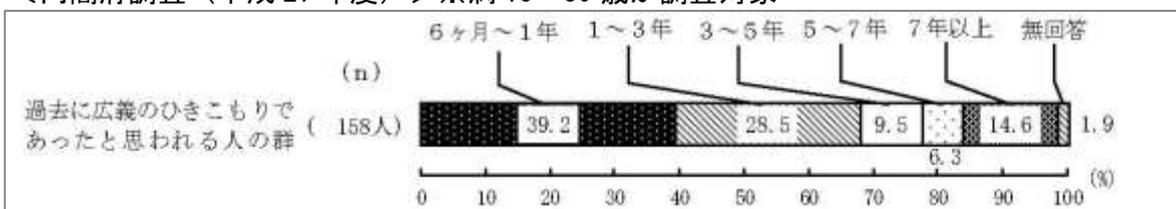
＜大田区調査＞※満 15～64 歳が調査対象



＜内閣府調査（平成 30 年度）＞※満 40～64 歳が調査対象



＜内閣府調査（平成 27 年度）＞※満 15～39 歳が調査対象

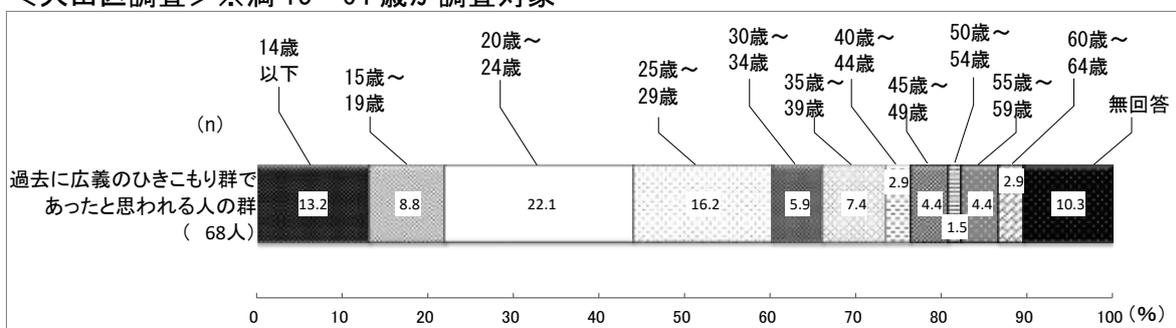


Q 3 5 初めてその状態になったのは、あなたが何歳の頃ですか。(数字で具体的に)

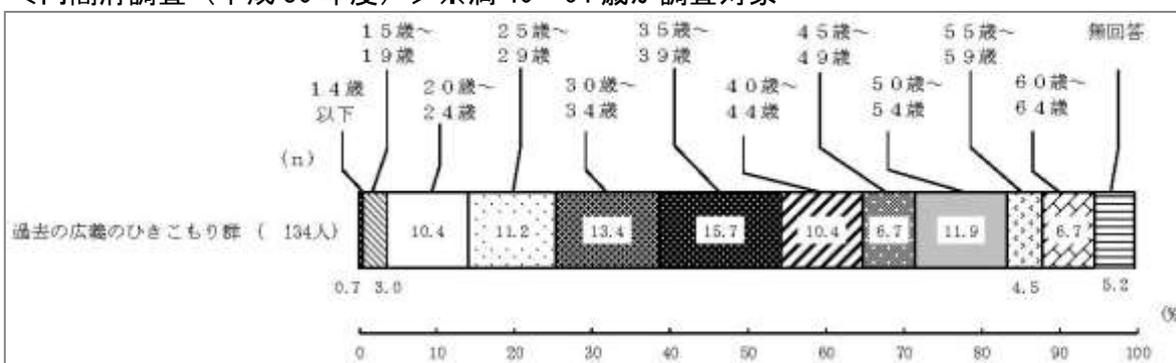
※Q 2 1 ふだんの外出状況に関する設問で「1～4」の平日は仕事や学校で外出する又は人づきあいのためときどき外出すると選択した方かつ、Q 3 3 過去の外出状況に関する設問で「1～4」の6か月以上連続して趣味や近所への外出又は家から出ないと選択した方のみ回答

- 大田区の過去の広義のひきこもり群は「20歳～24歳」が22.1%、「25歳～29歳」が16.2%となっている。
- 内閣府調査（平成30年度）の過去の広義のひきこもり群は「35歳～39歳」が、内閣府調査（平成27年度）では「15歳～19歳」の割合が高い。
- 大田区では、内閣府調査（平成30・27年度）と同様に、30歳未満の割合が高く6割を占めており、過去に外出頻度が限定的になったきっかけが若年の時期にあったことがうかがえる。

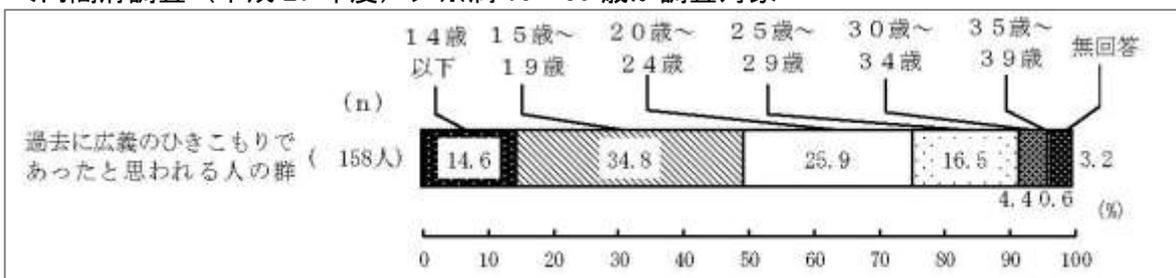
＜大田区調査＞※満15～64歳が調査対象



＜内閣府調査（平成30年度）＞※満40～64歳が調査対象



＜内閣府調査（平成27年度）＞※満15～39歳が調査対象

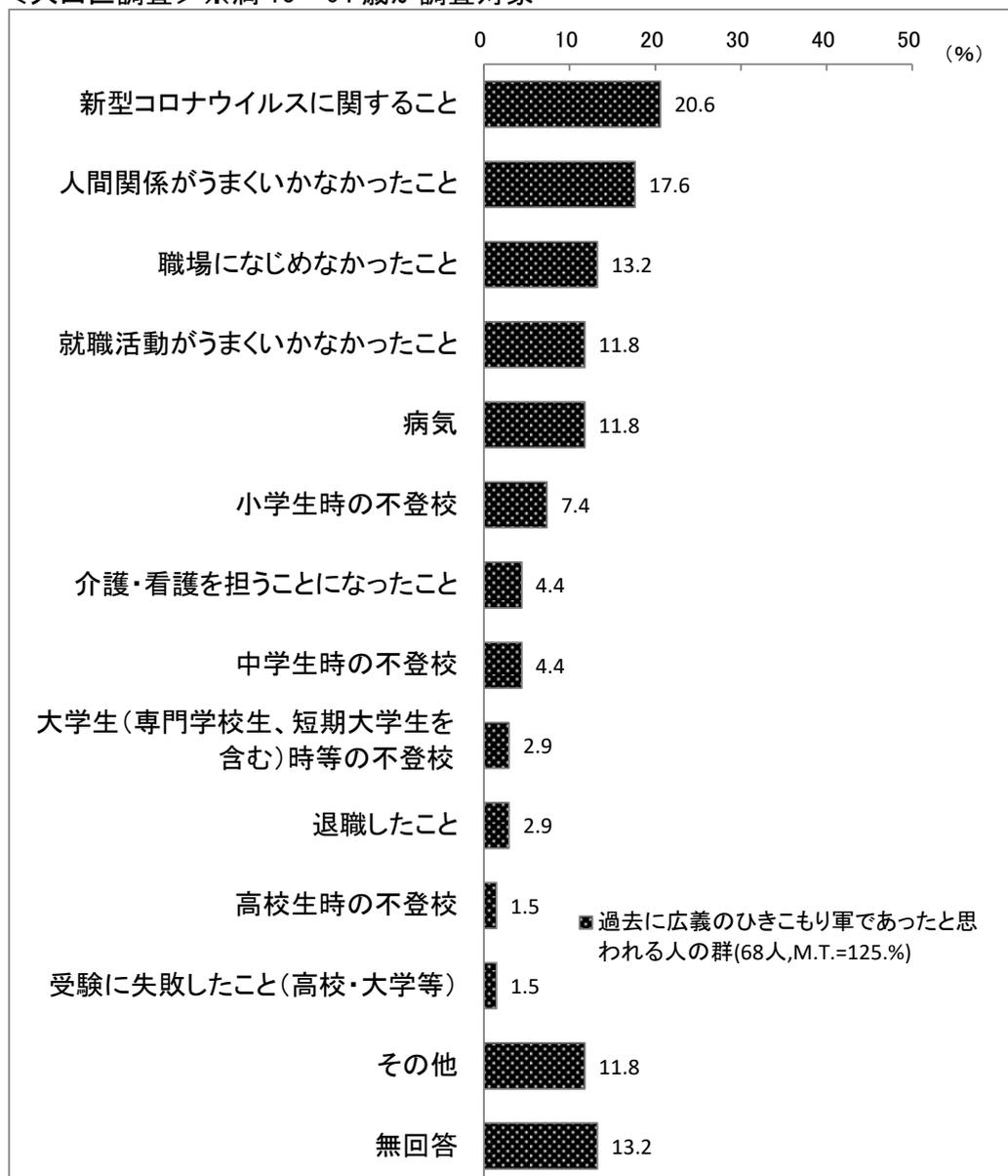


Q 3 6 その状態になったきっかけは何でしたか。(複数回答)

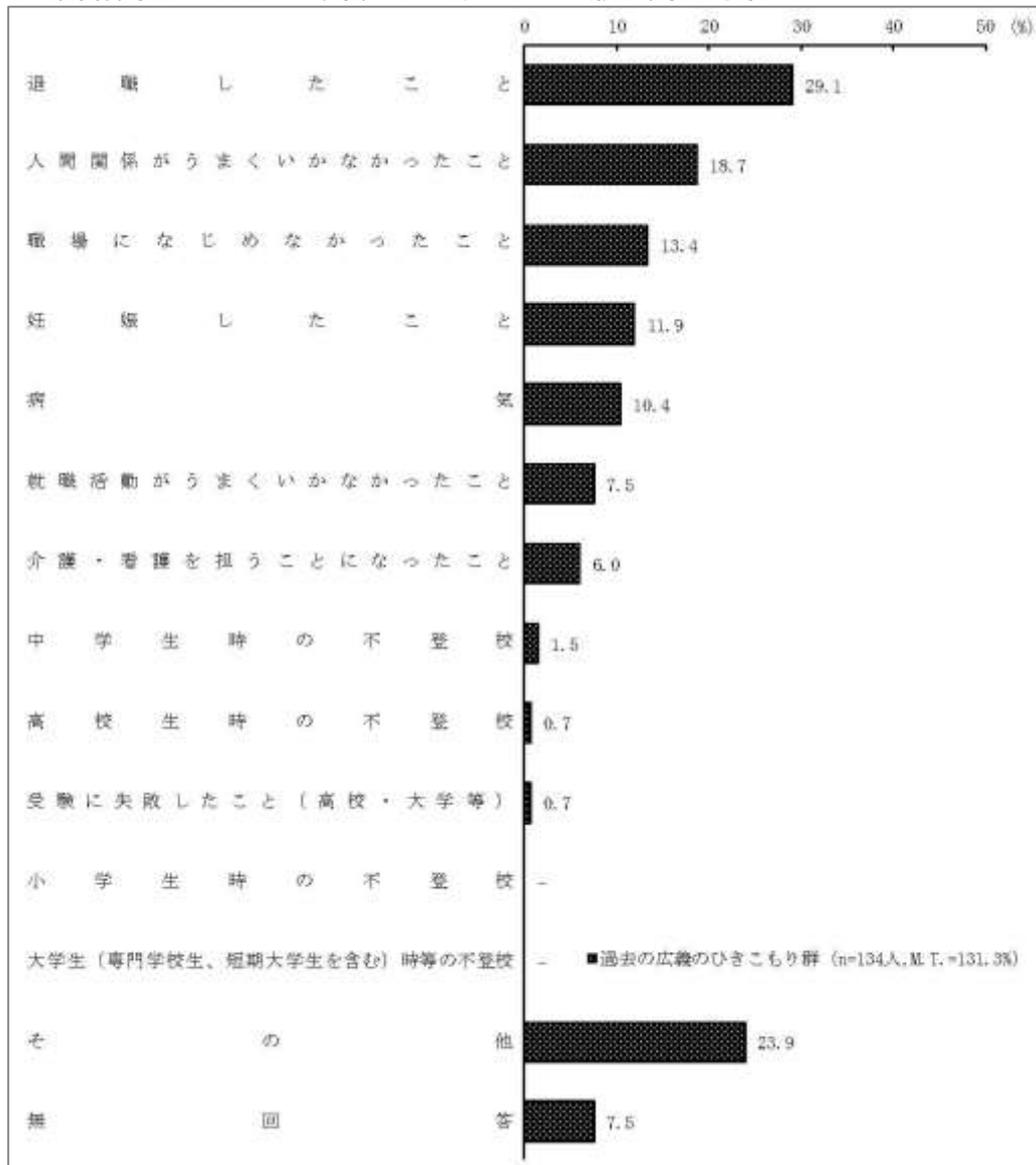
※Q 2 1 ふだんの外出状況に関する設問で「1～4」の平日は仕事や学校で外出する又は人づきあいのためときどき外出すると選択した方かつ、Q 3 3 過去の外出状況に関する設問で「1～4」の6か月以上連続して趣味や近所への外出又は家から出ないと選択した方のみ回答

- 大田区の過去の広義のひきこもり群は「新型コロナウイルスに関すること」が20.6%、「人間関係がうまくいかなかったこと」が17.6%となっている。また、不登校（小学生・中学生・高校生・大学生時）の割合が合わせて16.2%となっている。
- 内閣府調査（平成30年度）の過去の広義のひきこもり群は「退職したこと」が、内閣府調査（平成27年度）では「不登校（小学校・中学校・高校）」の割合が高い。
- 大田区では、内閣府調査（平成30年度）と比べて「退職したこと」の割合は低く、新型コロナウイルスの影響を除くと、人間関係や不登校等がきっかけとなっていることがうかがえる。

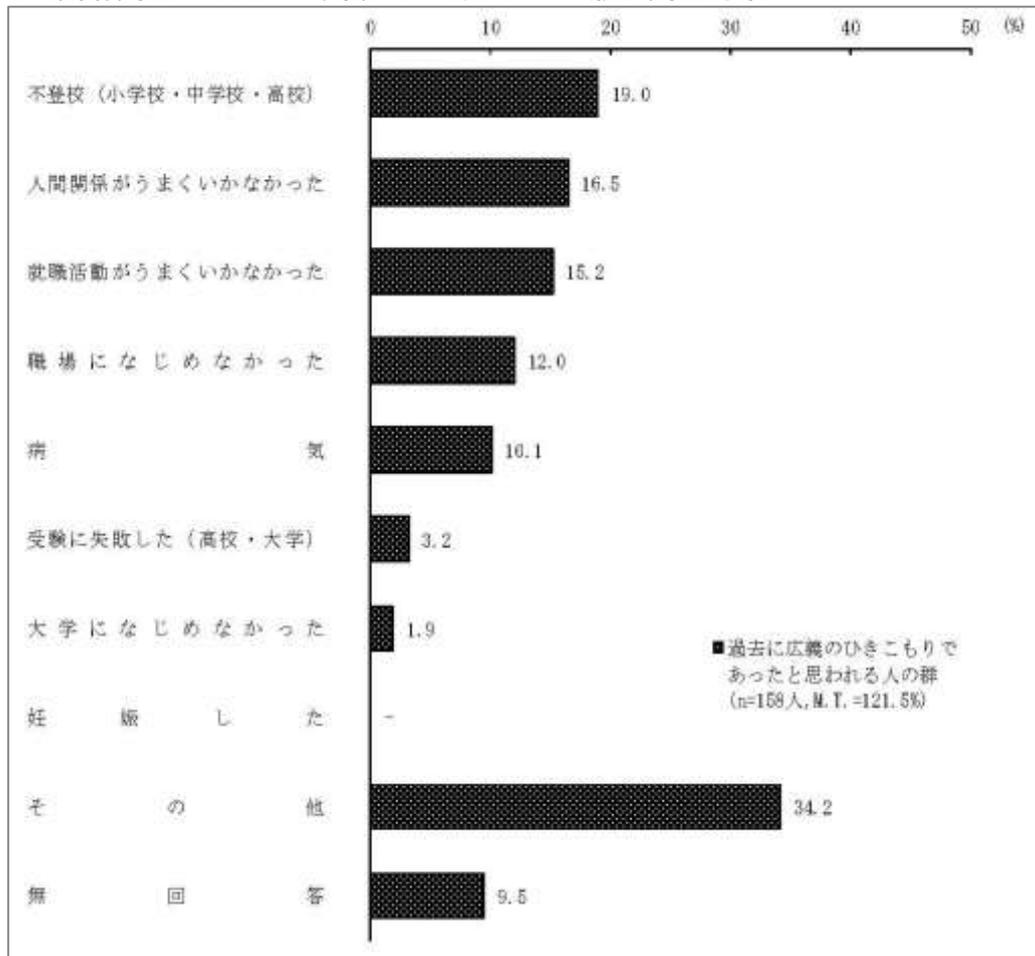
<大田区調査> ※満15～64歳が調査対象



<内閣府調査（平成30年度）> ※満40～64歳が調査対象



<内閣府調査（平成 27 年度）> ※満 15～39 歳が調査対象



Q 3 7 その状態から、Q 2 1 で回答した現在の状態になったきっかけや役立ったことは何だと思  
いますか。ご自由にお書きください。

※Q 2 1 ふだんの外出状況に関する設問で「1～4」の平日は仕事や学校で外出する又は人  
づきあいのためときどき外出すると選択した方かつ、Q 3 3 過去の外出状況に関する設問  
で「1～4」の6か月以上連続して趣味や近所への外出又は家から出ないと選択した方の  
み回答

- 改善に役立ったこと、きっかけとして、就職・仕事との回答が多かった。また、趣味・余暇活  
動や周囲とのコミュニケーションなど、きっかけは多岐にわたっている。

<大田区調査> ※満 15～64 歳が調査対象

記述概要		回答数
<改善のきっかけ、 役立ったこと>	就職・仕事	15
	趣味・余暇活動	5
	周囲とのコミュニケーション	4
	通院	3
	目標やスキル向上	2
	健康への取組	2
	周囲の助け・サポート	1
<外出しない状態に なったきっかけを 書いている人>	新型コロナウイルス感染症	3
	仕事の影響	3
その他		11
		49